

茨城県教育財団文化財調査報告第 32 集

石川西遺跡

茨城空港テクノパーク整備事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成 21 年 3 月

茨 城 県
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第 32 集

いし　　かわ　　にし
石 川 西 遺 跡

茨城空港テクノパーク整備事業地内
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書 II

平 成 21 年 3 月

茨 城 県
財 団 法 人 茨 城 県 教 育 財 団



遺跡遠景（北方上空から）



出土遺物

序

茨城県は、地域の航空需要に対応し、首都圏の航空需要の一翼を担う役割を果たすとともに、本県のさらなる発展を支える陸・海・空の広域交通ネットワークの形成を図るため、平成22年開港をめざし、百里飛行場の民間共有化事業を進めています。

その一環として、茨城県は、地域住民の方々の雇用拡大や企業誘致による地域活性化を図るため、臨空型の産業団地「茨城空港テクノパーク」の整備事業を計画しました。

しかしながら、この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である石川西遺跡が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が茨城県から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成18年4月から10月まで7か月にわたってこれを実施しました。

本書は、その調査成果を取録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに對し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、小美玉市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉節生

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年度に発掘調査を実施した、茨城県小美玉市下吉影字石川2192番15ほかにある石川西遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調査 平成18年4月1日～平成18年10月31日
整理 平成20年4月1日～平成20年12月31日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 川又 清明
主任調査員 荒崎克一郎
主任調査員 田月 淳一 平成18年4月1日～平成18年7月31日
主任調査員 照山 大作
主任調査員 小川 貴行
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、主任調査員小川貴行が担当した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第K系座標に準拠し、X軸 = +21,200m、Y軸 = +53,400mの交点を基準点(A1a1)とした。なお、地区設定にあたっては、事業予定地内の遺跡全体を包括できるようにした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」「B2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構	S1-住居跡	SD-溝跡	SE-井戸跡	SK-土坑	P-柱穴	F-炉跡
遺物	P-土器	TP-拓本記録土器	DP-土製品	Q-石器・石製品	M-金属製品	
土層	K-攪乱					

- 3 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 4 遺構及び遺物実測図の掲載方法については次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は40分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。
- (2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	火床面		炉・繊維土器断面		
	土器		土製品		石器・石製品

- 5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については次のとおりである。

- (1) 計測値の()内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m、cm、gで示した。大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に単位を表示した。
- (2) 備考欄は、土器の現存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号については、土器、拓本のみ記載の土器片、土製品、石器・石製品、金属製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号も同一とした。

- 6 竪穴住居跡の「主軸」は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例 N-10°-E)。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	11
(2) 土坑	46
(3) ビット	141
(4) 炉跡	144
(5) 遺物包含層	145
(6) 遺構外出土遺物	157
2 その他の遺構と遺物	168
(1) 溝跡	168
(2) 井戸跡	170
(3) 土坑	172
(4) ビット	177
(5) 遺構外出土遺物	177
第4節 まとめ	178
写真図版	
抄録	
付図	

石川西遺跡の概要

【調査のあらまし】

石川西遺跡は、小美玉市（旧小川町）の巴川に面する台地上に位置しています。平成22年開港予定の茨城空港にあわせて整備されているテクノパークの予定地に縄文時代の集落跡が見つかりました。工事が行われる前に発掘調査が行われ、図面や写真などで遺跡の内容を記録をしました。

【調査の内容】



表面の土を取り去った後、火山灰の土を薄くけずっていくと、住居の跡や穴が見えてきます。



石でまわりを囲った炉（火をたくところ）のある縄文時代の住居跡。他に土器をうめた炉も見つかりました。



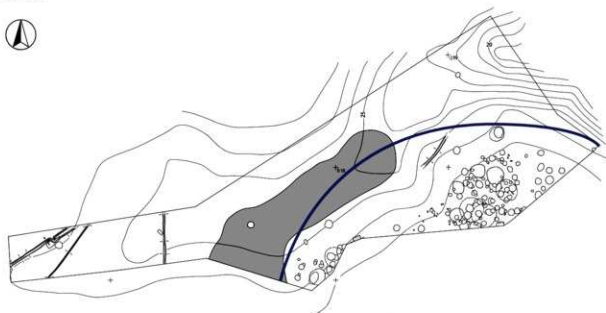
フラスコ状の形をしている縄文時代の穴。木の実などを保存するために掘られたと考えられています。



縄文土器がこのような状態で出てきました。土器は捨てられたのでしょうか？置かれていたのでしょうか？

【調査で分かったこと】

調査の結果、石川西遺跡は縄文時代中期（今から4,500年ほど前）の集落跡であることが分かりました。堅穴住居跡は15軒見つかり、石で作った炉や土器をうめて作った炉など、色々なタイプの炉が作られていることも分かりました。またこの頃のムラはドーナツ状に住居が作られる環状集落が多くあります。石川西遺跡も見つかった住居跡の並びから、環状集落の北側の部分を調査したと考えられます。



石川西遺跡全体図（青線の部分が環状集落の外周部と考えられます）

年代 いまから何年前	時代・時期		主な土器の型式		
	旧石器時代		関東地方	甲信地方	
12,000	縄文時代	草創期			
11,000					
10,000		早期			
9,000					
8,000		中期			五橋ヶ台式
7,000					阿玉台式 (餅坂式)
6,000					加藤利E式
5,000					曹利式
4,000	後期				
3,000	晩期				
2,000	弥生 古墳				
1,000	古代 中世 縄文時代				



石川西遺跡から見つかった加曽利E式土器です。縄文時代中期に関東地方で多く作られた土器です。時期や地域によって、土器の形や文様に違いがあります。

【むずかしい言葉】

環状集落 かんじょうしゅうらく 縄文時代中期に多く見られるムラの形です。中央部に墓地が、その外側に住居が、さらに外側に保存用の穴が作られています。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、小美玉市に茨城空港を開港させるとともに、それに伴う空港テクノパーク整備事業を進めている。

平成13年1月29日、茨城県知事から茨城県教育委員会教育長あてに、(仮称)空港テクノパーク整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は平成13年2月18・19日に現地踏査を行い、石川西遺跡については平成17年1月31～2月4日、11月17・18・22・24・25日、平成18年1月31日～2月3日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成17年2月28日、茨城県教育委員会教育長から茨城県知事あてに、事業地内に石川西遺跡所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成18年1月25日、茨城県知事から茨城県教育委員会教育長あてに、石川西遺跡について文化財保護法第94条の規定に基づく土木工事の通知が提出された。平成18年2月21日、茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成18年2月24日、茨城県知事から茨城県教育委員会教育長あてに、(仮称)空港テクノパーク整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成18年2月27日、茨城県教育委員会教育長から茨城県知事あてに、石川西遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、石川西遺跡を平成18年4月1日～平成18年10月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

調査は、平成18年4月1日から同年10月31日までの7か月にわたって実施した。以下、その調査経過について、工程表で示す。

期間 工程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
調査準備 試掘・表土除去 遺構確認	■	■	■	■			
遺構調査					■	■	■
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収							■



第1図 石川西遺跡調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

石川西遺跡は、茨城県小美玉市（旧東茨城郡小川町）下吉影字石川2192番15ほかに所在している。

小美玉市は、茨城県のはほぼ中央部に位置し、北を巴川が南東に流れ、南は霞ヶ浦に面している。市域の多くは、標高20～35mの洪積台地上にあり、台地上は北浦に流入する巴川と、霞ヶ浦に流入する園部川、蒲田川、梶無川の4つの河川及びその支流によって樹枝状に開析されている。また、巴川及び園部川の沿岸には、細長い沖積低地が発達しており、特に巴川右岸は幅広く低地が広がっている¹⁾。

遺跡の位置する市の東部は、行方台地の北端にあたり、標高30mほどの一段高い台地になっている。この台地を形成する地層は、下位から、砂鉄を含む粒径差のある砂の互層からなる石崎層、下末吉海進時の堆積物である礫・砂を主とする見和層、灰色～青灰色を呈する粘土または砂質粘土を主とする茨城粘土層、さらに関東ローム層、腐植土層が堆積している²⁾。

当遺跡は、小美玉市の東部に位置し、巴川右岸の低地から入り込む谷津に面する標高20～28mの台地上に立地している。谷津から延びる小支谷を挟んで北東約70mの対岸には、平成17年度に発掘を実施した石川遺跡が所在している。周辺の台地は畑地として、巴川に面する低地は水田として、それぞれ土地利用されている。調査前の現況は山林であった。

第2節 歴史的環境

当遺跡が所在する巴川とその開析谷に面する台地上には、数多くの遺跡が点在し、古来より生活の適地であったことがうかがえる。石川西遺跡は縄文時代中期の集落跡であり、ここでは、巴川流域の縄文時代の遺跡を中心に周辺の遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡は少なく、遺構や出土状況が明確ではない。巴川流域では坂戸遺跡（鉦田市）で、瑪瑙製の搔器1点が表土中から出土している³⁾。

縄文時代になり、遺跡の数は飛躍的に増加する。以下、6期区分に分けて記述する。

草創期の遺跡は極めて少なく、巴川流域では、まだ当該期の土器は確認されていない。市内の遺跡では、園部川右岸の穀塚館跡から、押圧縄文系土器群の可能性のある土器片が採集されている⁴⁾。

早期に属する遺跡としては、梨ノ子木久保遺跡<2>があり、早期の沈線文系土器が出土している⁵⁾。この頃になると気候の温暖化が進み、海水面が上昇する縄文海進が始まる。巴川河口部に所在する半挽貝塚（鉦田市）では、早・前期の土器と共に、ハマグリやハイガイといった貝類組成が確認されており⁶⁾、当時の霞ヶ浦や北浦一帯は太平洋とつながる内海であったと考えられている。

前期に入ると縄文海進が一段と進み、漁撈活動が活発になり、台地上の遺跡分布が密になる。前期の土器が表面採集されている周辺の遺跡は、前野遺跡<3>、中郷谷遺跡<4>、岡田遺跡<5>、瀬戸遺跡<6>、宮後遺跡<7>など20か所に上る。本跡と小支谷を挟んだ対岸の石川遺跡<8>では、浮島式期の竈穴住居跡1軒が確認されている⁷⁾。

中期は、広く関東地方で見られるように大規模な集落が営まれるようになり、数の上でもピークをむかえる。



第2図 石川西遺跡周辺遺跡位置図(国土地理院1:25,000「下吉影」「常陸玉造」)

表1 石川西遺跡周辺遺跡一覧表

番 号	遺跡名	時 代						番 号	遺跡名	時 代						
		旧 石器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平	中 世			近 世	旧 石器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平	中 世
1	石川西遺跡		中期					36	富田貝塚 (銚田市)	○						
2	梨ノ子木久保遺跡 (銚田市)	○	早期-中期					37	香取船遺跡 (銚田市)		中期		○	○		
3	前野遺跡		前期	○				38	香取前遺跡 (銚田市)		前期		○	○		
4	中郷谷遺跡		前期					39	行中地遺跡 (銚田市)		中期					
5	岡田遺跡		前期		○			40	茂平前遺跡 (銚田市)		○		○			
6	瀬戸遺跡		前期					41	巴ご遺跡 (銚田市)		早・前期		○			
7	宮後遺跡		前・中期			○		42	鳥栖遺跡 (銚田市)		中・後期					
8	石川遺跡		早期-後期		○			43	柿の木遺跡 (銚田市)		早期-中期	○		○		
9	青柳貝塚 (銚田市)		中期-晩期					44	藤久保ダイ遺跡 (銚田市)		○			○		
10	新堀古墳				○			45	藤久保遺跡 (銚田市)		中期					
11	紅葉城跡 (銚田市)					○		46	水貫遺跡 (銚田市)		前期			○		
12	上合天神遺跡		○					47	念仏塚北遺跡 (銚田市)		前期		○		○	
13	道添西手遺跡		○			○		48	十九夜遺跡 (銚田市)		中期			○		
14	宿東側遺跡		中期					49	大上遺跡 (銚田市)		中期			○		
15	西ノ内遺跡		○		○	○		50	郡塚中遺跡 (銚田市)		中期					
16	門田古宮遺跡		○					51	江口田遺跡 (銚田市)		中期					
17	前野台遺跡		○					52	郡塚西遺跡 (銚田市)		中期					
18	下吉影中郷谷遺跡		○	○	○			53	礼場番外地遺跡 (銚田市)		中期					
19	窪前遺跡		○			○		54	宮下遺跡 (銚田市)		後期	○		○		
20	海道遺跡		中期		○			55	赤ハゲA遺跡 (銚田市)		前期			○		
21	小川街道遺跡		○					56	赤ハゲB遺跡 (銚田市)		前・中期			○		
22	城之内遺跡		中期			○	○	57	マイ峰A遺跡 (銚田市)	○	○	○				
23	南原遺跡		中期		○	○		58	天坊遺跡 (銚田市)		○			○		
24	大乗遺跡 (銚田市)		前期	○	○			59	海道古墳					○		
25	大塚遺跡 (銚田市)		中期					60	富士見塚古墳					○		
26	権現山遺跡 (銚田市)		前・中期					61	明神後古墳 (銚田市)			○	○			
27	柏葉後口遺跡 (銚田市)		前期					62	松崎古墳 (銚田市)			○				
28	柏葉山西遺跡 (銚田市)		○					63	塚崎古墳群 (銚田市)							
29	柏葉山東遺跡 (銚田市)		前・中期					64	大上古墳群 (銚田市)				○			
30	宮十北遺跡 (銚田市)		中期					65	宮山古墳群 (銚田市)					○		
31	富田山遺跡 (銚田市)		中期					66	石神東古墳群 (銚田市)				○			
32	宮十南遺跡 (銚田市)		中期					67	下吉影城跡							○
33	稲荷前遺跡 (銚田市)		前期					68	富田城跡 (銚田市)							○
34	外ノ山遺跡 (銚田市)		前期	○	○			69	堀ノ内岩跡 (銚田市)						○	
35	坂ノ上遺跡 (銚田市)		中期		○			70	巖倉跡 (銚田市)							○

霞ヶ浦沿岸地域でも、^{①②③④}部原貝塚を始めとする大規模な貝塚が形成されるようになる。同貝塚は、市の南部に位置し、霞ヶ浦に面する台地上に立地している。中期から晩期にかけて形成された貝塚である。貝層を構成する貝は、ハマグリやシオオキといった鹹水域に生息する貝や、ヤマトシジミのように汽水域に生息する貝であるが、貝層によって貝種組成にかたよりのある。この事は、後期に始まる海退現象によって、霞ヶ浦北岸が淡水化していくことを示唆している^①。

当該期は、当遺跡の属する時期にあたるが、周辺遺跡の発掘調査例は少ない。集落跡としては、前述した対岸の石川遺跡で阿玉台式期の住居跡5軒が確認されているのみである^①。

後期の市域における代表的な遺跡として、梶無川右岸のハマグリを主体とした純鹹貝塚である南坪貝塚^{②③④}があげられ、出土している土器から、掘之内式期から加曾利B式期にかけて形成されたと考えられている^②。これ以降、海退現象が進み、霞ヶ浦周辺の古環境の変化に伴い、遺跡数は減少傾向をたどる。

晩期になると、関東地方においては遺跡数が減少の一途をたどる。巴川流域でも、青柳貝塚^⑤で当該期の土器が数点採集されているのみである^①。

縄文時代以降も、対岸の石川遺跡では古墳時代の住居跡4軒が確認されており^①、当該地では人々の営みが続いていたことがうかがえる。また、石棺の中から人骨が出土している新堀古墳^⑥〈10〉や「壺をささげる女子像」など人物埴輪が出土している不二内古墳群^⑦など、巴川流域にも数多くの古墳が存在している。

律令期において、当該地は茨城郡白河郷に属しており、白河という地名は、現在の巴川にあたるものと考えられている。中世には、大掾・小田・江戸・佐竹諸氏の抗争の場となり、紅葉城跡^⑧や皆谷城跡^⑨など多くの城館が築かれた。佐竹氏支配の後、江戸時代になって、当該地は穴戸藩領や松岡藩領に分割され、さらに水戸藩領・幕領・旗本領と細分されていった。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び周辺遺跡一覧表の該当番号と同じである。

註

- 1) 小川町史編さん委員会『小川町史 下巻』小川町 1988年3月
- 2) 茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 石岡』1981年3月
- 3) 矢ノ倉正男・茂木悦男・成島一也「国保史安第12-04-128-0-051号主要地方道小川鉾田坂間交通安全施設工事事業地内埋蔵文化財調査報告書 坂戸遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第180集 2001年3月
- 4) 玉里村史編纂委員会『玉里村の歴史 -豊かな霞ヶ浦と大地に生きる-』玉里村 2006年2月
- 5) 後藤義明「主要地方道茨城・鹿島線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 壺ノ子木久保遺跡 壺ノ塚古墳」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第47集 1988年6月
- 6) 斉藤弘道「第1-1 串挽貝塚」『学術調査概報3 県内貝塚における動物遺存体の研究(3)』1981年3月
- 7) 小野政美・前島直人「石川遺跡 石川塚 旧百里原海軍飛行場掩体壕群 茨城空港テクノパーク整備事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第320集 2009年3月
- 8) a 斉藤弘道「① 部原貝塚」『学術調査概報3 県内貝塚における動物遺存体の研究(3)』1981年3月
b 玉里村教育委員会「5 部原貝塚」『玉里村村内遺跡分布調査報告書 玉里の遺跡』2004年11月
- 9) 註7)と同じ
- 10) 斉藤弘道「⑥ 南坪貝塚」『学術調査概報2 県内貝塚における動物遺存体の研究(2)』1980年3月
- 11) 茂木雅博・神谷朋子「A-32 完合台遺跡」『鉾田町史 原始古代史料編(鉾田町の遺跡)』鉾田町 1995年3月
- 12) 註7)と同じ
- 13) 小川町教育委員会「新堀古墳発掘調査報告書」1988年3月
- 14) 斎藤忠・川上博義「38 不二内古墳」『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』茨城県 1974年2月

参考文献

- 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地区』茨城県教育委員会 2001年3月
川又清明・沢原俊明『茨城県茨城郡小川町 埋蔵文化財調査報告書 1985』小川町教育委員会 1985年3月

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

石川西遺跡は、小美玉市の東部に位置し、巴川右岸の標高20～28mの台地上に立地している。調査面積は8,000㎡であり、調査区は南部の台地部と北部の谷部に2分される。調査前の現況は山林である。

今回の調査によって、竪穴住居跡15軒(縄文時代)、土坑116基(縄文時代87, 時期不明29)、ピット31か所(縄文時代6, 時期不明25)、炉跡1基(縄文時代)、遺物包含層1か所(縄文時代)、溝跡5条(時期不明)、井戸跡2基(時期不明)が検出されている。遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に202箱が出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢・鉢・浅鉢・台付土器・有孔鏝付土器・ミニチュア土器・器台)、弥生土器(壺), 土師器(杯), 須恵器(甕), 陶器(甕), 土製品(耳栓・土器片鏝・土器片円盤), 石器(尖頭器・搔器・石錐・石核・石鏃・打製石斧・磨製石斧・石血・磨石・敲石・凹石・砥石), 石製品(石棒・垂飾・浮子), 金属製品(独結杵・煙管), 古銭(寛永通宝)などである。

第2節 基本層序

調査区南部のR18g3区にテストピットを設定し、深さ2.0mまで掘り下げて基本土層(第3図)の観察を行った。土層は9層に分層でき、観察結果は以下のとおりである。

第1層は黒褐色を呈する表土で、ロームブロックを微量に含み、粘性は普通で、締まりは弱い。層厚は23～30cmである。

第2層は褐色を呈するソフトローム層で、粘性・締まりともに普通である。層厚は12～27cmである。

第3層は褐色を呈するハードローム層で、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は10～18cmである。

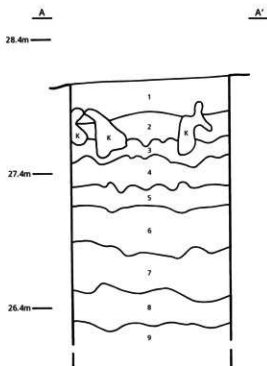
第4層は褐色を呈するハードローム層で、鹿沼バミスを微量に含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は13～27cmである。

第5層はにぶい黄褐色を呈するハードローム層で、鹿沼バミスを微量に含み、粘性は普通で、締まりは極めて強い。層厚は11～23cmである。

第6層は褐色を呈するハードローム層で、細礫を微量に含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は25～37cmである。

第7層はにぶい黄褐色を呈するハードローム層で、細礫・白色粒子を微量に含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は23～38cmである。

第8層は黄褐色を呈する粘土層への漸移層で、粘土



第3図 基本土層図

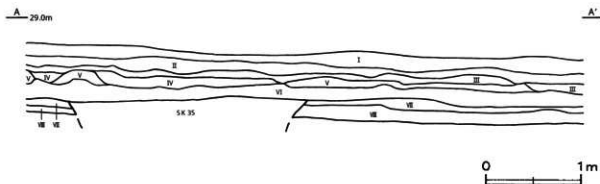
ロックを中量含み、粘性は強く、締まりは極めて強い。層厚は19～31cmである。

第9層はにぶい黄橙色を呈する粘土層で、粘性は強く、締まりは極めて強い。下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

住居跡などの遺構は、第3層上面で確認している。

なお、テストピットを掘り下げた地点では存在しなかったが、台地部の表土下には、暗褐色またはにぶい黄褐色土の疑似ローム層が堆積している。さらに調査区の地形に起伏があることから、表土除去前にトレンチによる試掘調査を行った。調査区東部のFトレンチの土層（付図・第4図）は、8層に分層できた。テストピットの第2層が、Fトレンチの第Ⅷ層に相当する。第Ⅶ層のソフトローム漸位層から遺構が掘り込まれていることが確認されたが、遺構の覆土との区別が難しいため、基本的に遺構確認は、ソフトローム層（テストピット第2層・Fトレンチ第Ⅷ層）下、ハードローム層の第3層上面とした。

本文中に出てくる試掘調査とは、特に断りのない場合、この試掘調査の事を指している。トレンチ調査の段階で出土し、遺構に伴うと判断した遺物については、覆土上層出土と表現する。



第4図 Fトレンチ土層堆積状況図

土層解説

- 第I層 表土層（テストピットの第1層に対応）
- 第II層 暗褐色粒子を微量に含む黒色層
- 第III層 ローム粒子を微量に含む黒色層
- 第IV層 黒色粒子を微量に含むにぶい黄褐色の疑似ローム層
- 第V層 ロームブロック・焼土粒子を微量に含む暗褐色の疑似ローム層
- 第VI層 ローム粒子を少量、炭化粒子を微量に含む黒褐色層
- 第VII層 ローム粒子を中量含むソフトローム漸位層
- 第VIII層 褐色のソフトローム層（テストピットの第2層に対応）

第3節 遺構と遺物

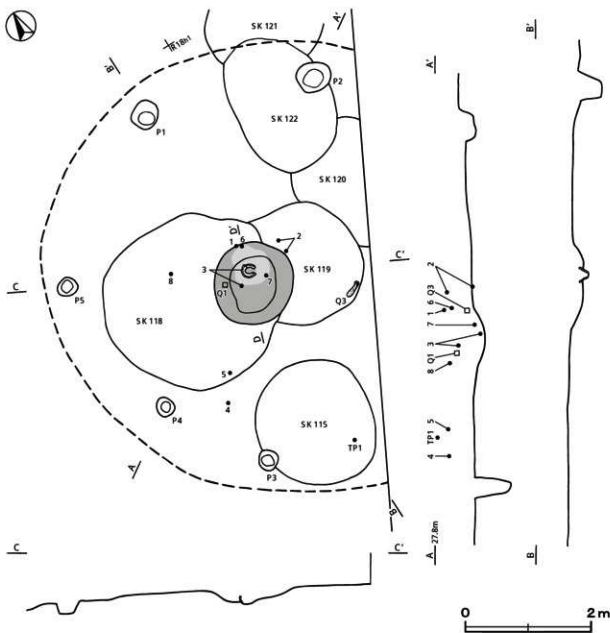
1 縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡15軒、土坑87基、ピット6か所、炉跡1基、遺物包含層1か所が確認されている。これらの遺構は、主に調査区中央部から東部の台地部に位置しており、時期は中期中葉から後葉が主体である。以下、確認された遺構及び遺物について記述する。

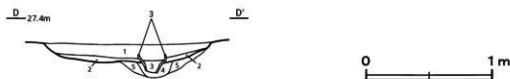
(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第5～9図）

位置 調査区中央部のR17h0区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。



第5図 第1号住居跡実測図(1)



第6図 第1号住居跡実測図(2)

重複関係 第118・119号土坑の覆土上面に本跡の炉が構築されている。第120号土坑は、第119号土坑との新旧関係から、本跡よりも古い。第115・121・122号土坑とも重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が新しいと考えられる。

規模と形状 壁は確認できなかった。また南東側は調査区域外に延びている。炉と柱穴の位置から径7.4mほどの円形と推測できる。

床 残存部はほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

炉 ほぼ中央部に付設されていたと推測できる。長径129cm、短径124cmの円形を呈する土器埋設炉である。炉床は第4・5層上面で、埋設土器の周囲に位置し、火を受けて赤変硬化している。埋設土器は炉の中央よりやや北寄りに位置し、第4・5層が掘り方への埋土で、長径66cm、短径62cm、炉床から深さ12cmの掘り方に、胴部下半を欠く深鉢を正位に埋設している。埋設土器の周囲は、赤変硬化した炉床であるが、埋設土器内の覆土では、炉床は確認されていない。

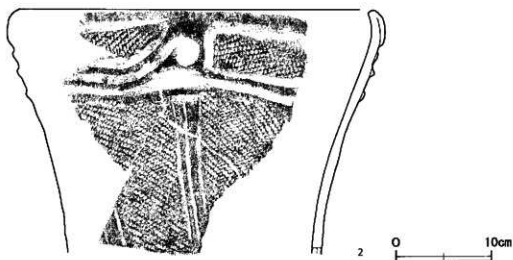
炉土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

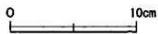
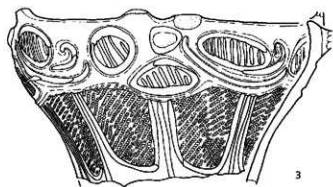
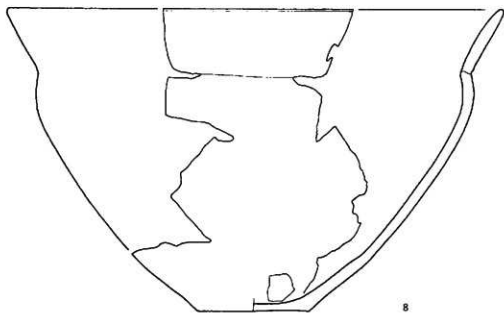
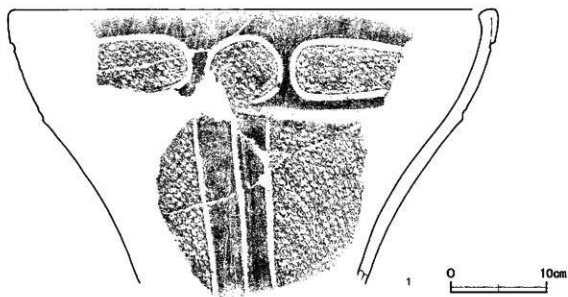
ピット 5か所。P1～P5は深さ21～56cmで、炉を中心に環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片637点（口縁部83、胴部528、底部26）、石器11点（打製石斧1、石皿4、磨石3、敲石2、凹石1）、石製品1点（浮子）、剥片2点が出土している。覆土上層の遺物は、試掘調査で出土したものである。2は、炉東側の床面から出土している。3は炉の埋設土器で、時期決定の指標となる遺物である。7は炉の覆土から、Q3は炉南東側の覆土上層から横位で、それぞれ出土している。

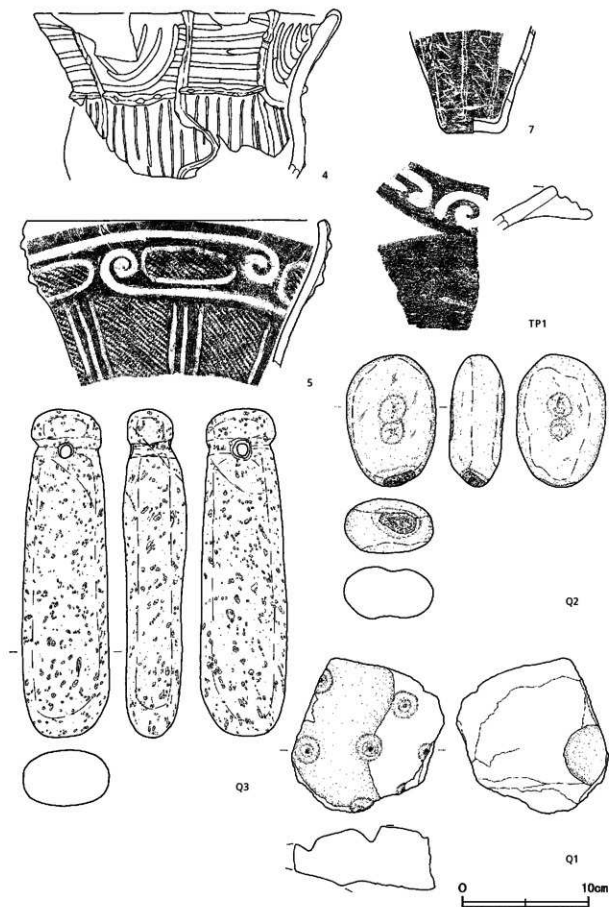
所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第7図 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第8图 第1号住居跡出土遺物実測図(2)



第9图 第1号住居跡出土遺物実測図(3)

第1号住居跡出土遺物観察表(第7~9図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[50.4]	(28.6)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	にぶい焼	普通	口縁部は沈線が沿う隆帯による区画文。胴部は沈線による懸垂文を帯り消す。L・Rの単部縄文。	覆土上層 (1枚目)	15% PL17
2	縄文土器	深鉢	[37.0]	(25.5)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	にぶい焼	普通	口縁部は沈線が沿う隆帯による通体文・区画文。胴部は沈線による懸垂文を帯り消す。L・Rの単部縄文。	床面	20%
3	縄文土器	深鉢	233	(13.6)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい焼	硬	口縁部は沈線が沿う隆帯による通体文・区画文。胴部は沈線による懸垂文を帯り消す。R・Lの単部縄文。	炉壁跡 土層	40% PL17
4	縄文土器	深鉢	238	(13.3)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい焼	普通	所定文を帯る隆帯を口縁部から胴部にかけて削下させ、胴部にも通らす。地文は沈線により帯出。	覆土上層 (1枚目)	30% PL17
5	縄文土器	深鉢	[23.6]	(11.6)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい焼	普通	口縁部は沈線が沿う隆帯による区画文。胴部は沈線による懸垂文を帯り消す。L・Rの単部縄文。	覆土上層 (1枚目)	15%
6	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	にぶい焼	普通	横状把手。沈線が沿う隆帯による区画文。	覆土上層 (1枚目)	5% PL21
7	縄文土器	深鉢	-	(8.4)	43	長石・雲母	にぶい赤焼	普通	2条一組の沈線を等間隔に帯下。縦帯状の懸垂文。	炉壁土層	50%
8	縄文土器	鉢	[38.0]	240	8.6	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	にぶい焼	良好	胴文・内・外面を人念に研磨	覆土上層 (1枚目)	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	縄文土器	浅鉢	長石・雲母	にぶい赤焼	普通	口縁部は外面に突出。沈線により通体文を帯出	覆土上層 (1枚目)	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石皿	(12.3)	(12.2)	(5.0)	(811.6)	砂岩	両面とも横断面が凹凸。凹石併用	覆土上層 (1枚目)	
Q2	磨石	10.5	7.1	4.3	478.0	花崗岩	下側に削打痕。磨石・凹石に併用	炉壁土中	
Q3	滑子	26.0	6.9	4.5	121.8	輝石	くびれ部に穿孔。断面は楕円形	覆土上層 (1枚目)	PL25

第2号住居跡(第10~12図)

位置 調査区東部のQ195区、標高28mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第5号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.90m、短径3.28mの楕円形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁はゆるやかに立ち上がり、壁高は34~38cmである。

床 炉に向かって皿状に傾斜している。特に硬化した部分は認められなかった。

炉 はほぼ中央部に2か所付設されている。炉1は長径58cm、短径54cmの円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた石囲炉である。炉石は火を受けて赤変しており、凹石や石皿が転用されている。炉床は第1層下面で、火を受けて赤変硬化している。第2~5層は掘り方への埋土である。炉2は地床炉である。炉1に掘り込まれているため、南北径は45cmのみが確認されており、東西径は46cmである。床面を5cmほど掘りくぼめ、楕円形を呈していたと考えられる。炉床は第6層下面で、火を受けて赤変硬化している。

炉1・2土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量	4 暗赤褐色 焼土ブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量	5 暗赤褐色 ロームブロック少量
3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	6 赤褐色 焼土ブロック多量

ピット 3か所。P1・P2はともに深さ38cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P3は深さ14cmで、性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

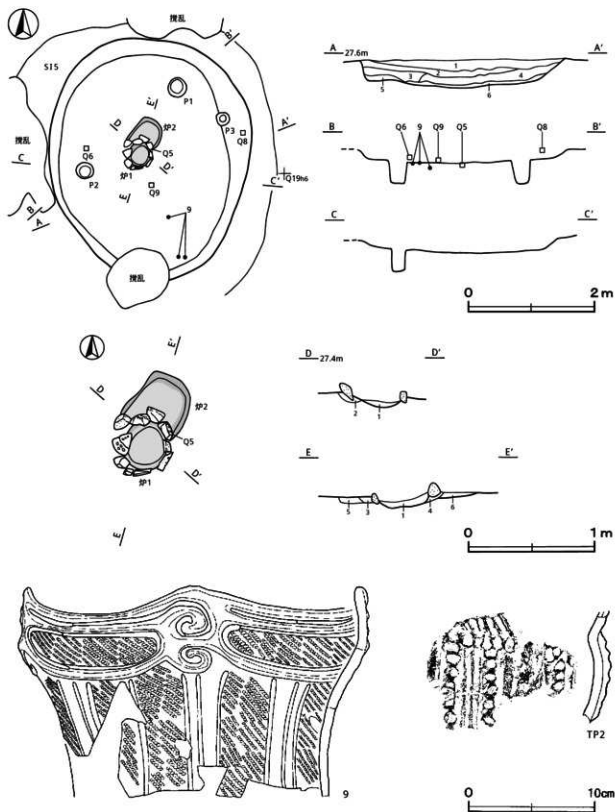
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	4 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量	6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

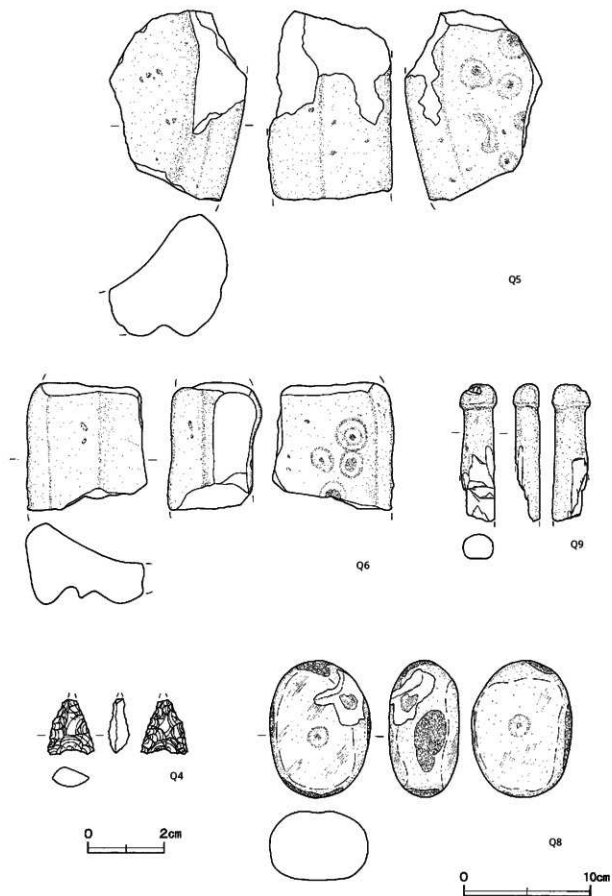
遺物出土状況 縄文土器片616点(口縁部93, 胴部501, 底部22), 石器13点(石鎌1, 磨製石斧1, 石皿3, 磨石1, 敲石2, 凹石5), 石製品1点(石棒), 剥片31点が出土している。土器は細片が多く、確認面から床

面まで散在して出土している。9は床面から出土しており、時期決定の指標となる遺物である。Q5は、石垣
 炉の炉石である。Q9は、炉1南側の覆土下層から出土している。

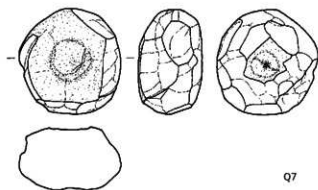
所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第10図 第2号住居跡・出土遺物実測図



第11图 第2号住居跡出土遺物実測図(1)



第12図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)

第2号住居跡出土遺物観察表(第10~12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	263	(165)	-	赤石・石灰・赤色粘土	にぶい焼	普通	口縁部は文様が沿う隆部による渦巻文・区画文、胴部は文様による垂文を繰り返す。1.5の早期縄文。	床面	50% PL17

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T P 2	縄文土器	深鉢	赤石・石灰・雲母	灰焼	普通	押圧文を有する隆部を、胴部に逆らし胴部に垂下。胴部は縦位の沈線文。	埋土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	石鏃	(14)	12	05	(07)	チャート	両面押圧割離 凹基底茎縁 先端部欠損	埋土中	PL28
Q 5	石皿	(150)	(109)	97	(1192)	安山岩	表面は皿状に凹む 凹石供用	炉石	
Q 6	石皿	(102)	(97)	65	(675)	安山岩	表面は皿状に凹む 凹石供用	埋土下層	PL26
Q 7	磨石	8.4	8.0	5.0	4910	砂岩	表面に磨面 凹石供用 両面各1孔	埋土中層	
Q 8	磨石	10.8	8.0	5.5	7050	砂岩	両端・側縁に敲打痕 磨石・凹石に供用	埋土中層	PL25
Q 9	石棒	(109)	3.0	2.1	(84)	粘板岩	有眼 断面は楕円形	埋土下層	PL25

第3号住居跡(第13・14図)

位置 調査区東部のR19f3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第54号土坑を掘り込んでいる。第12号住居跡とも重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が古いと考えられる。

規模と形状 南側が調査区域外に延びているため、南北軸は2.50mのみが確認されただけで、東西軸は3.86mである。主軸方向がN-18°-Eの隅丸方形又は隅丸長方形と推測できる。壁は直立し、壁高は60~64cmである。

床 はほぼ平坦である。全体的にやや硬化しているが、顕著な硬化面は認められなかった。東壁下と西壁下の一部を除き壁溝が巡っている。

ピット 6か所。P1は深さ128cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P2~P6は深さ10~78cmで、性格は不明である。

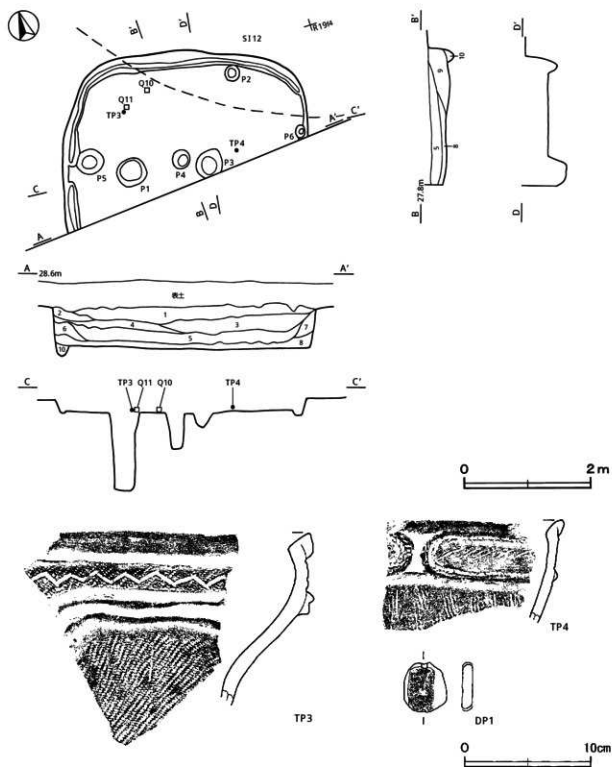
埋土 10層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

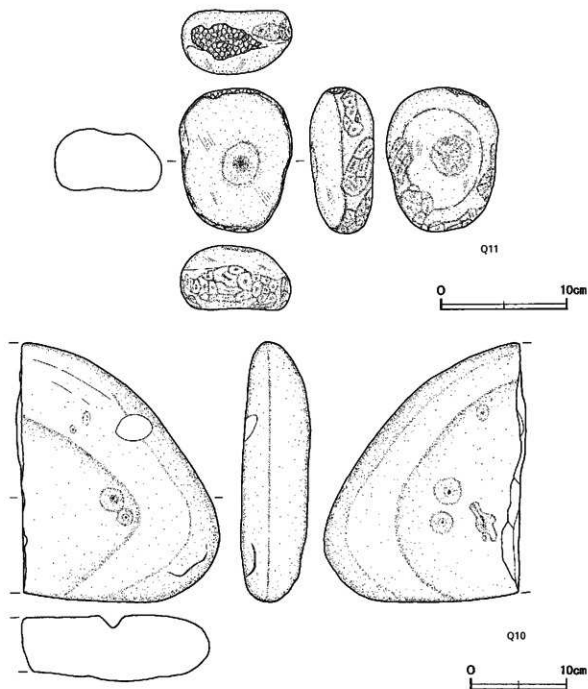
1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量・黒色粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片147点（口縁部14，胴部128，底部5），土製品1点（土器片鍾），石器2点（石皿，敲石），剥片2点が出土している。TP3・Q11は北西コーナー部寄り，Q10は北壁寄り，TP4は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 住居形態は炉を持たず高い壁と壁溝を有し，前代の要素を残しているが，覆土下層から出土している土器から，時期は中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第13図 第3号住居跡・出土遺物実測図



第14図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表 (第13・14図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	□縁部は次線をもつる隆帯によって区画 縦歯状の次線が通る R.Lの 線部縄文	覆土下層	
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい 褐色	普通	□縁部は隆帯による楕円形区画文 隆帯に沿って縄文帯をもつ 0段 多量の黒色縄文	覆土下層	

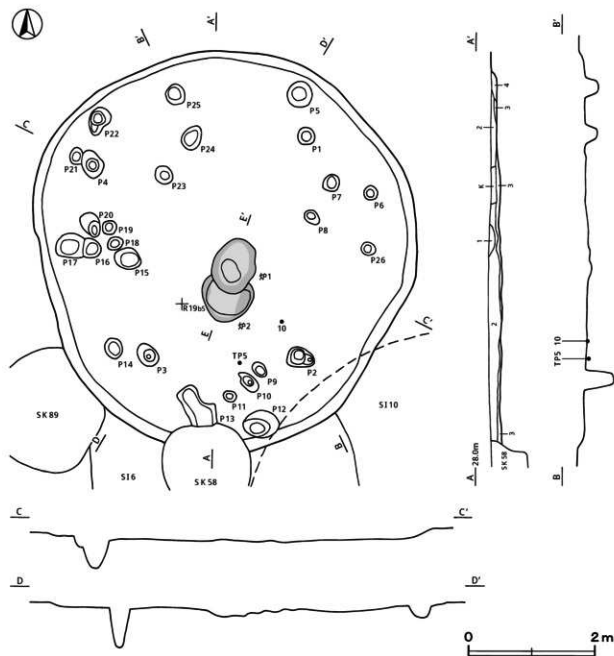
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	土器片縁	40	34	09	143	長石・石英・ 雲母	にぶい赤褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 黒文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q10	石皿	270	(21.1)	72	(5275.4)	砂岩	両面とも機能面が面上にわずかに凹む 凹石専用	覆土下層	PL26
Q11	巖石	11.4	8.8	50	7503	砂岩	上端に緻密な敲打痕 下端と側縁に浅い敲打痕 磨石・凹石に併用	覆土下層	

第4号住居跡（第15～17図）

位置 調査区東部のR19a5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号住居跡及び第88・89号土坑を掘り込み、第58号土坑に掘り込まれている。第10号住居跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。



第15図 第4号住居跡実測図（1）



第16図 第4号住居跡実測図(2)

規模と形状 南側が第5号土坑に掘り込まれているため、長径は推定6.40m、短径6.02mの円形である。壁はゆるやかに立ち上がり、壁高は10~12cmである。

床 ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

炉 ほぼ中央部に付設されている。炉1は長径88cm、短径70cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から10cmの深さに位置する第3~5層上面で、火を受けて赤変硬化している。第3~5層は掘り方への埋土である。炉2は、炉1に掘り込まれている地床炉である。南北径は62cmのみが確認されており、東西径は81cmで、円形を呈していたものと考えられる。炉床は床面から8cmの深さに位置する第8・9層上面で、炉床及び炉壁は火を受けて赤変硬化している。第8・9層は掘り方への埋土である。

炉1・2土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 6 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 9 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量 |
| 5 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | |

ピット 26か所。P1は深さ23cm、P2~P4は深さ46~62cmで、やや規格外性を欠くが、位置と規模から支柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

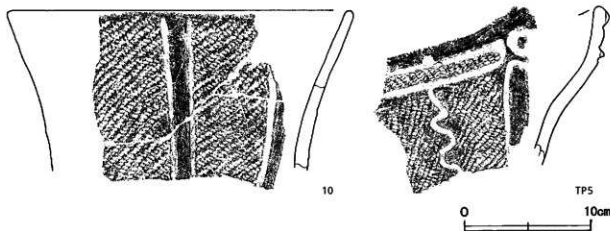
覆土 4層に分層できる。基本的に水平堆積で、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片739点(口縁部165, 胴部554, 底部20)、石器4点(磨製石斧, 石皿, 磨石, 凹石)、剥片9点が出土している。土器は細片が多く、確認面から床面まで散在して出土している。10・TP5は、覆土最下層から出土しており、時期決定の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第17図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表 (第17図)

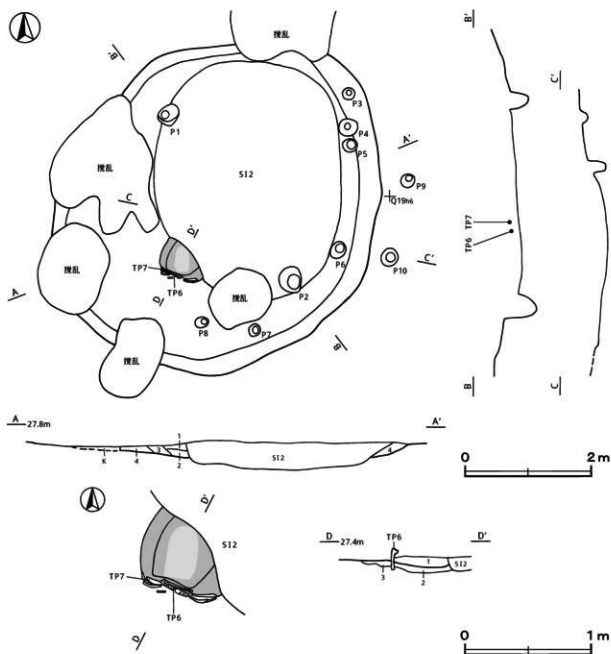
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	[27cm]	(12.7)	-	灰石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	沈線による器底文周を廻り出す R Lの単部縄文	覆土下層	15%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部は沈線に沿う溝帯による区画文 胴部は沈線による器底文周を廻り出す R Lの単部縄文	覆土下層	

第5号住居跡 (第18・19図)

位置 調査区東部のQ19h5区, 標高28mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2号住居に掘り込まれている。



第18図 第5号住居跡実測図

規模と形状 長径5.74m、短径4.84mの楕円形で、主軸方向はN-44°-Eである。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は13~40cmである。

床 中央部に向かって皿状に傾斜している。特に硬化した部分は認められなかった。

炉 中央部より南西側に付設されている。周囲を7~27cmの土器片で囲った土器片囲炉である。北東部を第2号住居に掘り込まれているため、南北径60cm、東西径65cmのみが確認されている。炉床は床面から8cmの深さに位置する第2層上面で、火を受けて赤変硬化している。第2・3層は掘り方への埋土である。

伊土層解説

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 雑褐色色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 2 濃い赤褐色 焼土ブロック中量 | |

ピット 10か所。P1・P2は深さ30cm・52cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P3~P10は、深さ12~32cmで、性格は不明である。

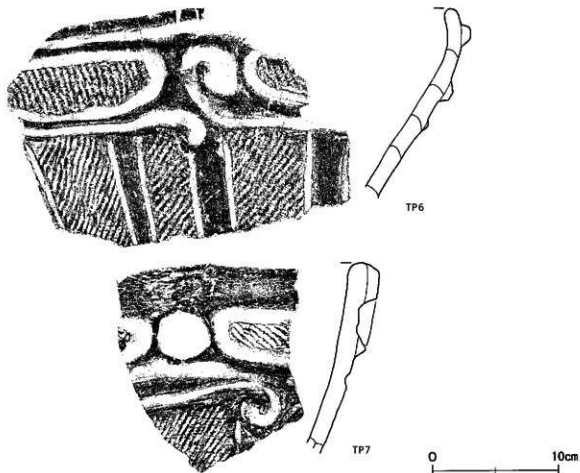
覆土 4層に分層できる。周囲からの土の流入を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 romeブロック・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 炭化物・rome粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 rome粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 romeブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片21点（口縁部4、胴部17）が出土している。覆土中の土器は少なく、多くが炉から出土している。TP6・TP7は、炉用に使われた土器片であり、時期決定の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第19図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP6	縄文土器	深鉢	灰石・石灰・雲母	に濃い青	普通	口縁部は次線に沿う溝帯による渦巻文・区画文。胴部は次線による帯帯文様を盛り出す。口縁部は次線に沿う溝帯による渦巻文・区画文。胴部は次線による帯帯文様を盛り出す。口縁部は次線に沿う溝帯による渦巻文・区画文。胴部は次線による帯帯文様を盛り出す。	炒	
TP7	縄文土器	深鉢	灰石・石灰・赤色粒子	に濃い黄緑	普通	口縁部は次線に沿う溝帯による渦巻文・区画文。胴部は次線による帯帯文様を盛り出す。口縁部は次線に沿う溝帯による渦巻文・区画文。胴部は次線による帯帯文様を盛り出す。	炒	

第6号住居跡 (第20・21図)

位置 調査区東部のR19b5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第41号ピットを掘り込み、第4号住居及び第58・89・91号土坑に掘り込まれている。第10号住居跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 北側が第4号住居に掘り込まれているため、南北軸は2.68mのみが確認されただけで、東西軸は4.14mである。主軸方向がN-10°-Wの円形又は楕円形と推測できる。壁はゆるやかに立ち上がり、壁高は13~16cmである。

床 ほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

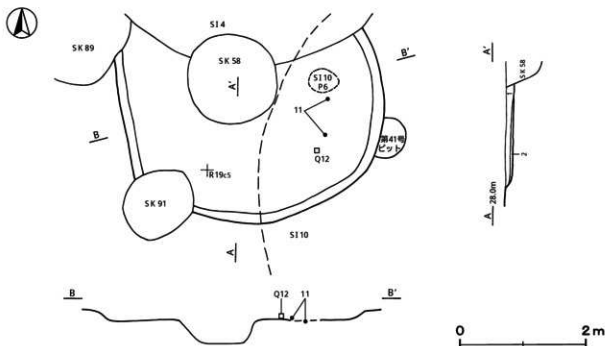
覆土 2層に分層できる。堆積状況に大きな乱れが見られないことから、自然堆積とみられる。

土層解説

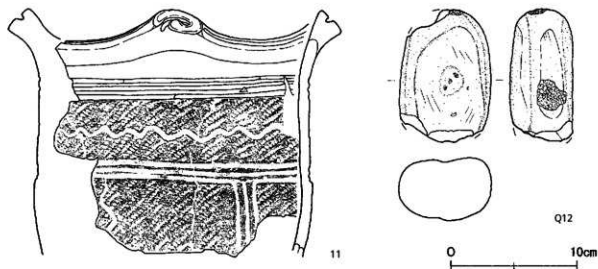
- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片47点 (口縁部7, 胴部37, 底部3), 石器2点 (磨石), 剥片1点が覆土上層から下層にかけて出土している。11は東壁寄りの覆土下層から出土しており、本跡から南西へ約9mの距離に位置する第111号土坑の覆土中層から出土した土器片と接合している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利EⅡ式期) と考えられる。本跡と第111号土坑は、土器片に遺構間接合が確認されたことから、同時期に機能していた可能性がある。



第20図 第6号住居跡実測図



第21図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表(第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
11	縄文土器	深鉢	[230]	(195)	-	赤石・石英・雲母	に赤い赤褐色	普通	4単位の間口縁部、波線部は溝管文、口縁部は黒文、胴部は浅緑で文様を覆す。柱文は互いの単位縁文	覆土下層	30% Fl.17
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q12	磨石	(10.7)	7.4	5.0	(69.5)	安山岩	両側と側面に磨面 磨石・凹石併用		覆土下層		

第7号住居跡(第22・23図)

位置 調査区東部のR19a3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第76号土坑を掘り込み、第75・84号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.30m、短径4.90mの不整形である。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は4～14cmである。

床 はほぼ平坦で、全体的に締まっているが、顕著な硬化面は認められなかった。

炉 はほぼ中央部に付設されている。長径65cm、短径51cmの楕円形を呈する石囲炉である。炉石は火を受けて赤変しており、特に北端のものが顕著である。炉床は床面から5cmの深さに位置する第2層上面で、火を受けて赤硬化している。第2・3層は掘り方への埋土である。抜き取り痕は確認できなかったが、炉の範囲と火床面の範囲には隙間が認められ、本来は炉石が全周していたと考えられる。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量
2 赤褐色 焼土ブロック中量

ピット 4か所。P1～P3は深さ15～27cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P4は深さ14cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

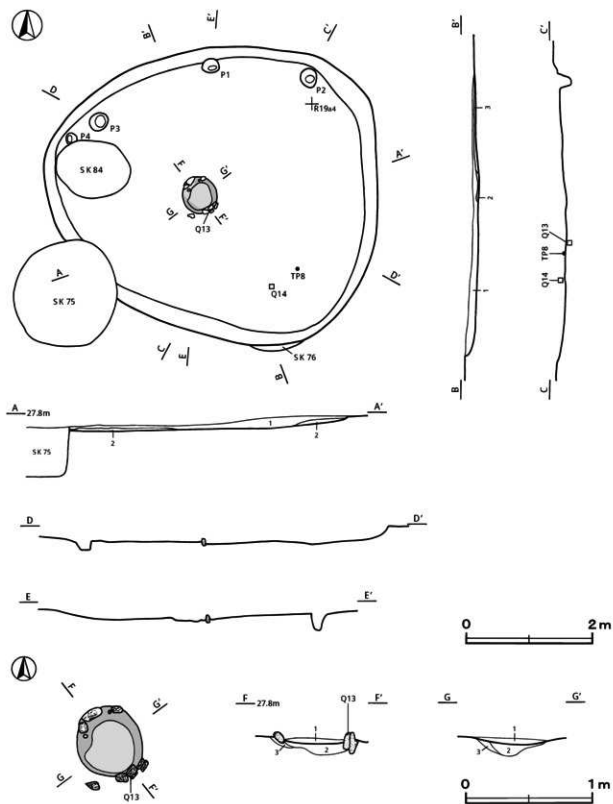
土層解説

- 1 黒褐色 土ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 3 暗褐色 土ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色 土ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

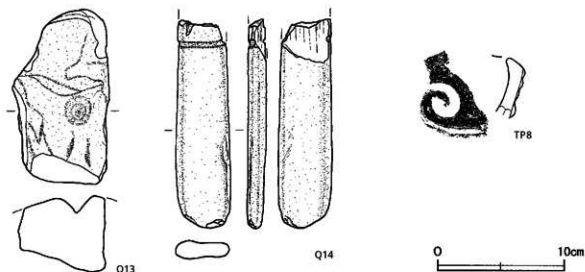
遺物出土状況 縄文土器片19点(口縁部3、胴部15、底部1)、石器1点(凹石)、石製品1点(石棒)が出土している。土器のほとんどが細片である。Q13は、石囲炉の炉石である。Q14は、南東部の覆土中層から横位

で出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係及び炉の形態から中期後葉（加曾利E II式期）以降で、後期には至らないと考えられる。



第22図 第7号住居跡実測図



第23図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP8	織文土器	深鉢	長石・雲母	に青1色	普通	波頭部下に沈線に沿う幾帯による渦巻文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	凹石	(138)	(7.7)	(6.1)	(890.5)	粘板岩	表面1孔	炉石	
Q14	石棒	(165)	4.3	1.6	(176.0)	粘板岩	有頭 断面は扁平	覆土中層	PL25

第8号住居跡 (第24・25図)

位置 調査区東部のR19e1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第77号土坑の覆土上面に本跡の炉が構築されている。第14号住居及び第86号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.08m、短径4.54mの楕円形で、主軸方向はN-39°-Eである。壁はゆるやかに立ち上がり、壁高は8~13cmである。

床 炉の周囲が20cmほどくぼんでいるが、下部に本跡より古い土坑があるため、住居構築後もしくは廃絶後に土圧等で沈み込んだものと考えられる。特に硬化した部分は認められなかった。

炉 中央部よりやや南西側に付設されている。長径54cm、短径48cm、深さ36cmの掘り方に胴部下半を欠く深鉢を正位に埋設した土器埋設炉である。第1層は掘り方への埋土である。炉床は埋設土器内にあったものと考えられるが、顕著な赤変硬化は認められなかった。

炉裏方土層解説

1 黒 褐色 土 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

ビット 5か所。P1~P5は深さ45~59cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

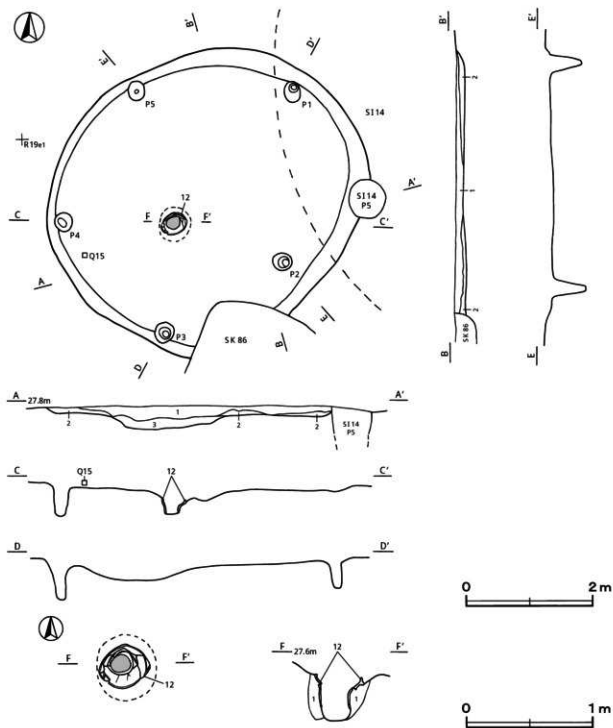
1 黒 褐色 土 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒 褐色 土 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

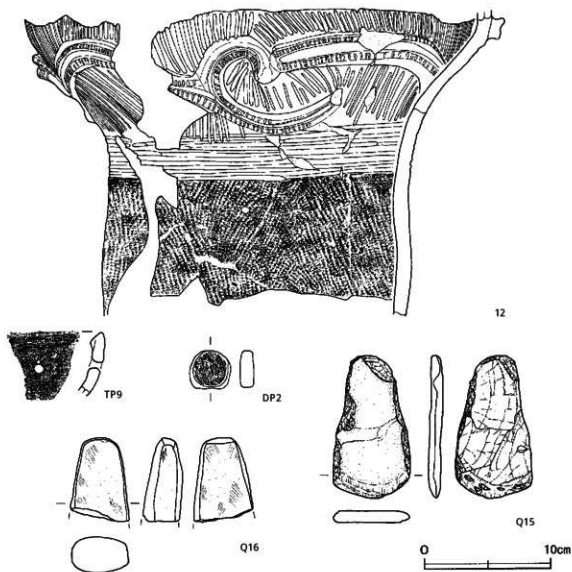
2 黒 褐色 土 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片418点（口縁部63，胴部336，底部19），土製品1点（土器片円盤），石器4点（打製石斧，磨製石斧，石皿，磨石），剥片1点が，確認面から床面にかけて出土している。土器は細片が多く，覆土下層の土器は，炉の周辺から集中して出土している。Q15は，西壁際の覆土中層から出土している。Q15は，西壁際の覆土中層から出土している。12は炉の埋設土器で，時期決定の指標となる遺物である。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第24図 第8号住居跡実測図



第25図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表(第26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	-	(24)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい赤褐色	普通	キザミ及び沈線をもつ種等による渦巻文と沈線による口縁部文様等。胴部はRの単部縄文	伊勢野土層	45% PL17

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	無文 内・外面を研磨 補綴孔有り	埋土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP2	土器片片断	30	3.2	1.0	139	石英・雲母	にぶい黄褐色	周辺部研磨 無文	埋土中	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	打製石片	11.3	6.1	(1.1)	(95.0)	粘板岩	両面調整 刃部を研磨	埋土上層	
Q16	磨製石片	(6.7)	(4.7)	2.8	(126.0)	凝灰岩	定角式 全面を研磨 刃部欠損	埋土中	PL27

第9号住居跡（第26・27図）

位置 調査区東部のR19b1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第93号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.28m、短径3.98mの不整形である。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は8～16cmである。

床 はほぼ平坦であり、特に硬化した部分は認められなかった。

ピット 4か所。P1・P2は深さ92cm・80cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P3・P4は深さ16cm・26cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

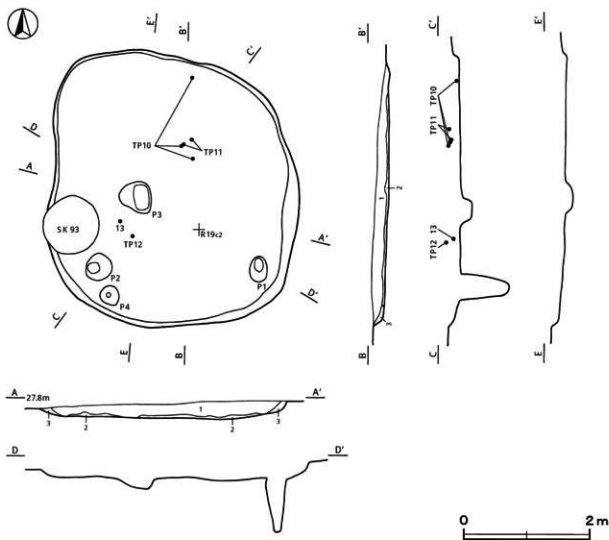
1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

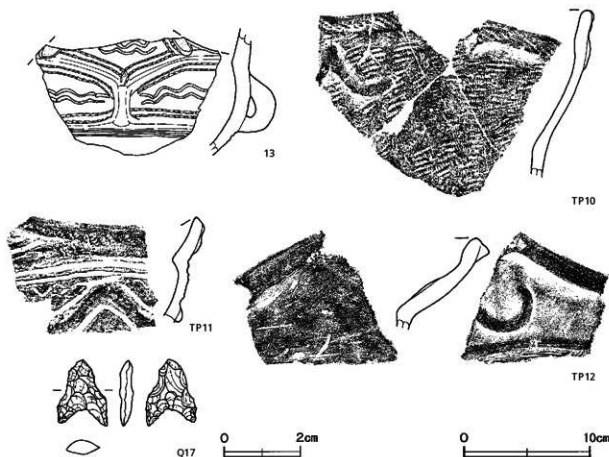
3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片140点（口縁部27、胴部103、底部10）、石器3点（石鎌、石皿、磨石）、剥片1点が覆土上層から下層にかけて出土している。TP10は、北壁際の覆土下層、中央部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。ピットの覆土中からは、阿玉台式Ⅲ式期と比定される小破片が数点出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。



第26図 第9号住居跡実測図



第27図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	-	(102)	-	赤石・石英・雲母	に濃い橙	普通	横状把手 波状沈線及び縦列の結節沈線が沿う隆帯による口縁部文様等	覆土中層	5% PL21

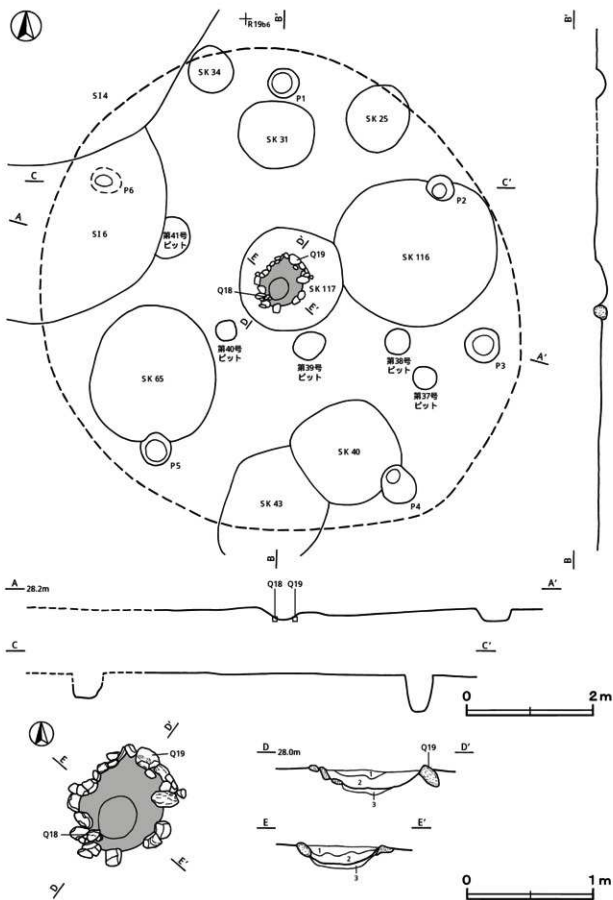
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	赤石・石英・雲母	に濃い橙	普通	口縁部直下に縦目を有する隆帯が通る 口縁部に逆Y字状隆帯を貼付 且しの卑部縄文	覆土下層	
TP11	縄文土器	深鉢	赤石・石英・雲母	に濃い橙	普通	口縁部直下に縦目を有する隆帯が通る 隆帯による波状文 R Lの卑部 縄文	覆土上層	
TP12	縄文土器	浅鉢	石英・雲母	橙	良好	口縁部は外面に突出 内面に隆帯で文様を掘出 内・外面を入念に研磨	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	石鏝	1.7	1.3	0.4	0.7	チャート	両面押圧刻磨 凹基無茎縁	覆土中	PL28

第10号住居跡 (第28～30図)

位置 調査区東部のR19c6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第117号土坑の覆土上面に本跡の炉が構築されている。第65号土坑に本跡のP5が囲り込まれている。第116号土坑は、第117号土坑との新旧関係から本跡よりも古い。第40・43号土坑と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が新しいと考えられる。第4・6号住居跡、第25・31・34号土坑及び第37～41号ピットとも重複しているが、新旧関係は不明である。



第28図 第10号住居跡実測図

規模と形状 確認面が床面であったため、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から、長径8.0m、短径7.30mの円形と推測できる。

床 炉の南東側がややくぼんでいるが、下部に本跡より古い土坑があるため、住居構築後もしくは廃絶後に土圧等で沈み込んだものと考えられる。特に硬化した部分は認められなかった。

炉 はほぼ中央部に付設されていたと推測できる。長径98cm、短径88cmの楕円形を呈する石囲炉である。炉石は火を受けて赤変しており、凹石や石皿が転用されている。炉床は床面から15cmの深さに位置する第3層上面と考えられるが、明瞭な赤変硬化した範囲は認められなかった。第3層は掘り方への埋土である。

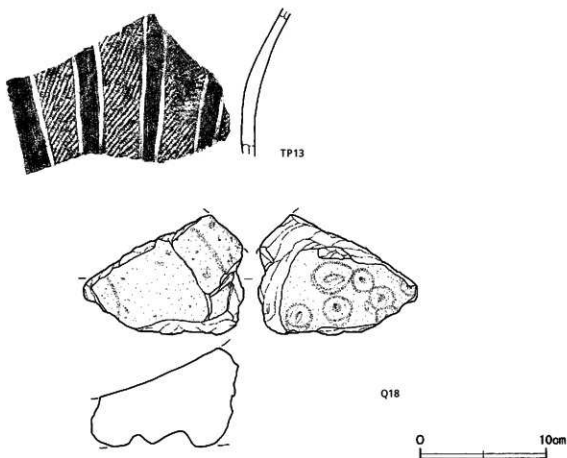
炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

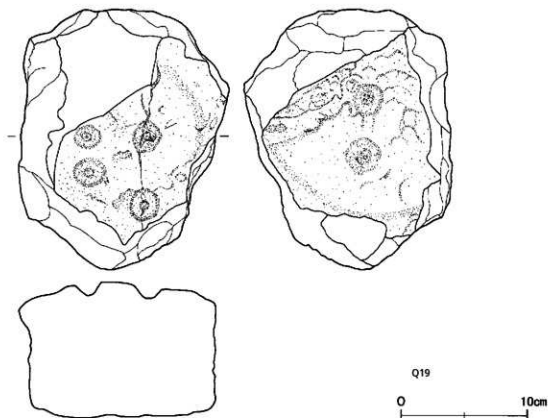
ピット 6か所。P1～P4・P6は深さ16～56cm、P5は深さ130cmで、深さに差があるものの、炉を中心に環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片3点（胴部2、底部1）、石器8点（石皿5、凹石3）が出土している。TP13は、試掘調査で出土したものである。Q18・Q19は、石囲炉の炉石であり、炉の南端と北端からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や炉の形態から中期後葉（加曾利EⅡ式期）以降で、後期には至らないと考えられる。



第29図 第10号住居跡出土遺物実測図(1)



第30図 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

第10号住居跡出土遺物観察表(第29・30図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T P13	縄文土器	深鉢	灰石・雲母・赤色粒子	高1 黄緑	窯漚	2系一組の次線による器底文間を離り消す R Lの準部縄文	覆土上層 (灰筋裏面)	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	石皿	(95)	(124)	7.8	(6545)	安山岩	表面は皿状に凹む 凹石併用	炉石	
Q19	凹石	20.6	16.7	10.7	5246.9	花崗岩	表面4孔 裏面2孔 両面に一部磨痕	炉石	

第11号住居跡(第31図)

位置 調査区東部のR19f2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第98号土坑を掘り込み、第86・99号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側は重複している土坑に掘りこまれており、南側は調査区域外に延びているため、南北軸は2.18mのみが確認されている。東西軸は3.30mであり、主軸方向がN-8°-Wの隅丸方形又は隅丸長方形と推測できる。土層断面から、壁は外傾して立ち上がり、壁高は46~50cmである。

床 ほぼ平坦で、全体的に締まっているが、顕著な硬化面は認められなかった。壁溝が、東側と西側で確認されている。

ピット 4か所。P1・P2は深さ99cm・108cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。P3・P4は深さ24cm・52cmで、性格は不明である。

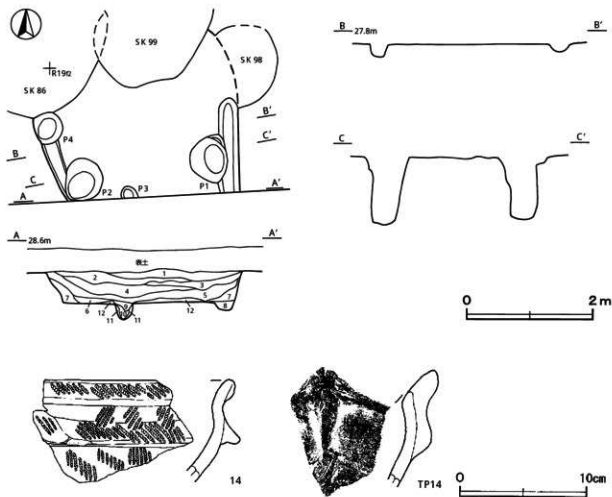
覆土 12層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第8層は壁溝の覆土である。第9～11層はP3の覆土で、第12層は床面であり、締まりが極めて強い。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ローム粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック多量
6 暗褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片11点（口縁部3，胴部8）がP1の覆土中から出土しており，時期決定の指標となる遺物である。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期）と考えられる。



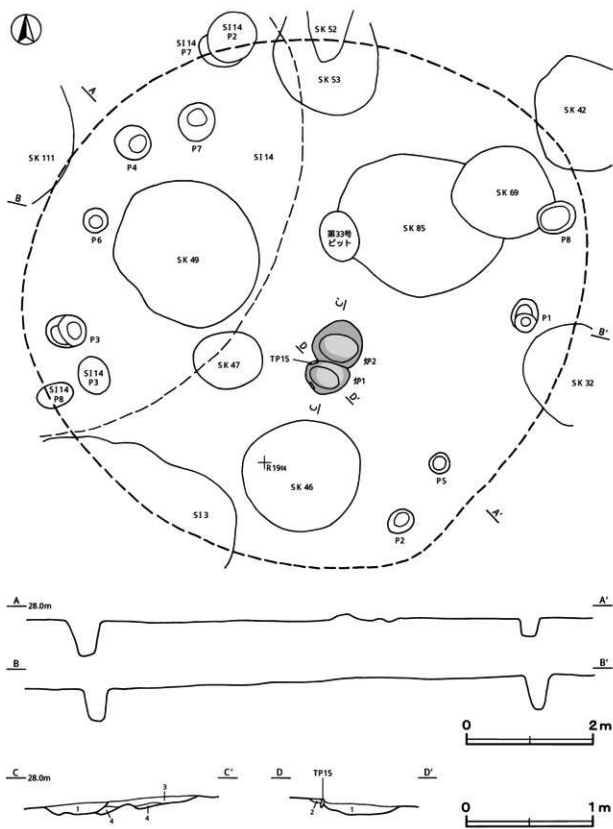
第31図 第11号住居跡・出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
14	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・ 雲母・褐色粒子	に5A1段階	普通	口唇部直下及び口縁部に隆帯が走る	RLの準総縄文	P1 覆土中	5%
TP14	縄文土器	深鉢	長石・雲母・ 褐色粒子			に5A1 階	普通	口唇部直下に隆帯が走る	小波状の口縁に隆帯で山形状の突出部を作出		P1 覆土中	

第12号住居跡（第32・33図）

位置 調査区東部のR19e4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。



第32図 第12号住居跡実測図

重複関係 本跡のP 8が第69号土坑を掘り込んでいる。第3号住居跡及び第32・47・49・54・85号土坑と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が新しいと考えられる。第14号住居跡及び第42・46・52・53・111号土坑及び第33号ピットとも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 確認面が床面であったため、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から、長径8.46m、短径8.30mの円形と推測できる。

床 残存部はほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

炉 はほぼ中央部に2か所付設されていたと推測できる。炉1は長径68cm、短径48cmの楕円形を呈している炉である。北端と南端から立位で出土した土器片2点が確認されている。抜き取り痕は確認できなかったが、第2層は掘り方への埋土であり、本来は土器片囲炉であった可能性がある。炉床は床面から8cmの深さに位置する第1層下面であり、火を受けて赤変硬化している。炉2は地床炉である。炉1に掘り込まれているため、南北径は72cmのみが確認されただけで、東西径は76cmである。床面を9cmほど掘りくぼめ、円形を呈していたものと考えられる。炉床は第4層下面であり、火を受けて赤変硬化している。

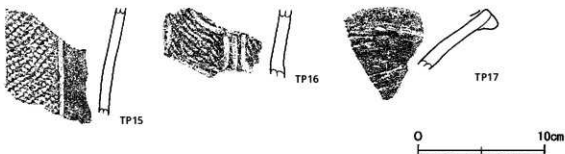
伊1・2土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量 | 3 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

ピット 8か所。P 1・P 2・P 4は深さ54~56cm、P 3は深さ85cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。P 5~P 7は深さ26~50cmで、炉を中心に環状に巡っているが、P 1~P 4に比べると掘り込みもやや浅く、規則性にも欠けることから、補助的な柱穴の可能性が想定される。P 8は深さ138cmで、性格不明である。

遺物出土状況 縄文土器片170点（口縁部23、胴部141、底部6）が炉及びピットの覆土中から出土している。TP15は炉1から立位で出土しており、時期決定の指標となる遺物である。TP16・TP17は、P 2・P 3の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E II式期）と考えられる。



第33図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	沈線による懸垂文層を磨り消す R Lの半部縄文	炉	
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	濃い褐色	普通	沈線により文様を擦出 L Rの半部縄文	P 2 覆土中	
TP17	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	濃い褐色	普通	高文 内面は人念に研削 内面から口唇部にかけて赤彩	P 3 覆土中	

第13号住居跡（第34～36図）

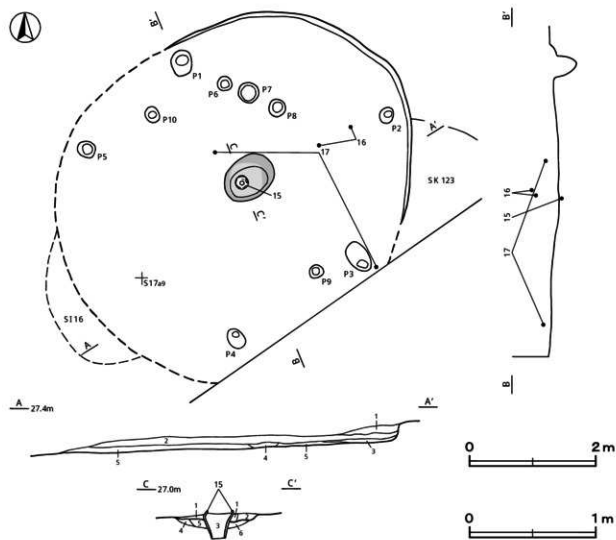
位置 調査区中央部のR17J9区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第16号住居跡及び第123号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 斜面部に構築されており、西側の壁は削平を受けている。また南側も調査区域外に延びているため全容は不明であるが、残存状況から長径は6.05m、短径は5.22mと推定され、主軸方向がN-55°-Eの楕円形と推測できる。残存する壁は外傾して立ち上がり、壁高は27cmである。

床 残存部はほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

炉 はほぼ中央部に付設されていたと推測できる。長径88cm、短径66cmの楕円形を呈する土器埋設炉である。炉床は第4～6層上面であり、火を受けて赤変硬化している。第4～6層が掘り方への埋土であり、炉床から深さ8cmの掘り方に、胴部下半を欠く深鉢を正位に埋設している。埋設土器の周囲は、赤変硬化した炉床であるが、埋設土器内の覆土は、住居廃絶後に堆積したと考えられる締まりの弱い単一層であり、炉床は確認できなかった。



第34図 第13号住居跡実測図

伊土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 赤褐色 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |

ピット 10か所。P1～P5は深さ33～61cmで、伊を中心に環状に巡っていることから主柱穴と考えられる。その他のピットは性格不明である。

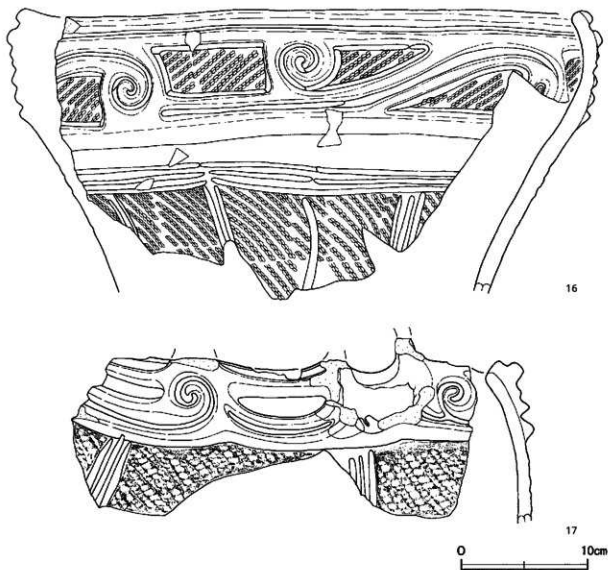
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

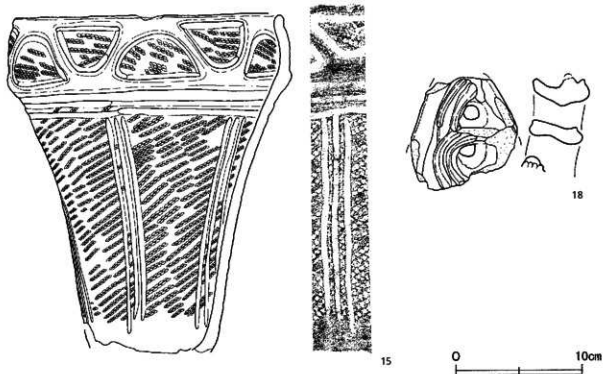
- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片956点（口縁部133、胴部787、底部36）、石器3点（石皿1、磨石2）、剥片3点が出土している。土器は伊を中心に覆土上層から床面にかけて、散在して出土している。15は伊の埋設土器であり、時期決定の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E1式期）と考えられる。



第35図 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第36図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

第13号住居跡出土遺物観察表(第35・36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
15	縄文土器	深鉢	20.7	(26.7)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文・区画文 胴部は 沈線による巻文 RLRの複層縄文	妙理鉢 土層	85% PL18
16	縄文土器	深鉢	[440]	(22.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい	普通	口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文・区画文 胴部は 沈線による巻文を纏り沿す LRLの複層縄文	覆土上層	10% PL18
17	縄文土器	深鉢	-	(14.6)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部は沈線が沿う隆帯による区画文 胴部は3条一組 の沈線による巻文 LRLの複層縄文	覆土中層	5%
18	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英	滑	普通	隆帯と沈線によって加飾された裝飾把手	覆土中	5%

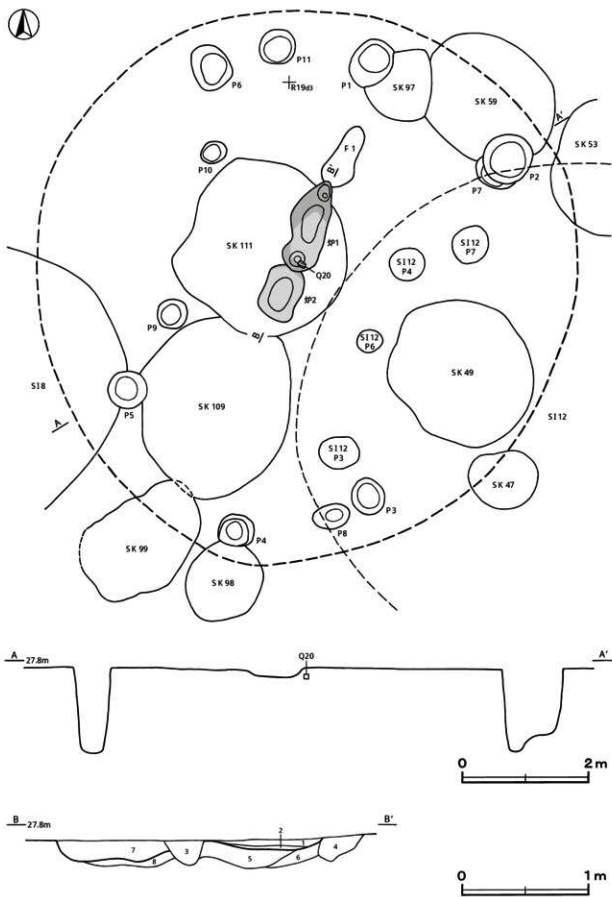
第14号住居跡(第37・38図)

位置 調査区東部のR19d3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第111号土坑の覆土上面に本跡の炉が構築されている。第109号土坑は、第111号土坑との新旧関係から、本跡よりも古い。本跡の炉1は、炉跡1を掘り込んでいる。本跡のP2・P7は、第59号土坑を掘り込み、本跡のP1は第97号土坑に掘り込まれている。第8号住居跡及び第47・49・98・99号土坑と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が新しいと考えられる。第12号住居跡及び第53号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 確認面が床面であったため、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から、長径8.93m、短径8.66mの円形と推測できる。

床 重複が著しく全容は不明であるが、残存部はほぼ平坦で、特に硬化している部分は認められなかった。



第37图 第14号住居跡実測図

炉 はほぼ中央部に2か所付設されていたと推測できる。炉1は長径152cm、短径59cmの不定形を呈している炉であり、南端よりQ20が確認されている。第3・4層は、炉石の抜き取り痕の覆土と考えられ、本来は石囲炉であった可能性がある。炉床は床面から9cmの深さに位置する第5層上面で、炉床から南側の炉壁にかけて火を受けて赤変硬化している。第5・6層が掘り方への埋土である。炉2は、炉1に北東部を掘りこまれているため、長径は90cmと推定される。短径は64cmで、楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から17cmの深さに位置する第8層上面で、火を受けて赤変硬化している。第8層が掘り方への埋土である。

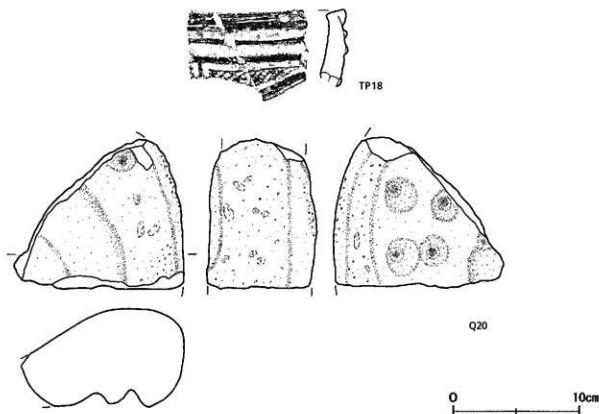
炉1・2土層解説

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 稀薄赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 8 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |

ピット 11か所。P1～P5は深さ96～139cm、P6は深さ71cmで、位置と規模から柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片156点（口縁部22、胴部130、底部4）、石器4点（石皿3、磨石1）、剥片1点が確認面及び炉やピットの覆土中から出土している。TP18は、P5の覆土中から出土している。Q20は炉2の南端より立位で出土しており、炉石に転用されたと考えられる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）以降で、後期には至らないと考えられる。土器埋設炉である炉跡1は本跡の炉の可能性もあるが、本跡の炉は加曾利EⅡ式期と考えられる第11号土坑の覆土上面で確認されており、埋設土器の時期から別遺構として判断した。



第38図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP18	縄文土器	深鉢	石灰・雲母	灰褐色	普通	沈線が沿う隆帯による区劃文 L Rの半部縄文	P 5 層土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	石皿	(120)	(135)	(8.7)	1695.5	花崗岩	表面は皿状に凹む 凹石供用	炉石	PL26

第16号住居跡 (第39・40図)

位置 調査区中央部のR17J9区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第13号住居に掘り込まれている。

規模と形状 斜面部に構築されており、西側の壁は削平を受けている。残存状況から、長径は4.70m、短径は2.90mと推定され、主軸方向がN-30°-Eの楕円形と推測できる。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は12~16cmである。

床 残存部はほぼ平坦で、特に硬化した部分は認められなかった。

ピット 3か所。P1・P2・P3は、深さ32cm・17cm・18cmで、性格不明である。

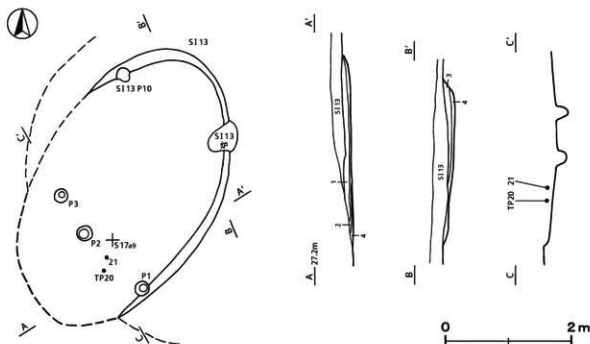
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

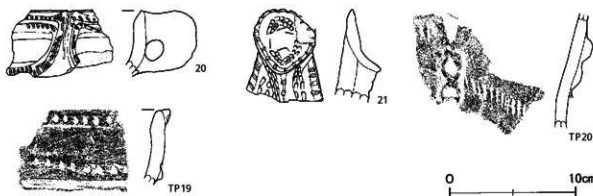
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片145点(口縁部26, 胴部115, 底部4), 石器2点(磨石)が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から中期中葉(阿玉台式Ⅱ式期)と考えられる。



第39図 第16号住居跡実測図



第40図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表 (第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	-	(52)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい焼	普通	辺縁を有する隆帯によって加飾された縦線状把手の基部に縄文	覆土中	5% PL21
21	縄文土器	深鉢	-	(74)	-	長石・石英・ 雲母・褐色粘土	にぶい焼	普通	キザミを有する隆帯と複列の縦線状把手によって加飾された縦線状把手	覆土中	5% PL21

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部直下の隆帯上に連続した刺突文 隆帯に沿って押引き状の刺突文が通る	覆土中	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	押圧文を有する隆帯を直下 キザミ目列が通る	覆土中	

表2 縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸・短軸)	壁高 (cm)	床面 距高	ピット			炉	覆土	主な出土遺物	時期	備考 竪穴跡 (古・新)	
							主 柱 穴	柱 穴 不明	出 入 口						
1	R170	-	[円形]	[7.4]	-	平坦	-	5	-	1	土器埋込炉	縄文土器・石皿・ 黏石・浮子	中期後葉	SK115・118-122→本跡	
2	Q19g5	N-11°-W	楕円形	3.90×3.28	34-38	皿状	-	2	-	1	石皿炉・ 埋込炉	縄文土器・石皿・ 石皿・黏石・石片	中期後葉	515→本跡	
3	R19f3	N-16°-E	[楕円形] [楕円長方形]	(2.50)×3.86	60-64	平坦	ほぼ 全周	1	5	-	人高	縄文土器・土器片 縄文土器・石皿・ 黏石	中期後葉	SK54→本跡-S12	
4	R19a5	-	円形	(6.40)×6.02	10-12	平坦	-	4	-	22	地床炉2	人高	縄文土器	中期後葉	516, 5K80-89→本跡-SK58 S110との新旧跡不明
5	Q19h5	N-44°-E	楕円形	5.74×4.84	13-40	皿状	-	2	-	8	土器片置炉	自然	縄文土器	中期後葉	本跡-S12
6	R19b5	N-10°-W	[円形] [楕円形]	(2.68)×4.14	13-16	平坦	-	-	-	-	自然	縄文土器・磨石	中期後葉	P41→本跡-S14, 5K58・80・ 91 S110との新旧跡不明	
7	R19a3	-	不整形	5.30×4.90	4-14	平坦	-	3	-	1	石置炉	自然	縄文土器・凹石	中期後葉	SK76→本跡-SK75・84
8	R19e1	N-39°-E	楕円形	5.08×4.54	8-13	凹凸	-	5	-	-	土器埋込炉	自然	縄文土器・土器片 片置・打製石斧	中期後葉	SK77→本跡-S114, 5K86
9	R19b1	-	不整形	4.28×3.98	8-16	平坦	-	2	-	2	-	自然	縄文土器・石皿	中期中葉	本跡-SK93
10	R19c6	-	[円形]	(8.00×7.30)	-	凹凸	-	6	-	-	石置炉	縄文土器・石皿・ 凹石	中期後葉	SK40・43・116・117→本跡・ SK65 S14・6, 5K25・31・34, P37 S41との新旧跡不明	
11	R19f2	N-8°-W	[楕円形] [楕円長方形]	(2.18)×3.30	46-50	平坦一部	2	-	2	-	自然	縄文土器	中期中葉	SK98→本跡-SK86-99	
12	R19e4	-	[円形]	[8.46×8.30]	-	平坦	-	7	-	1	[土器片置内・ 地床炉]	縄文土器	中期後葉	S13, 5K32・47・49・54・80・ 85→本跡 S14, 5K42・46・52・53・111, P33との新旧跡不明	
13	R17j9	N-55°-E	[楕円形]	(6.05×5.22)	27	平坦	-	5	-	-	土器埋込炉	人高	縄文土器	中期後葉	S116, SK123→本跡
14	R19d3	-	[円形]	[8.93×8.66]	-	平坦	-	6	-	5	[石置炉]・ 地床炉	縄文土器・石皿	中期後葉	S18, 5K47・49・50・88・90・ 109・111, 4号跡1→本跡・ SK97 S112, SK53との新旧跡不明	
16	R17j9	N-30°-E	[楕円形]	(4.70×2.90)	12-16	平坦	-	-	-	3	-	自然	縄文土器	中期中葉	本跡-S113

(2) 土 坑

第 1 号土坑 (第41図)

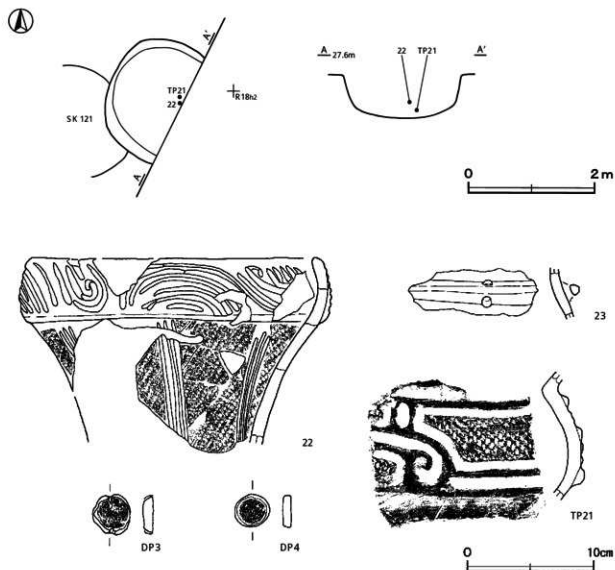
位置 調査区中央部のR18h1区、標高27mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第121号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南東側が調査区域外に延びているため、東西径は1.18mが確認されただけで、南北径は1.90mである。径1.9mほどの円形と推測できる。深さは70cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 縄文土器片825点(口縁部91, 胴部711, 底部23), 土製品2点(土器片鏟, 土器片円盤), 石器2点(磨石)が、覆土上層から下層にかけて出土している。23は覆土上層から、22・TP21は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 堆積状況は不明であるが、覆土下層から出土している土器から、時期は中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第41図 第1号土坑・出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表 (第41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
22	縄文土器	深鉢	[224]	(149)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部は沈線文、胴部は3条一組の沈線による懸垂文陶を盛り流す、R.L.の帯刷縄文	覆土下層	20%
23	縄文土器	有孔網付	-	(40)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	橙	普通	胴部と口縁部の境に、穿孔された肉状の隆帯を送らす	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粘土	にぶい 橙	普通	沈線に沿う隆帯による渦巻文・区画文 R.L.R.の帯刷縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP3	土器片種	3.1	3.0	0.8	8.8	長石・石英	灰褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 彫文	覆土中	
DP4	土器片片断	2.6	2.7	0.7	6.3	長石・石英・ 雲母	にぶい 橙	周辺部を研磨 彫文	覆土中	

第2号土坑 (第42図)

位置 調査区中央部のR1719区、標高27mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第114号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.46m、短径0.82mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。深さは22cmで、底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

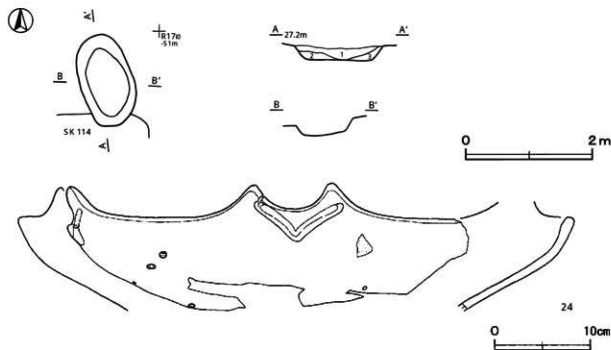
1 層 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

3 層 褐色 ロームブロック少量

2 層 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片292点(口縁部24、胴部256、底部12)が、覆土上層から下層にかけて出土している。土器は覆土上層から集中して出土しており、覆土中層から下層にかけての出土量は少なく、ほとんどが細片である。24は、試掘調査で出土したものである。

所見 出土土器は覆土上層に集中しているが、重複関係や出土土器から、時期は中期中葉(阿玉台式期)と考えられる。



第42図 第2号土坑・出土遺物実測図

第2号土坑出土遺物観察表 (第42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
24	縄文土器	浅鉢	158.0	(9.0)	-	灰石・石灰・赤色粒子	に5%赤褐色	普通	腹内・外面に研磨 補修孔あり	覆土上層 (北壁裏面)	15% PL18

第3号土坑 (第43・44図)

位置 調査区中央部のR17J0区、標高27mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.41m、短径2.04mの楕円形で、長径方向はN-8°-Eである。深さは18cmで、底面は北西壁に向かって、緩やかに傾斜している。壁はやや外傾して立ち上がっている。

ピット 2カ所。中央部と南壁際に位置している。深さは、P1が17cm、P2が14cmである。

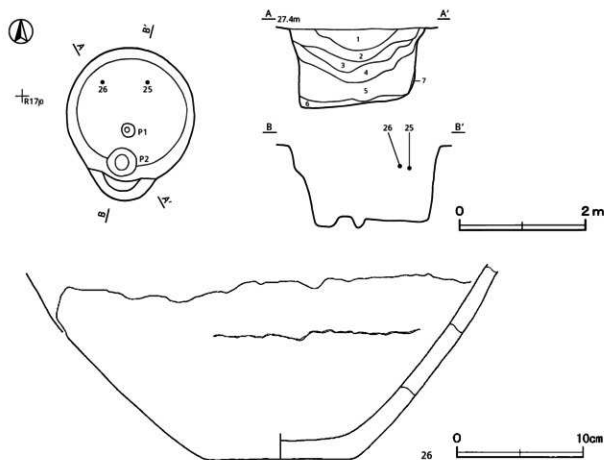
覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

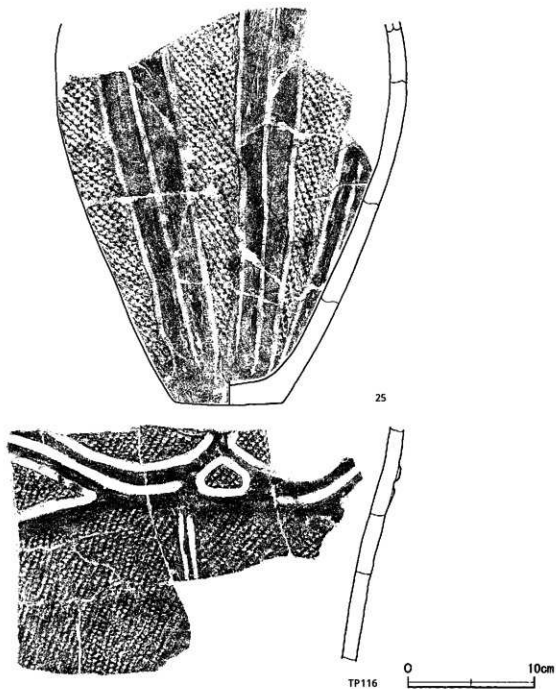
1	黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	6	暗褐色	ロームブロック少量、砂粒微量
3	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化物粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量			

遺物出土状況 縄文土器片628点(口縁部83, 胴部520, 底部25)。石器2点(磨石, 敲石), 剥片1点が、覆土上層から下層にかけて出土している。25・26は北壁寄りの覆土上層から、TP116は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第43図 第3号土坑・出土遺物実測図



第44図 第3号土坑出土遺物実測図

第3号土坑出土遺物観察表 (第43・44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
25	織文土器	深鉢	-	(30.4)	8.6	赤石・石灰・ 炭母・黄色粘土	明赤褐	普通	3色一組の次線による帯層文様を磨り消し L R Lの帯 部織文	覆土上層	50%
26	織文土器	深鉢	-	(15.4)	11.5	赤石・石灰・ 炭母・黄色粘土	明赤褐	良好	無文 内・外面を入念に研磨 外面赤彩 スス付着	覆土上層	35%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP116	織文土器	深鉢	赤石・石灰・炭母	明赤褐	普通	口縁部は次線による区画文 胴部は次線による帯層文様を磨り消し Lの帯部織文	R 覆土下層	

第4号土坑（第45図）

位置 調査区東部のQ1917区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.48m、短径1.30mの楕円形で、長径方向はN-48°-Eである。深さは54cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

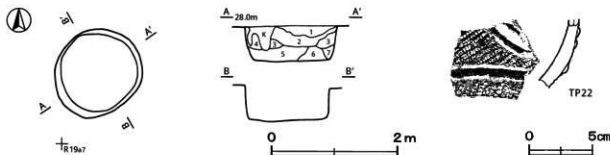
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片54点（口縁部3、胴部48、底部3）が、覆土上層から下層にかけて出土している。

TP22は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第45図 第4号土坑・出土遺物実測図

第4号土坑出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に濃い赤褐色	普通	口縁部と胴部を隣接する区画 口縁部は波線に沿って文様を抽出 胴部はR.Lの半筋線文	覆土下層	

第5号土坑（第46図）

位置 調査区東部のQ1919区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.26m、短径1.94mの楕円形で、長径方向はN-66°-Eである。深さは112cmで、底面は平坦であり、東西方向の壁は下位では内傾して、中位から上位に外傾して立ち上がっている。南北方向の壁は直立している。

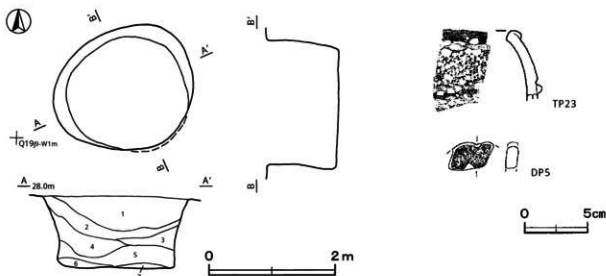
覆土 7層に分層できる。第1・2層はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第3～7層は、ロームブロックや鹿沼パミスを多く含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|---------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 濃い黄褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス微量 | 7 濃い黄褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片137点（口縁部13、胴部122、底部2）、土製品1点（土器片鏝）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP23は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第46図 第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表 (第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	灰石・石英・赤色粒子	に高い質	普通	口縁部を沈線に沿う地帯で横位区画 器面剥落	覆土下層	

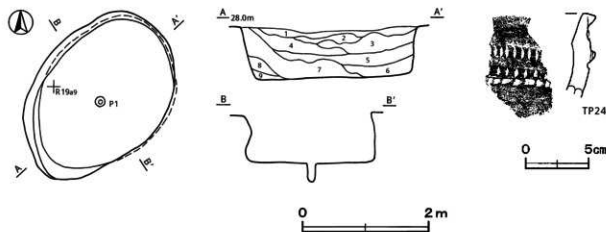
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP5	土器片縁	(22)	(35)	1.0	(8.8)	灰石・石英・赤色	暗褐色	周辺部研磨 上端部にキザミ 黒文	覆土中	

第6号土坑 (第47図)

位置 調査区東部のR19a9区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.86m、短径2.04mの楕円形で、長径方向はN-30°-Eである。深さは78cmで、底面は平坦である。北壁は下位から中位にかけて内傾し、上位では外傾して立ち上がっている。その他の壁は直立している。

ピット 中央部に位置している。深さは30cmである。



第47図 第6号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片73点（口縁部5，胴部65，底部3），石器1点（磨製石斧）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP24は，覆土最下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ・Ⅲ式期）と考えられる。

第6号土坑出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP24	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母	黒1層	露漚	キザミを有し結節沈線に沿う隆帯とキザミ目列が通る	覆土最下層	

第7号土坑（第48図）

位置 調査区東部のR19a9区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

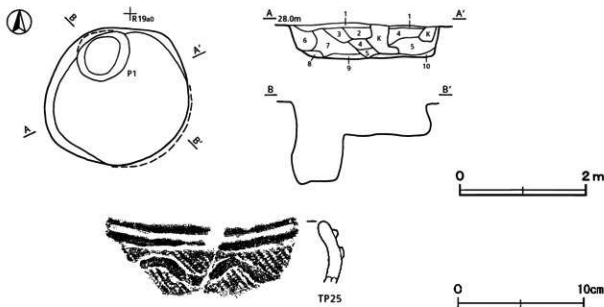
規模と形状 長径2.40m，短径2.20mの円形である。深さは50cmで，底面は平坦であり，壁は南東壁が内傾して立ち上っている以外は，直立している。

ピット 北壁際に位置している。深さは74cmである。

覆土 10層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 10 黄褐色 | ロームブロック多量 |



第48図 第7号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片130点（口縁部14，胴部116），石器1点（磨石）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP25は，覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。

第7号土坑出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	に濃い1種	普通	口縁部を波状陰帯が通る R L の単部縄文	覆土中層	

第8号土坑（第49図）

位置 調査区東部のR20a1区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.14m，短径2.00mの円形である。深さは45cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 西壁際に位置している。深さは42cmである。

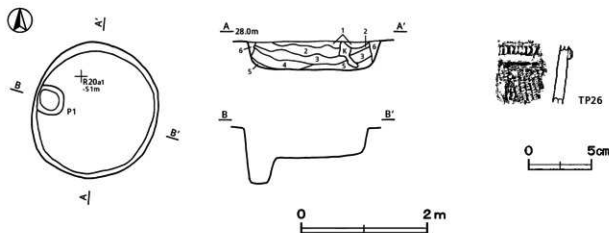
覆土 6層に分層できる。全体にロームブロックを多く含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片32点（口縁部3，胴部27，底部2）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP26は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台N 式期）と考えられる。



第49図 第8号土坑・出土遺物実測図

第8号土坑出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	に濃い1種	普通	キザミ色を有する陰帯に沈線が沿う 0段多糸によるR L の単部縄文	覆土下層	

第9号土坑（第50・51図）

位置 調査区東部のR19b9区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.95m、短径2.80mの円形である。深さは60cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

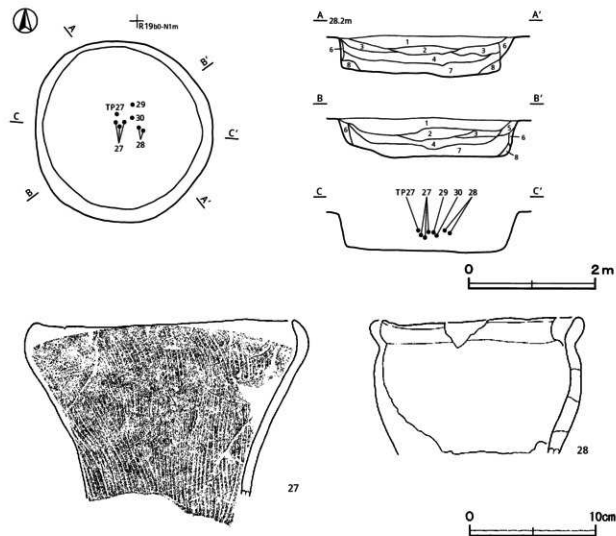
覆土 8層に分層できる。全体にロームブロックを多く含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

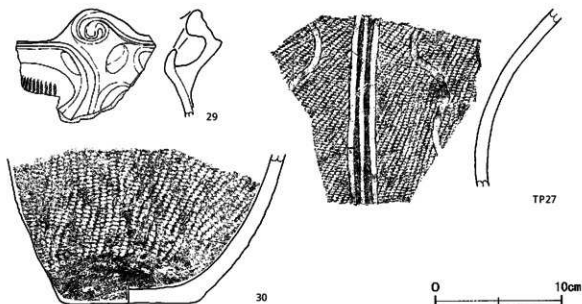
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片345点（口縁部35、胴部305、底部5）、剥片4点が、覆土上層から下層にかけて出土している。土器は、中央部の覆土中層から集中して出土しており、覆土下層からの出土量は少なく、ほとんどが細片である。

所見 出土土器が覆土中層に集中しているため、廃絶時期は明確でないが、覆土中層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ時期）と考えられる。



第50図 第9号土坑・出土遺物実測図



第51図 第9号土坑出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表 (第50・51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
27	縄文土器	深鉢	20.4	(13.9)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	に濃い黄緑	普通	網織状工具による条線文	覆土中層	35% PL18
28	縄文土器	深鉢	[116.2]	(10.8)	-	長石・石英	褐灰	普通	無文 内・外面研磨	覆土中層	25%
29	縄文土器	深鉢	-	(8.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	網織状把手 沈線と隆帯による渦巻文 口縁部は照糸文	覆土中層	5% PL21
30	縄文土器	深鉢	-	(11.7)	10.2	長石・石英・ 雲母	に濃い橙	普通	R.Lの半部縄文	覆土中層	35%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP27	縄文土器	深鉢	雲母・赤色粒子	褐	普通	3条一組の沈線による器底文周を磨り消し R.Lの半部縄文	覆土中層	

第10号土坑 (第52図)

位置 調査区東部のR19b9区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.69m、短径1.57mの円形である。深さは60cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

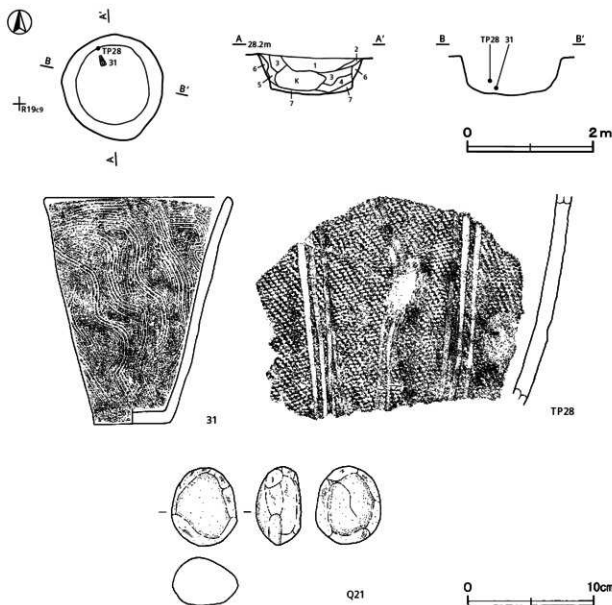
覆土 7層に分層できる。覆土中層から下層にかけて攪乱があり空容は不明であるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片192点(口縁部26, 胴部160, 底部6), 石器3点(打製石斧2, 磨石1)が、覆土上層から下層にかけて出土している。土器は、北壁寄りの覆土下層から集中して出土している。31は、北壁寄りの覆土下層から、口縁部を下方として斜位で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第52図 第10号土坑・出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表 (第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
31	織文土器	深鉢	144	18.0	6.0	長石・石英・雲母・黄色粘土	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による波状条線文	覆土下層	95% PL18

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	3条一組の次線と2条一組の次線による整型文 L Rの半部織文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	磨石	62	52	36	100.5	石英	全側面を使用	覆土上層	

第11号土坑 (第53・54図)

位置 調査区東部のR19c8区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南東側が調査区域外に延びているため、南北径は1.92mが確認されただけで、東西径は2.40mである。長径方向がN-13°-Wの楕円形と推測できる。深さは44cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。北西部と中央部に位置している。深さは、P1が62cm、P2が63cmである。

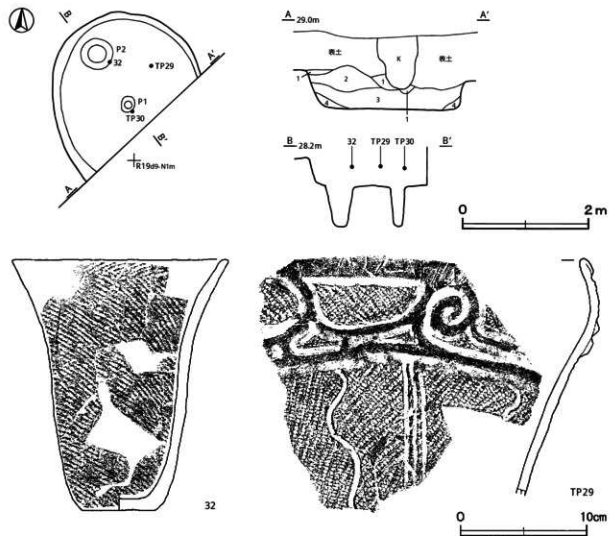
覆土 4層に分層できる。第1・2層はブロック状の堆積状況から埋め戻されており、第3層以下はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・細粒炭量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片384点（口縁部40、胴部324、底部20）、石器2点（磨石）が、確認面から覆土下層にかけて出土している。土器は、中央部の覆土中層に集中して出土しており、覆土下層からの出土量は少なく、ほとんど細片である。32・TP29・TP30は、いずれも中央部の覆土中層から出土している。

所見 廃絶後に土が流入し、ある程度埋まりかけた時点で、土器の廃棄行為に伴う埋め戻しが行われたと考えられる。出土土器が覆土中層に集中しているため、廃絶時期は明確でないが、覆土中層の堆積時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第53図 第11号土坑・出土遺物実測図



第54図 第11号土坑出土遺物実測図

第11号土坑出土遺物観察表 (第53・54図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
32	織文土器	深鉢	[170]	190	60	長石・石英・ 雲母	橙	普通	Lの無節織文	覆土中層	45% PL18
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか			出土位置	備考	
TP29	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部は次線が沿う輪帯による渦巻文・区画文 胴部は3条一組の次線と波状の次線による渦巻文 R Lの単節織文			覆土中層		
TP30	織文土器	深鉢	石英・雲母	橙灰	普通	口縁部は次線で区画 口縁部直下に輪帯に沿って斜交文 胎土文と交互斜交文による口縁部文帯等 胴部は次線による無節文帯を施す			覆土中層		
TP31	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	交互斜交による連続つ字状文 輪帯と次線による渦巻文 内・外面赤彩			P1 覆土中		

第12号土坑 (第55・56図)

位置 調査区東部のR19b8区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

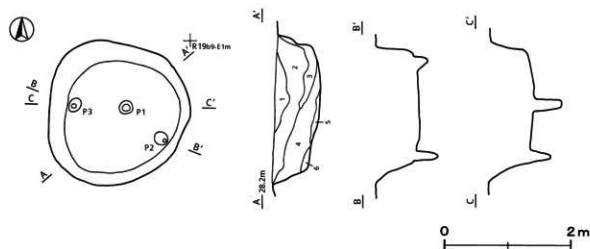
規模と形状 径2.3mほどの円形である。深さは68cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ビット 3か所。P1は中央部に、P2・P3は壁際に位置している。深さは、P1が43cm、P2が18cm、P3が36cmである。

覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第3層はロームブロックを多く含み、堆積状況から壁の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |



第55図 第12号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片186点（口縁部21，胴部152，底部13），土製品1点（土器片円盤）が，覆土上層から下層にかけて出土している。33・TP32は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第56図 第12号土坑出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
33	縄文土器	深鉢	-	(61)	-	長石・石英	にぬい肌層	普通	口縁部直下に内・外面に隆帯が走る 隆帯側面に2列の結節状線文 隆帯上しRの準節線文隆文	覆土下層	5%
TP32	縄文土器	浅鉢				長石・石英・雲母	にぬい肌	普通	隆文 内・外面を人念に研磨 輪縁孔あり	覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP6	土器片円盤	3.4	3.9	1.2	17.2	長石・石英・雲母・黄色粘土	褐	周辺部を研磨 条線文	覆土中層		

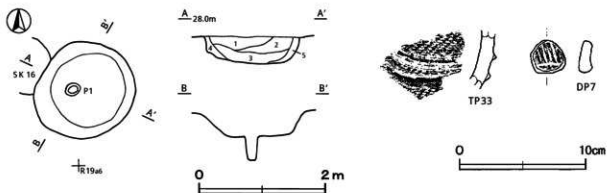
第15号土坑（第57図）

位置 調査区東部のQ19J6区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.60m，短径1.48mの円形である。深さは36cmで，底面は平坦であり，壁は南西壁が緩やかに立ち上がっている以外は，外傾して立ち上がっている。

ピット 中央部に位置している。深さは36cmである。



第57図 第15号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片45点（口縁部4，胴部40，底部1），土製品1点（土器片円盤）が，覆土上層から下層にかけて出土しており，土器のほとんどが細片である。TP33は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から，中期後葉（加曾利EⅡ式）以降で，後期には至らないと考えられる。

第15号土坑出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	隆解文 R Lの準部縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP7	土器片円盤	2.6	2.8	1.0	5.7	長石・石英・雲母	にぶい褐色	周辺部研磨 沈線文	覆土中層	

第16号土坑（第58図）

位置 調査区東部のQ19J5区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号土坑に掘り込まれている。第18号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 第15号土坑に掘り込まれているため，東西径は0.86mが確認されただけで，南北径は0.95mである。径0.9mほどの円形と推測できる。深さは42cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 北西壁際に位置している。深さは12cmである。

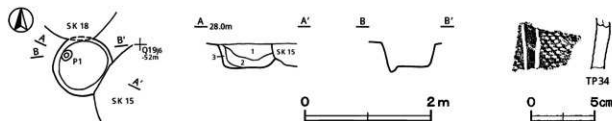
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片21点（口縁部1，胴部19，底部1）が，覆土上層から下層にかけて出土しており，ほとんどが細片である。TP34は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第58図 第16号土坑・出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP34	縄文土器	深鉢	長石・雲母	褐色	普通	沈線による磨面文層を磨り消し R L Rの準部縄文	覆土下層	

第19号土坑（第59図）

位置 調査区東部のR19a6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.22m、短径1.88mの楕円形で、長径方向はN-26°-Wである。深さは68cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

ピット 4か所。中央部と壁際に位置している。深さは、P1が45cm、P2が24cm、P3が75cm、P4が60cmである。

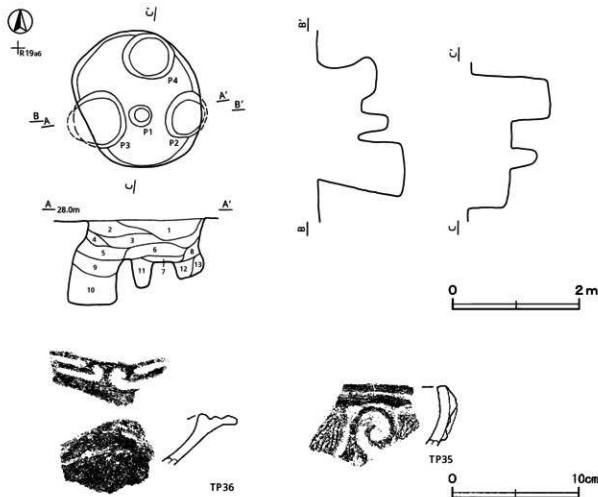
覆土 13層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 壤土ブロック多量、ロームブロック・炭化物微量 | 7 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・炭屑パミス微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック微量（第8層より明るい色調） |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 濃い黄褐色 ローム粒子中量 |
| 6 濃い黄褐色 炭化粒子多量、ローム粒子中量、炭屑パミス微量 | 12 暗褐色 ロームブロック微量 |
| | 13 濃い黄褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片199点（口縁部23、胴部172、底部4）が、覆土上層から下層にかけて出土しており、ほとんどが細片である。TP35は覆土下層から、TP36は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第59図 第19号土坑・出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表 (第59図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に501 層	普通	残帯による渦巻文 R Lの単部縄文	覆土下層	
TP36	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母 灰色粒子	に501 層	普通	口縁部は次層による渦巻文 胴部無文	覆土中層	

第20号土坑 (第60図)

位置 調査区東部のR19a6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.00m、短径1.73mの楕円形で、長径方向はN-27°-Wである。深さは70cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 中央部に位置している。深さは22cmである。

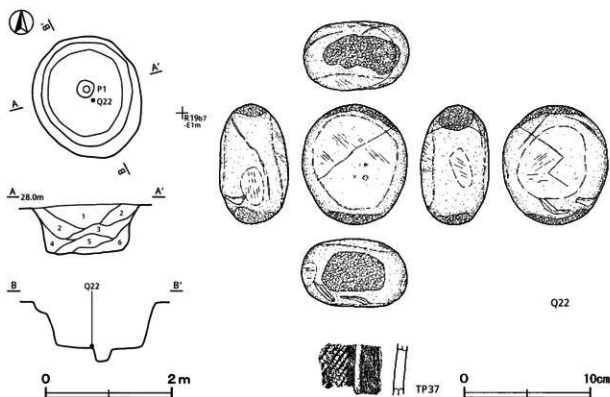
覆土 6層に分層できる。全体にロームブロックを多く含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|----------------------|
| 1 層 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物
少量 | 4 層 褐色 | ロームブロック中量 (箱まり高い) |
| 2 層 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量 | 5 層 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 層 褐色 | ロームブロック中量 | 6 層 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片146点 (口縁部12, 胴部132, 底部2), 土製品1点 (土器片鏟), 石器2点 (磨石, 敲石) が、覆土上層から下層にかけて出土している。土器は細片がほとんどであり、特に覆土上層から中層にかけて集中して出土している。TP37は覆土中層から、Q22は中央部の底面からそれぞれ出土している。

所見 出土土器が覆土上層から中層にかけて集中しているため、廃絶時期は明確でないが、覆土中層の堆積時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利E II 式期) と考えられる。



第60図 第20号土坑・出土遺物実測図

第20号土坑出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈線による懸垂文帯を磨り消し R Lの単節縄文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	磁石	95	84	54	632.5	砂岩	両端に敲打痕 磨石着用	底面	PL25

第21号土坑（第61図）

位置 調査区東部のR19b7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.6mほどの不整形円形である。深さは80cmで、底面は皿状であり、壁は下位ではやや外傾して、上位では緩やかに外傾して立ち上がっている。

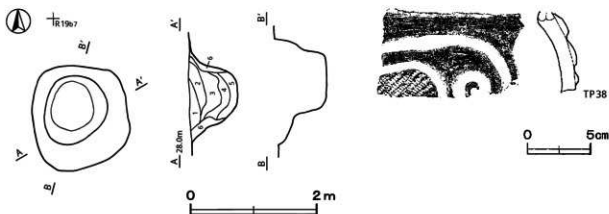
覆土 6層に分層できる。全体にロームブロックを多く含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第6層はロームブロックを多量に含み、堆積状況から壁の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片75点（口縁部10、胴部63、底部2）、土製品1点（土器片鏟）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP38は、覆土下層から出土している。覆土上層から出土している土器片鏟は、前代の阿玉台式期の土器片を利用したものであり、遺構外出土遺物として扱った。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I・II式期）と考えられる。



第61図 第21号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部は沈線が沿う隆帯による渦巻文・区画文 R Lの単節縄文	覆土下層	

第22号土坑（第62図）

位置 調査区東部のQ1915区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.00m、短径1.67mの楕円形で、長径方向はN-33°-Eである。深さは37cmで、底面は平坦であり、壁は南西壁が緩やかに立ち上がっている以外は、やや外傾して立ち上がっている。

ビット 3か所。中央部と壁寄りに位置している。深さは、P1が26cm、P2が30cm、P3が52cmである。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含み、不自然な堆積状況から埋め戻されている。

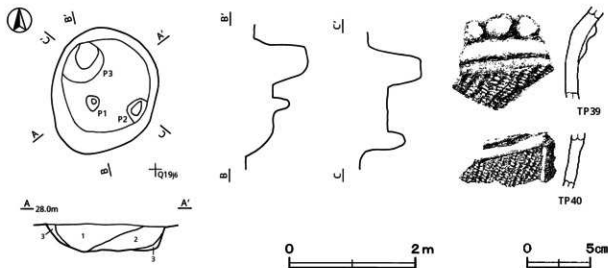
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片38点（口縁部5、胴部31、底部2）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP39・TP40は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第62図 第22号土坑・出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口縁部は階帯による区画文 R Lの単部縄文	覆土下層	
TP40	縄文土器	深鉢	長石・雲母	褐色 に赤い 赤褐色	普通	沈線による懸垂文と縋り消し L Rの単部縄文	覆土下層	

第28号土坑（第63図）

位置 調査区東部のR19d7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.12m、短径2.00mの円形である。深さは26cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ビット 3か所。壁寄りに位置している。深さは、P1が44cm、P2が41cm、P3が46cmである。

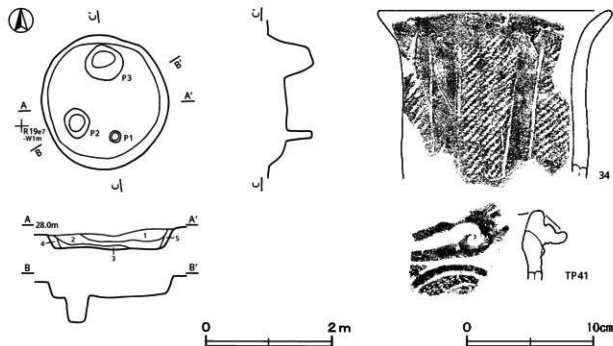
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・機土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、機土粒子・炭化粒子微量
 3 濃い黄褐色 ロームブロック少量
 4 暗褐色 ロームブロック中量
 5 褐色 ロームブロック中量、機土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片221点（口縁部33，胴部179，底部9）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP41は，P 2 の覆土中から出土している。34は，試掘調査で出土したものである。

所見 34は覆土上層から出土しているが，ビットの覆土中からも加曾利E II式期に属する小片の土器が出土しており，時期は中期後葉（加曾利E II式期）と考えられる。



第63図 第28号土坑・出土遺物実測図

第28号土坑出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
34	縄文土器	深鉢	[18.2]	(13.3)	-	長石・石英・雲母	にがしめ	普通	次第による懸垂文を磨り消し，R Lの単部縄文	覆土上層（紅褐色土）	5%
TP41	縄文土器	深鉢				長石・石英・雲母	橙	普通	深状口縁 波頂部に渦巻文 口縁部は次第に沿う種等で文様擦出 R Lの単部縄文	P 2 覆土中	

第29号土坑（第64～66図）

位置 調査区東部のR1946区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部が径2.4mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は2.6mほどの円形である。深さは72cmで，壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位は外傾して立ち上がっている。また底面から括れ部までの高さは，45～56cmである。

ビット 2か所。P 1は北東壁際に，P 2は東壁寄りに位置している。深さは，P 1が20cm，P 2が22cmである。

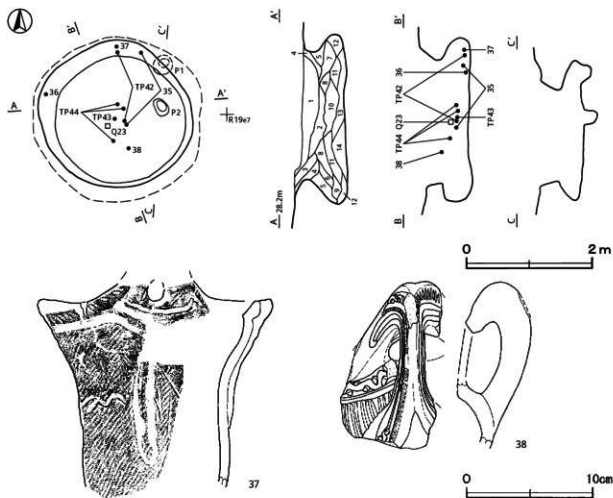
覆土 14層に分層できる。全体にロームブロックを多く含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第5層はロームブロックを多く含む粘性の強い層であり、内積する壁の崩落土と考えられる。第13・14層はロームブロックを多く含む、固く締まっていることから、開口部から流入した土が踏み固められたと考えられる。

土層解説

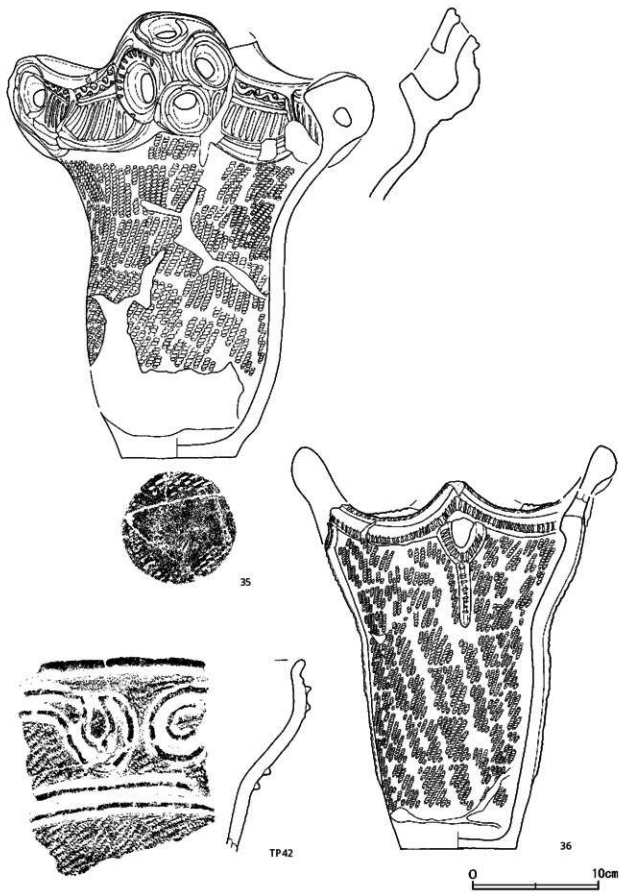
1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量	13	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	14	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量			
8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量			

遺物出土状況 縄文土器片818点（口縁部103、胴部695、底部20）、土製品6点（土器片錘5、土器片円盤1）、石器1点（磨製石斧）、剥片1点が、主に覆土下層から集中して出土している。35・37は北壁際の覆土下層から土圧で潰れた状態で、36は西壁際の覆土下層から横位でそれぞれ出土している。

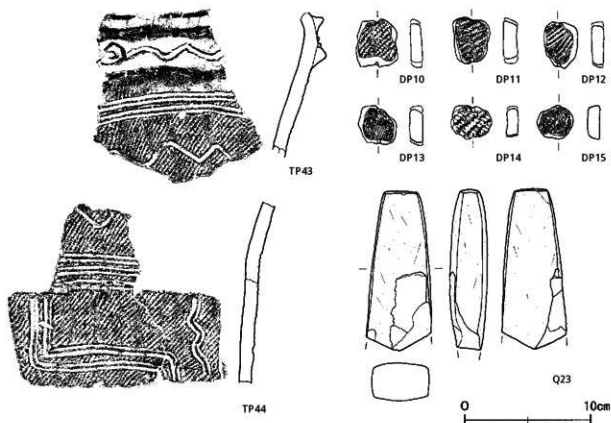
所見 遺物出土状況から、廃絶後に土器が一括廃棄されたことがうかがわれる。時期は、覆土下層から出土した35から、中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。TP43・TP44は接合しないが、胎土や文様構成から同一個体と考えられる。



第64図 第29号土坑・出土遺物実測図



第65图 第29号土坑出土文物实测图(1)



第66図 第29号土坑出土遺物実測図(2)

第29号土坑出土遺物観察表(第64~66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
35	縄文土器	深鉢	25	35.1	8.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯と沈線によって加飾された把手 口縁部に交互斜刻による連続コの字状文 R.Lの単部縄文	覆土下層	90% PL19
36	縄文土器	深鉢	[234]	31.8	9.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部から胴部にかけてキザミを有するY字状の隆帯が基下 R.Lの単部縄文	覆土下層	90% PL19
37	縄文土器	深鉢	[182]	(16.4)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部から胴部にかけて4単位の沈線に沿う隆帯を基下 R.Lの単部縄文 0段多条によるR.Lの単部縄文	覆土下層	40%
38	縄文土器	深鉢	-	(13.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	沈線とキザミを有する隆帯で加飾された縦線状把手 口縁部は交互斜刻による連続コの字状文	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰赤	普通	口縁部は沈線に沿う隆帯によって渦巻文 R.Lの単部縄文	覆土下層	
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橘沢	普通	口縁部は沈線を有する隆帯で渦巻文・波状文 胴部は波状の沈線と0段多条によるR.Lの単部縄文	覆土下層	
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	半截竹留による平行沈線文 0段多条によるR.Lの単部縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP10	土器片縁	3.8	3.3	1.0	15.1	長石・石英・雲母	黒褐	両端にキザミ 両辺部一部研磨 R.Lの単部縄文	覆土中層	
DP11	土器片縁	3.6	3.0	1.2	14.5	長石・石英・雲母	暗赤褐	両端にキザミ 両辺部研磨 R.Lの単部縄文	覆土上層	PL24
DP12	土器片縁	3.7	2.7	1.0	11.5	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい赤褐	両端にキザミ 両辺部一部研磨 赤線文	覆土中層	
DP13	土器片縁	3.1	3.0	1.0	10.5	長石・石英・雲母	褐	両端にキザミ 両辺部一部研磨 赤線文	覆土下層	
DP14	土器片縁	2.5	3.2	0.9	9.5	長石・石英・雲母・赤色粘土	褐	両端にキザミ 両辺部一部研磨 R.Lの単部縄文	覆土上層	
DP15	土器片断面	2.6	2.9	1.0	8.7	石英	橙	両辺部研磨 黒文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	磨製石斧	(12.7)	(5.2)	3.0	(325.8)	凝灰岩	定角式 全面を研磨 刃部欠損	覆土下層	PL28

第32号土坑（第67図）

位置 調査区東部のR19e5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号住居跡と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が古いと考えられる。

規模と形状 径1.5mほどの円形である。深さは33cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

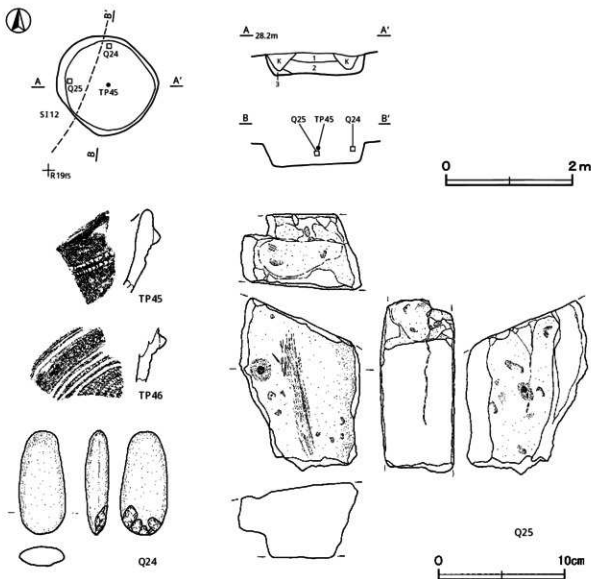
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 培 層 色 ロームブロック・炭化穀子・炭化穀子微量 3 培 層 色 ロームブロック微量
 2 培 層 色 ロームブロック・炭化穀子微量

遺物出土状況 縄文土器片64点（口縁部6，胴部52，底部6），石器2点（打製石斧，石皿）が，覆土上層から下層にかけて出土している。土器は，覆土上層から中層にかけて集中して出土しており，覆土下層からの出土量は少なく，ほとんどが細片である。

所見 出土土器が覆土上層から中層にかけて集中しているため，廃絶時期は明確でないが，出土土器の主体は阿玉台式土器であり，時期は中期中葉（阿玉台式期）と考えられる。



第67図 第32号土坑・出土遺物実測図

第32号土坑出土遺物観察表 (第67図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に濃い赤褐色	普通	隆帯に沿って複列の結節状線文	覆土上層	
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に濃い赤褐色	普通	沈線に沿う隆帯文 R Lの単節線文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	打製石斧	8.2	3.7	1.8	80.3	凝灰岩	片部調整 背面及び腹面は磨礫面	覆土上層	PL27
Q25	石皿	(13.7)	(9.6)	(5.9)	(1087g)	ホルンフェルス	両面とも横断面が面状にわずかに凹む 磨石・凹石兼用	覆土中層	

第33号土坑 (第68・69図)

位置 調査区東部のR19f5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第48号土坑及び第15号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外に延びているため、東西径は2.35m、南北径は2.02mが確認されただけである。径2.5mほどの円形と推測できる。深さは25cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 5か所。中央部と壁際に位置している。深さは、P1が34cm、P2が48cm、P3が45cm、P4が48cm、P5が40cmである。

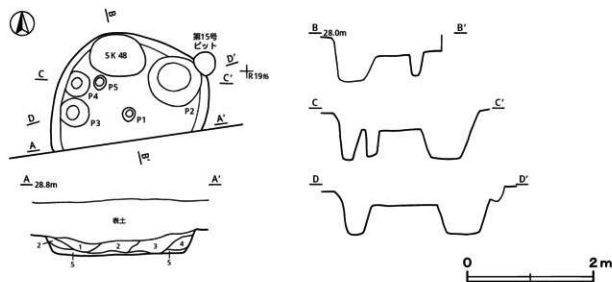
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|---------|-----------|
| 1 堆 積 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 堆 積 色 | ロームブロック少量 |
| 2 堆 積 色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 堆 積 色 | ロームブロック中量 |
| 3 堆 積 色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片66点(口縁部35, 胴部29, 底部2)が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP48は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第68図 第33号土坑実測図



第69図 第33号土坑出土遺物実測図

第33号土坑出土遺物観察表 (第69図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP47	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にじみ	普通	沈線による懸垂文様を磨り消し R Lの単部織文	覆土上層	
TP48	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	沈線に沿う幾何文 R L Rの複部織文	覆土下層	

第35号土坑 (第70・71図)

位置 調査区東部のQ19J4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第36号土坑を掘り込んでいる。

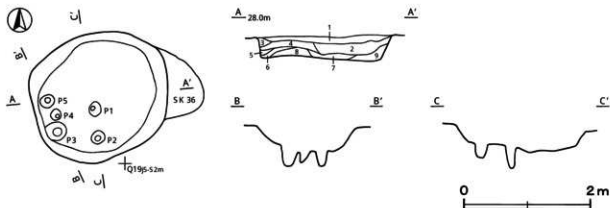
規模と形状 長径2.20m、短径1.98mの楕円形で、長径方向はN-66°-Eである。深さは43cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は南西壁が直立している以外は、緩やかに立ち上がっている。

ピット 5か所。中央部と壁寄りに位置している。深さは、P1が35cm、P2が23cm、P3が33cm、P4が20cm、P5が25cmである。

覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

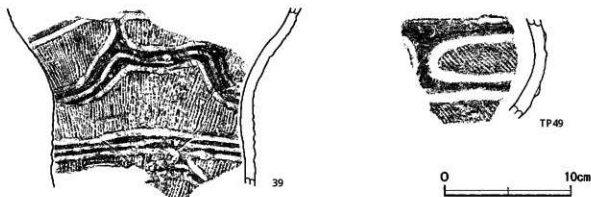
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 (第7層より明るい色調) |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量 (第3層より暗い色調) | | |



第70図 第35号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片79点（口縁部8，胴部66，底部5）が，覆土上層から下層にかけて出土している。土器は覆土上層に集中し，覆土下層からの出土量は少なく，ほとんどが細片である。TP49は，覆土上層から出土している。39は，試掘調査で出土したものである。

所見 覆土下層の土器は細片で図化できないが，覆土上層の遺物と時期差はなく，時期は出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ時期）と考えられる。



第71図 第35号土坑出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
39	縄文土器	深鉢	-	(141)	-	硜石・石英	に5%の赤褐色	普通	口縁部に沈線による区画文 断糸文	覆土上層 (区画表裏)	10%
TP49	縄文土器	深鉢	石英・雲母			に5%の黒質	普通	口縁部に沈線を有する隆帯で区画文 R.Lの半部縄文		覆土上層	

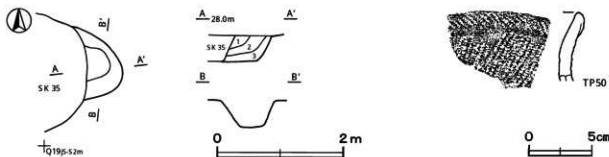
第36号土坑（第72図）

位置 調査区東部のQ19J5区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第35号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第35号土坑に掘り込まれているため，南北径は1.10m，東西径は0.58mが確認されただけである。

平面形は不明である。深さは41cm，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。



第72図 第36号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。周囲からの土の流入を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片3点（口縁部2，胴部1）が，覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置が明確でないため，廃絶時期は判断としないが，埋没した最終時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第36号土坑出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP50	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母	暗褐色	素焼	口唇部裏下が肥厚する R.Lの単部縄文	覆土中	

第40号土坑（第73図）

位置 調査区東部のR19e6区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第43号土坑を掘り込んでいる。第10号住居跡と重複しており，土層では確認できなかったが，出土土器から本跡が古いと考えられる。

規模と形状 径1.6mほどの円形である。深さは45cmで，南西部の底面はやや凹んでいる。第43号土坑を掘り込んで本跡が構築されているため，土圧等で沈み込んだものと考えられる。壁は外傾して立ち上がっている。

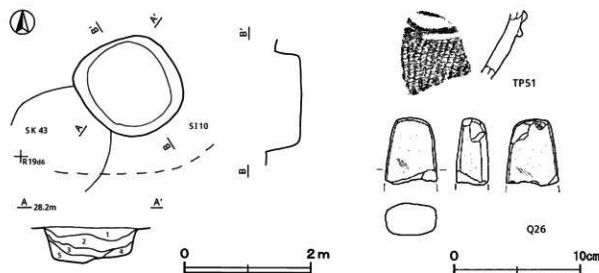
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子・炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物微量
3 暗褐色 ロームブロック少量
4 暗褐色 ローム粒子少量
5 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片132点（口縁部19，胴部110，底部3），石器1点（磨製石斧）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP51は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第73図 第40号土坑・出土遺物実測図

第40号土坑出土遺物観察表 (第73図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T P51	縄文土器	深鉢	長石・石炭・雲母	に2011	普通	口縁部は沈線が沿う地帯で文様掘出 胴部はR1の単純縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q26	磨製石斧	(53)	(41)	(25)	(90.3)	鮎紋岩	定角式 器体研磨入念 刃部欠損	覆土上層	

第41号土坑 (第74・75図)

位置 調査区東部のR19d5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第66号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部が長径2.50m、短径2.26mの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.61m、短径2.47mの円形である。深さは73cmで、壁は南壁から東壁にかけて一部が直立しているが、全体として下位から括れ部にかけて内傾し、上位は外傾して立ち上がっている。また底面から括れ部までの高さは44～60cmである。

ピット 3か所。P1は南東壁際、P2・P3は南東部と北東部のそれぞれ壁寄りに位置している。深さは、P1が31cm、P2が39cm、P3が27cmである。

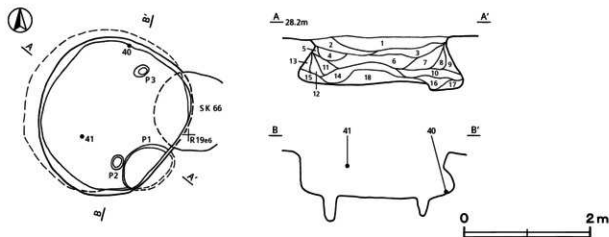
覆土 18層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

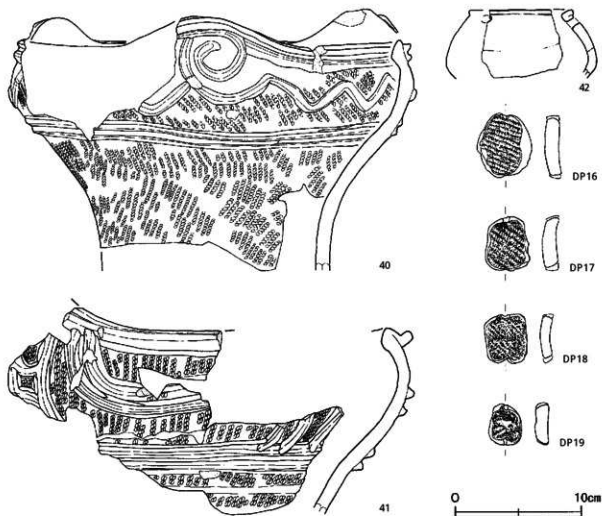
- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量(細まり弱い) |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |
| 10 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片804点(口縁部105、胴部668、底部31)、土製品4点(土器片鍾)、石器5点(打製石斧1、磨製石斧4)、剥片1点が、確認面から底面にかけて出土している。40の胴部下半を欠く深鉢は、北壁際の底面から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第74図 第41号土坑実測図



第75図 第41号土坑出土遺物実測図

第41号土坑出土遺物観察表 (第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
40	縄文土器	深鉢	29.2	(20.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橘	普通	辺縁を有する腹中で口縁部と胴部を区別、口縁部には隣層による渦巻文・波状文、R Lの単部縄文	床面	50% PL19
41	縄文土器	深鉢	-	(16.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	辺縁に沿う輪帯で口縁部文様帯を構成、R L Rの複部縄文	覆土中層	10%
42	縄文土器	深鉢	[8.0]	(45)	-	長石・石英・雲母・砂鉄粒子	にぶい橘	普通	無文、口縁部直下に1孔	覆土上層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP16	土器片縁	5.0	4.9	1.2	30.1	長石・石英・雲母	にぶい橘	両端にキザミ、両辺部一部保留、R Lの単部縄文	覆土中層	
DP17	土器片縁	4.4	3.6	1.2	23.1	石英・雲母	黒褐色	両端にキザミ、両辺部研磨、R Lの単部縄文	覆土中層	
DP18	土器片縁	3.9	3.4	1.0	15.4	長石・雲母	暗褐色	両端にキザミ、両辺部研磨、R Lの単部縄文	覆土上層	PL24
DP19	土器片縁	3.3	2.6	1.1	11.4	長石・石英	灰褐色	両端にキザミ、両辺部研磨、R Lの単部縄文	覆土下層	

第42号土坑 (第76図)

位置 調査区東部のR19d5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 径1.7mほどの円形である。深さは14cmで、底面はほぼ平坦であり、壁はやや外傾して立ち上がっている。

ビット 2か所。中央部と北西壁際に位置している。深さは、P1・P2ともに47cmである。

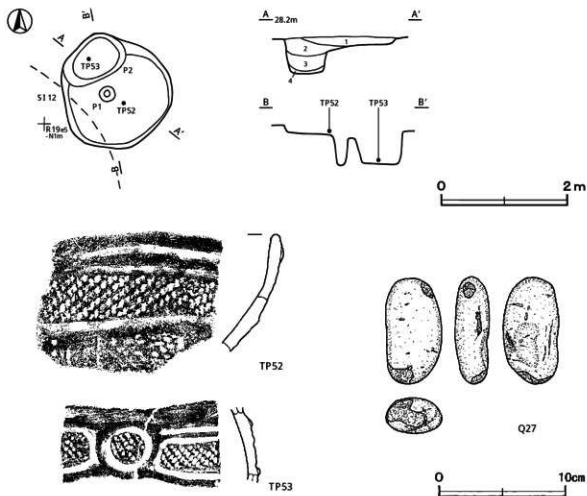
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・細砂微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片212点（口縁部23、胴部184、底部5）、石器2点（石皿、敲石）、剥片3点が、確認面から覆土下層にかけて出土している。TP52は中央部、TP53はP2の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第76図 第42号土坑・出土遺物実測図

第42号土坑出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部は沈線に沿う隆帯で文様擦出 胴部は沈線による懸垂文周を磨り消し LRLの準刷線文	覆土下層	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	淡黄緑	普通	沈線に沿う隆帯で区刷文 区画内はR Lの準刷線文施文	P2 覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	敲石	85	44	27	150.3	チャート	下層・側壁に敲打痕	覆土上層	

第43号土坑（第77・78図）

位置 調査区東部のR19c6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第40号土坑に掘り込まれている。第10号住居跡と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から、本跡が古いと考えられる。

規模と形状 フラスコ状土坑である。第40号土坑に掘り込まれているため、開口部は長径が2.10mと推定され、短径が1.59mで楕円形と推測できる。底面はほぼ平坦で、平面形は径3.2mほどの円形である。深さは124cmで、下位から括れ部にかけて内傾し、上位は南北方向では緩やかに立ち上がり、東西方向ではほぼ直立している。また底面から括れ部までの高さは48～88cmである。

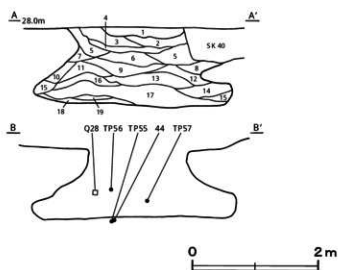
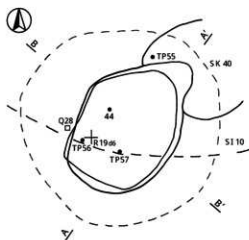
覆土 19層に分層できる。第1～3層はレンズ状の堆積状況から自然堆積である。第4層以下は、ロームブロックを多く含み、締まりが弱く、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第17・19層はロームブロックを多く含み、特に固く締まっていることから、開口部から流入した土が踏み固められたと考えられる。

土層解説

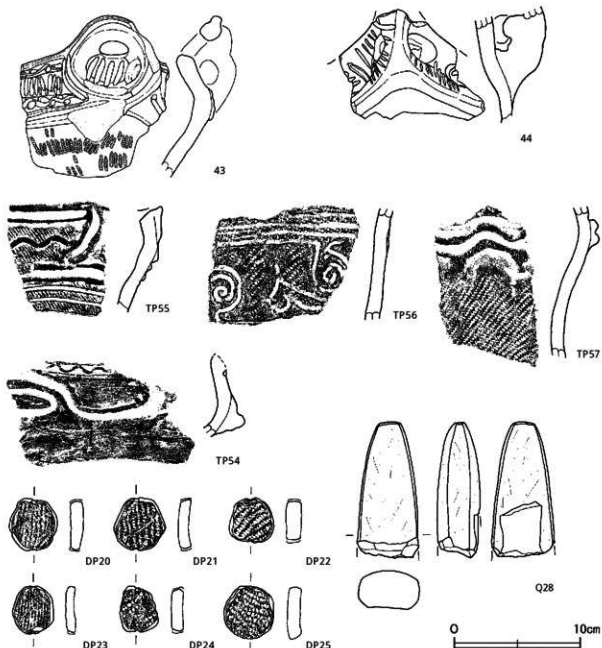
- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 近い黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 17 褐色 | ロームブロック多量、焼土パミス微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 18 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量（締まり弱い） |
| 9 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 19 近い黄褐色 | ロームブロック多量、焼土パミス微量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック少量・焼土粒子・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片595点（口縁部106、胴部448、底部41）、土製品6点（土器片鍾5、土器片円盤1）、石器1点（磨製石斧）が、確認面から底面にかけて出土している。44は中央部の底面、TP55は北東壁寄りの底面に近い覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第77図 第43号土坑実測図



第78図 第43号土坑出土遺物実測図

第43号土坑出土遺物観察表 (第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
43	縄文土器	深鉢	-	(129)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	沈線を有する隆帯で加飾された把手 口縁部は段位の沈線と交互斜交文 L Rの単部縄文	覆土下層	5%
44	縄文土器	深鉢	-	(90)	-	長石・石英・雲母	に灰1部焼	普通	段位の沈線で加飾された唇縁状把手 口縁部は沈線文	底面	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP54	縄文土器	深鉢	長石・雲母	に灰1部焼	普通	口縁部直下に交互斜交による連続口の字状文 背に沈線を施した隆帯が肩状に広がる	覆土下層	
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部・隆帯を隆帯と沈線で区画 口縁部には波状の隆帯が広がる R Lの単部縄文	覆土下層	
TP56	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐色	普通	沈線文により渦巻き状モチーフを備出 R Lの単部縄文	覆土中層	
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	普通	沈線を有する隆帯が波状に広がる R Lの単部縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP20	土器片縁	41	3.7	1.1	21.0	長石・石英・赤色胎子	黒褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 L Rの単部縄文	覆土中	
DP21	土器片縁	41	4.1	1.0	18.7	長石・石英・赤色胎子	灰褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 L Rの単部縄文	覆土下層	
DP22	土器片縁	35	3.4	1.2	16.9	長石・石英・赤色胎子	黒褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	覆土中	
DP23	土器片縁	3.7	3.1	0.8	11.3	長石・石英・赤色胎子	褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 L Rの単部縄文	覆土中	
DP24	土器片縁	3.6	3.0	1.0	12.3	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄褐色	両端にキザミ 周辺部一部研磨 R Lの単部縄文	覆土下層	
DP25	土器片縁	41	4.0	1.1	17.6	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄褐色	周辺部研磨 R Lの単部縄文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	磨製石斧	(10.7)	4.9	3.4	(25.4)	凝灰岩	定角式 器体研磨入念 刃部欠損	覆土中層	Pl.28

第46号土坑 (第79図)

位置 調査区東部のR19f4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 径1.8mほどの円形である。深さは34cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は北東壁が内傾している以外は、外傾して立ち上がっている。

ピット 北壁際に位置している。深さは30cmである。

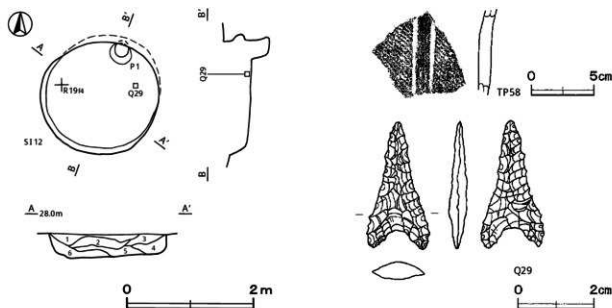
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片103点（口縁部13、胴部88、底部2）、石器1点（石鏃）が、確認面から覆土下層にかけて出土している。TP58は覆土下層から、Q29は東壁寄りの底面に近い覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第79図 第46号土坑・出土遺物実測図

第46号土坑出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石炭・雲母	橙	普通	沈線による懸垂文間を磨り消し L Rの華部縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	石鏡	3.3	1.6	0.5	1.6	チャート	両面押圧刻線 凹部無蓋線	覆土下層	PL28

第47号土坑（第80図）

位置 調査区東部のR19e3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第49号土坑に掘り込まれている。第12・14号住居跡と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が古いと考えられる。

規模と形状 開口部が長径1.09m、短径0.90mの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、北側を第49号土坑に掘り込まれているが、平面形は残存状況から径1.6mほどの円形と推測できる。深さは67cmで、壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり、上位は北壁では直立している以外は、外傾して立ち上がっている。また底面から括れ部までの高さは40~44cmである。

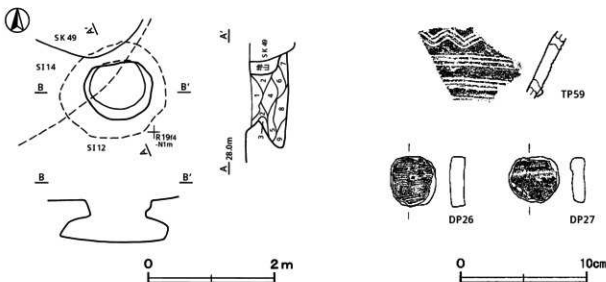
覆土 9層に分層できる。全体にロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 濃い黄褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片94点（口縁部9、胴部84、底部1）、土製品2点（土器片円盤）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP59は、覆土中層から出土している。

所見 覆土下層の土器は細片で図化できないが、阿玉台式期に属するものであり、時期は中期中葉（阿玉台式期）と考えられる。



第80図 第47号土坑・出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表 (第80図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP59	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	普通	3条一組の結節沈線と波状の沈線が口縁部を巡る	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP26	土器片円盤	40	31	12	20.1	長石・石英・雲母	黒褐色	周辺部研磨 赤線文	覆土中	
DP27	土器片円盤	37	40	12	18.7	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	周辺部研磨 輪解文 結節沈線文	覆土上層	

第49号土坑 (第81~83図)

位置 調査区東部のR19e3区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第47号土坑を掘り込んでいる。第12・14号住居跡と重複しており, 土層では確認できなかったが, 出土土器から本跡が古いと考えられる。

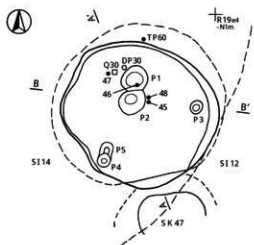
規模と形状 開口部が長径2.46m, 短径2.20mの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.75m, 短径2.58mの円形である。深さは87cmで, 壁は南壁が外傾して立ち上がっている以外は, 下位は括れ部にかけて内傾して立ち上がり, 上位は直立している。また底面から括れ部までの高さは50~72cmである。

ピット 5か所。中央部と壁寄りに位置している。深さは, P1が27cm, P2が22cm, P3が8cm, P4が28cm, P5が10cmである。

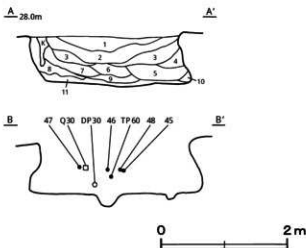
覆土 11層に分層できる。第1~3層はレンズ状の堆積状況から自然堆積であり, 第4層以下は, ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 6 にがい赤褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量 (細まり認め) |
| | | 11 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭屑パリス微量 |

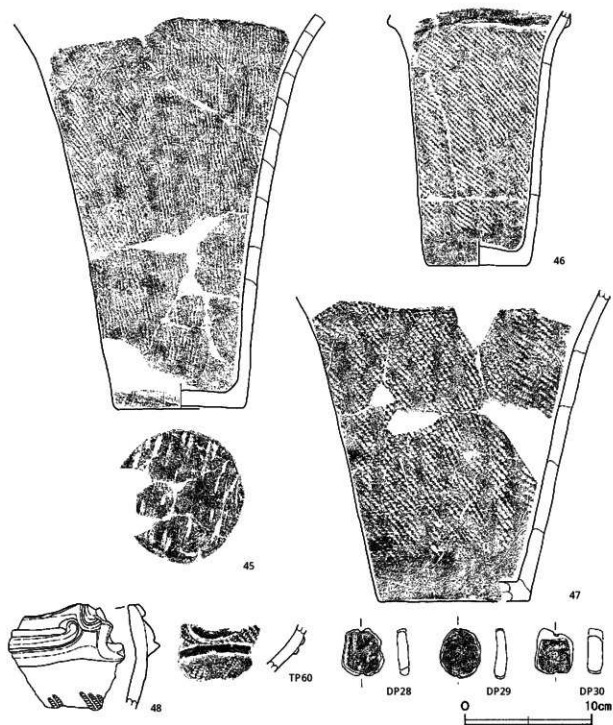


第81図 第49号土坑実測図

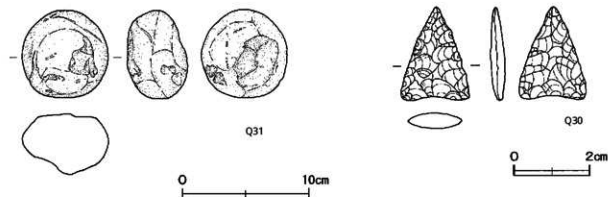


遺物出土状況 縄文土器片834点（口縁部102，胴部694，底部38），土製品3点（土器片鍾），石器2点（石鏃，磨石），剥片2点が，覆土上層から下層にかけて出土している。45～47の大形破片の土器が，中央部の覆土中層から集中して出土している。相対的に覆土下層からの土器の出土量は少なく，細片が多い。

所見 覆土中層まで埋め戻された後，土器が一括廃棄されたものと考えられる。出土土器が覆土中層に集中しているため，廃絶時期は明確でないが，覆土中層の堆積時期は，出土土器から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第82図 第49号土坑出土遺物実測図(1)



第83図 第49号土坑出土遺物実測図(2)

第49号土坑出土遺物観察表(第82・83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
45	縄文土器	深鉢	-	(31.2)	10.2	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	L Rの半部縄文 底部網代模	覆土中層	65%
46	縄文土器	深鉢	-	(20.2)	8.0	長石・石英・雲母・磁石	明赤褐	普通	胴部に縄帯が通る L Rの半部縄文	覆土中層	70% PL19
47	縄文土器	深鉢	-	(24.7)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	L Rの半部縄文	覆土中層	25%
48	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	沈線に沿う隆帯で溝巻文 L Rの半部縄文	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T P60	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	沈線に沿う隆帯で口縁部の文様描出 L Rの半部縄文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP28	土器片縁	3.8	3.3	0.7	1.31	長石・石英・赤色粒子	黄褐	両端にキザミ 両辺部研磨 隆帯文 口縁部片を利用	覆土中層	
DP29	土器片縁	3.9	3.3	1.0	1.40	長石・石英	黄褐	両端にキザミ 両辺部研磨 無文	覆土中層	
DP30	土器片縁	3.6	3.0	1.2	1.54	長石・石英・赤色粒子	橙	両端にキザミ 両辺部入念に研磨 沈線文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	石鏝	2.5	1.8	0.4	1.6	チャート	両面押圧割離 凹部無茎部	覆土中層	PL28
Q31	磨石	7.0	6.9	4.8	298.5	チャート	全面を使用	覆土中層	PL25

第50号土坑(第84図)

位置 調査区東部のR19a2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.64m、短径2.23mの楕円形で、長径方向はN-10°-Eである。深さは78cmで、底面は南壁から北壁に向かって緩やかに傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。

ビット 2か所。中央部と南壁寄りに位置している。深さは、P1は40cm、P2は18cmである。

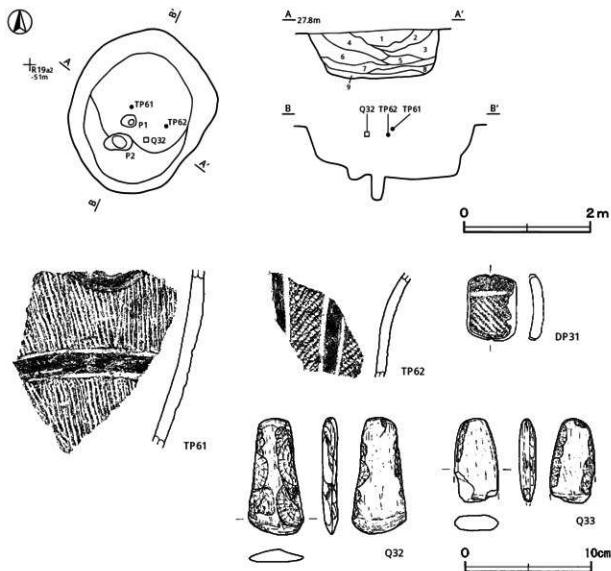
覆土 9層に分層できる。全体にロームブロックを多く含み、不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量	7	褐色	ロームブロック多量
3	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量(織まり弱い)
4	褐色	ロームブロック微量	9	褐色	ロームブロック少量
5	褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片422点（口縁部50，胴部353，底部10），土製品1点（土器片錘），石器3点（磨製石斧2，石皿1），剥片1点が，確認面から覆土下層にかけて出土している。土器は覆土の第1層から集中して出土しており，相対的に覆土中層から下層にかけての出土量は少なく，ほとんどが細片である。

所見 覆土上層まで埋戻された後，土器が一括破棄されたと考えられる。そのため廃絶時期は明確でないが，覆土上層の堆積時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第84図 第50号土坑・出土遺物実測図

第50号土坑出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英	に濃い赤褐色	普通	沈線文胸を磨り消し 煎糸文	覆土上層	
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英	に濃い赤褐色	普通	沈線による磨滅文胸を磨り消し R Lの半磨滅文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP31	土器片種	5.2	4.0	1.1	23.6	長石・石英	に濃い赤褐色	両面に平ゴミ 両辺部入念に研磨 沈線胸を磨り消し R Lの半磨滅文	確認面	PL24

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q32	磨製石斧	92	44	12	602	ホルンフェルス	剥離による両面調整後、全体を研磨	覆土上層	P28
Q33	磨製石斧 (6号)	35	12	12	(515)	緑色凝灰岩	剥離による両面調整後、全体を研磨 刃部欠損	覆土上層	

第51号土坑 (第85図)

位置 調査区東部のR19e4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.92m、短径1.80mの円形である。深さは35cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。中央部と南西壁際に位置している。深さは、P1は52cm、P2は42cmである。

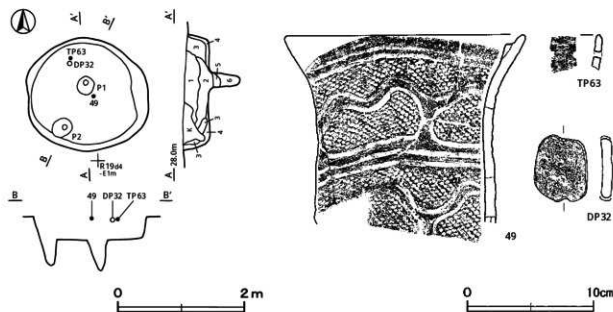
覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況であるが、第2層に含まれるロームブロックの量が顕著であり、埋め戻されていると考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片137点(口縁部15, 胴部118, 底部4), 土製品1点(土器片鏟), 剥片1点が、覆土上層から下層にかけて出土している。土器は覆土上層から集中して出土しており、覆土下層からの出土量は極めて少ない。49は、中央部の覆土上層から出土している。

所見 出土土器が覆土上層に集中しているため、廃絶時期は明確でないが、覆土上層の堆積時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ時期)と考えられる。



第85図 第51号土坑・出土遺物実測図

第51号土坑出土遺物観察表 (第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	文様の特徴	出土位置	備考
49	縄文土器	深鉢	118.8	(149)	-	長石・雲母・赤色粒子	赤褐色	普通	沈線による波状文と区画文	沈線文様を繰り返すしR1の溝部縁文	覆土上層	20% PL19

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	黒文 口縁部に2孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP32	土器片縁	5.3	4.2	1.0	246	長石・石英	にぶい赤褐色	陶磁にヤザミ 角辺部研磨 黒文	覆土中	

第53号土坑（第86図）

位置 調査区東部のR19d4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第52号土坑に掘り込まれている。第12・14号住居跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第52号土坑に掘り込まれているため、長径は2.19mと推定され、短径は1.66mである。長径方向がN-6°-Wの楕円形と推測できる。深さは12cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。中央部と南東壁際に位置している。深さは、P1は43cm、P2は48cmである。

覆土 2層に分層できる。周囲からの土の流入を示す自然堆積である。

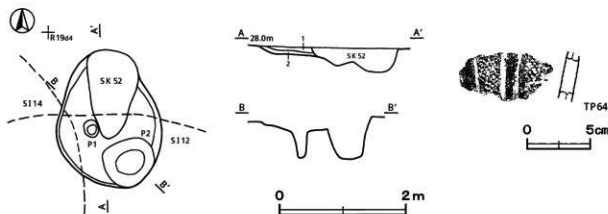
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック散見

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子散見

遺物出土状況 縄文土器片29点（口縁部5、胴部23、底部1）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第86図 第53号土坑・出土遺物実測図

第53号土坑出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による懸垂文間を磨り消し L Rの華部縄文	覆土中	

第54号土坑（第87図）

位置 調査区東部のR19f3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号住居に掘り込まれている。第12号住居跡と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が古いと考えられる。

規模と形状 上部を第3号住居に掘り込まれているため、確認できたのは径1.4mほどの円形である。第3号

住居跡の床面からの深さは24cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は北壁は直立している以外は、外傾して立ち上がっている。

ビット 北東壁際に位置している。深さは66cmである。

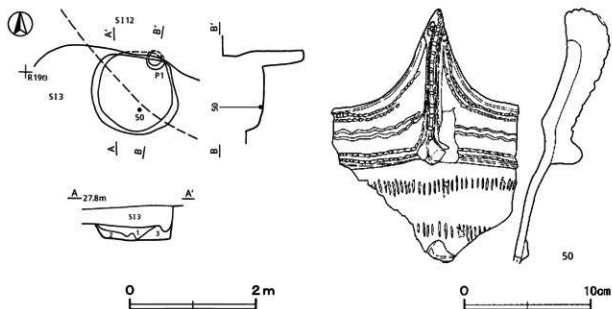
覆土 3層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 3 濃い黄褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片116点（口縁部11、胴部102、底部3）が、覆土上層から下層にかけて出土している。50は、南壁寄りの底面に近い覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第87図 第54号土坑・出土遺物実測図

第54号土坑出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴等	出土位置	備考
50	縄文土器	深鉢	-	(20.1)	-	長石・雲母・赤色粒子	黒褐色	普通	口縁部は堆積に沿って複数の結節状縄文線が連続に走る 胴部にキザ目列	覆土下層	5% PL21

第55号土坑（第88図）

位置 調査区東部のR19c3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第57号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第57号土坑に掘り込まれているため、東西径は1.28mが確認されただけで、南北径は2.25mである。長径方向がN-40°-Wの不整形円形と推測できる。深さは20cmで、底面は皿状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

ビット 中央部に位置している。深さは20cmである。

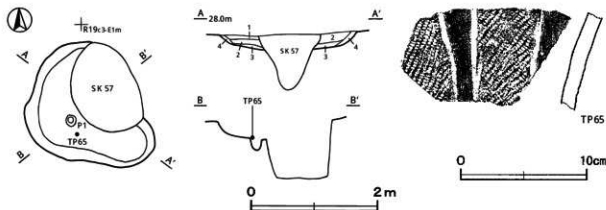
覆土 4層に分層できる。全体にロームブロックを多く含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片9点(胴部8, 底部1)が, 覆土上層から底面にかけて出土している。TP65は, 南壁寄りの底面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第88図 第55号土坑・出土遺物実測図

第55号土坑出土遺物観察表 (第88図)

番号	種別	器種	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色に赤い斑	層状	沈線による懸垂文線を磨り消し R.Lの半部縄文	底面	

第57号土坑 (第89図)

位置 調査区東部のR19c3区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第55号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.48m, 短径1.03mの楕円形で, 長径方向はN-21°-Wである。深さは90cmで, 底面は平坦であり, 壁は直立している。

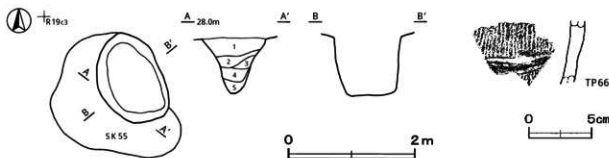
覆土 5層に分層できる。全体にロームブロックを多く含んでいるが, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼岩パミス微量 |

遺物出土状況 縄文土器片92点(口縁部9, 胴部83), 石器1点(石皿)が, 確認面から覆土下層にかけて出土している。TP66は, 覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から中期中葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第89図 第57号土坑・出土遺物実測図

第57号土坑出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に高1層	普通	沈線文を磨り消し 照糸文	覆土下層	

第58号土坑 (第90図)

位置 調査区東部のR19b5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4・6号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.4mほどの円形である。深さは54cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

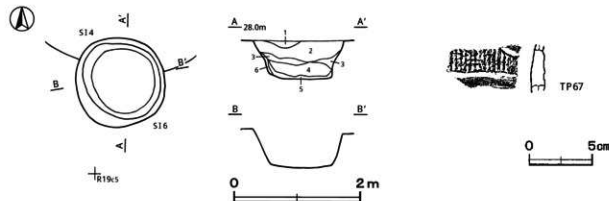
覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	6	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片96点(口縁部12, 胴部78, 底部6)が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP67は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)以降で、後期には至らないと考えられる。



第90図 第58号土坑・出土遺物実測図

第58号土坑出土遺物観察表 (第90図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP67	縄文土器	深鉢	石英	に高1層	普通	沈線文を磨り消し 照糸文	覆土下層	

第59号土坑（第91図）

位置 調査区東部のR19d3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号住居のP2・P7及び第97号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部が長径2.30m、短径1.87mの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面は東壁に向かって緩やかに傾斜しており、平面形は長径2.30m、短径2.14mの円形である。深さは83cmで、壁は南壁が外傾して立ち上がっている以外は、下位は括れ部にかけて内傾して立ち上がり、上位は直立している。また底面から括れ部までの高さは44～68cmである。

ピット 西壁寄りに位置している。深さは28cmである。

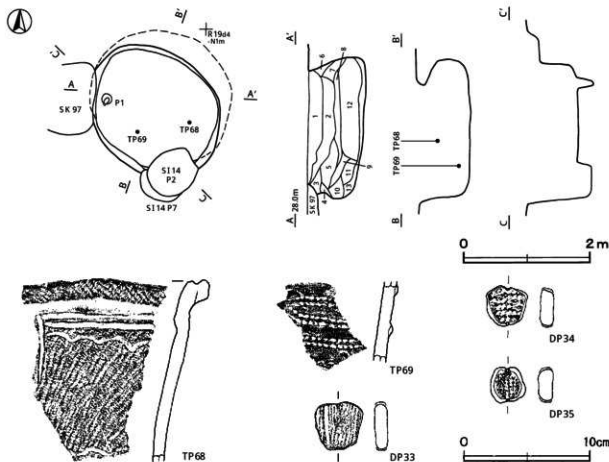
覆土 13層に分層できる。全体に締まりが弱く、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・機土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・機土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 10 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・組織微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量（締まり弱い） | 12 にぶい黄褐色 ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック | 13 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・黒煎バニス微量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子少量、機土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片149点（口縁部28、胴部113、底部8）、土製品3点（土器片鏟）、石器3点（磨製石斧2、敲石1）、剥片1点が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP68は南東壁寄りの覆土中層、TP69は南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台式期）と考えられる。



第91図 第59号土坑・出土遺物実測図

第59号土坑出土遺物観察表 (第91図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部に沈線をも有する 口唇部直下に隆帯と沈線が通る R Lの単部縄文	覆土中層	
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粘土	明赤褐色	普通	隆帯に沿って幾列の結節沈線文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP33	土器片縁	3.8	3.7	1.0	15.8	長石・石英・赤褐色粘土	明赤褐色	両端にキザミ 両辺部一部研磨 担糸文	覆土上層	
DP34	土器片縁	3.2	3.3	1.0	11.6	長石・石英・赤褐色粘土	にぶい橙	両端にキザミ 両辺部一部研磨 L Rの単部縄文	覆土上層	
DP35	土器片縁	2.8	2.8	1.2	10.7	長石・石英・赤褐色	橙	両端にキザミ 両辺部研磨 L Rの単部縄文	覆土上層	

第61号土坑 (第92・93図)

位置 調査区東部のR1947区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 フラスコ状土坑である。南東側が調査区域外に延びているため、開口部は東西径0.94mが確認されただけで、南北径2.23mで、楕円形と推測できる。底面は平坦であり、平面形は東西径0.88mが確認されただけで、南北径2.20mで楕円形と推測できる。深さは84cmで、下位は括れ部にかけて内傾して、上位は外傾して立ち上がっている。また底面から括れ部までの高さは32～56cmである。

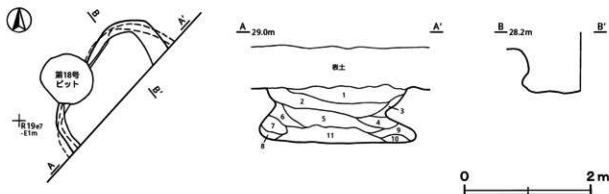
覆土 11層に分層できる。第1・2層はレンズ状の堆積状況から自然堆積であり、第3層以下は各層にロームブロックを多く含み、堆積状況から西側から埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・糞土粒子微量	6 黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、糞土ブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、糞土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、糞土ブロック微量	9 にぶい黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量(細まり筈)
		11 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片85点(口縁部9, 胴部73, 底部3), 石器1点(石皿)が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP70・TP71は、覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第92図 第61号土坑実測図



第93図 第61号土坑出土遺物実測図

第61号土坑出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP70	縄文土器	深鉢	灰石・石英	にじみ1層	普通	口縁部に結節状線文が回り文様を呈出	覆土下層	PL21
TP71	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母	にじみ1層	普通	押圧文を有する隆帯が口縁部を走る 胴部は3条一組の結節状線文	覆土下層	

第62号土坑 (第94図)

位置 調査区東部のR19b3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

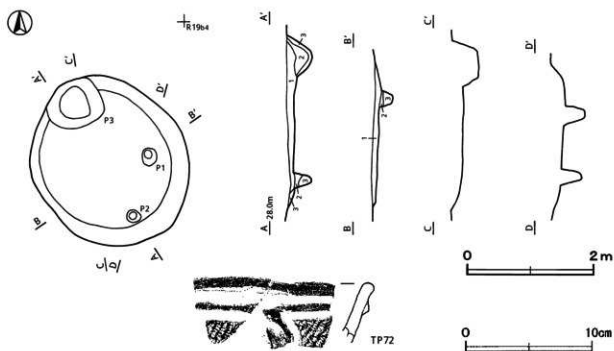
規模と形状 長径2.84m、短径2.36mの楕円形で、長径方向はN-36°-Wである。深さは10cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 3か所。壁際に位置している。深さは、P1・P2はともに35cmで、P3は29cmである。

覆土 3層に分層できる。周囲からの土の流入を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
3 暗褐色 ロームブロック少量



第94図 第62号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片43点（口縁部8，胴部33，底部2）が，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ・Ⅱ式期）と考えられる。

第62号土坑出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP72	縄文土器	深鉢	赤石・石英・雲母・炭化粒子	に赤い横	普通	沈線に沿う隆帯で口縁部の文様提出 L Rの単部縄文	覆土中	

第63号土坑（第95図）

位置 調査区東部のR19b3区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.4mほどの円形である。深さは51cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

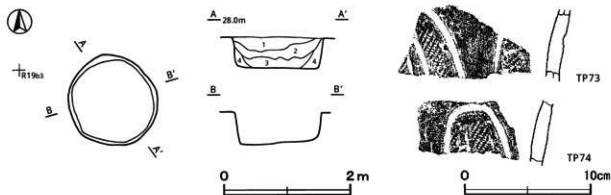
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片79点（口縁部4，胴部72，底部3），石器1点（磨石）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP73・TP74は，覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第95図 第63号土坑・出土遺物実測図

第63号土坑出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP73	縄文土器	深鉢	赤石・石英・雲母	に赤い横	普通	沈線による幅広い懸垂文帯を磨り消し R Lの単部縄文	覆土下層	
TP74	縄文土器	深鉢	赤石・石英	横	普通	沈線による区画文 区画文外は磨り消し R Lの単部縄文	覆土下層	

第65号土坑（第96図）

位置 調査区東部のR19c5区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号住居跡のP5を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.20m、短径1.95mの楕円形で、長径方向はN-8°-Eである。深さは60cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

ピット 2か所。中央部と北壁際に位置している。深さは、P1が58cm、P2が42cmである。

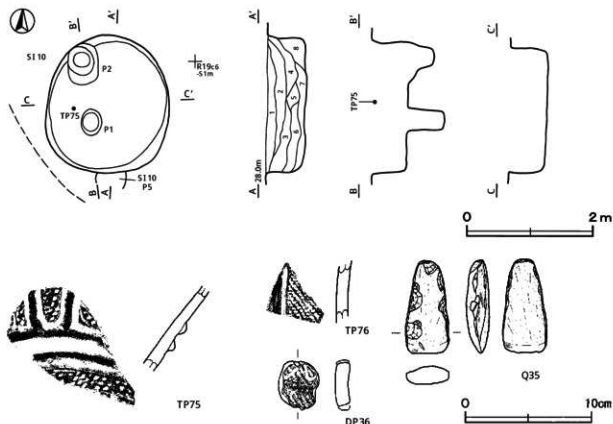
覆土 8層に分層できる。第1・2層は、レンズ状の堆積状況から自然堆積であり、第3層以下は、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量(細まり強い) |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量(細まり弱い) |

遺物出土状況 縄文土器片158点(口縁部22, 胴部132, 底部4), 土製品1点(土器片鏟), 石器2点(磨製石斧, 石皿), 剥片2点が、覆土上層から下層にかけて出土している。土器は覆土上層から中層に集中し、下層からの出土量は少なく、ほとんどが細片である。TP75・TP76は、覆土上層から出土している。

所見 出土土器が覆土上層から中層に集中しているため、廃絶時期は明確でないが、覆土上層の堆積時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第96図 第65号土坑・出土遺物実測図

第65号土坑出土遺物観察表(第96図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP75	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母	褐	普通	沈線に沿う隆帯で区画文 R Lの準帯縄文	覆土上層	
TP76	縄文土器	深鉢	石英・雲母・青色粒子	に青 ¹ 褐	普通	沈線による帯区画文と縞り消し L Rの準帯縄文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP36	土器片種	39	32	12	18.8	長石・石英・雲母	にぶい焼	同様にナガミ 両辺部研磨 波状の沈線文 R Lの半部	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	磨製石斧	7.3	3.4	1.7	66.5	緑色凝灰岩	割製による両面調整後、全体を研磨	覆土中層	Pl.28

第67号土坑（第97図）

位置 調査区東部のR19d4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第68号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.5mほどの円形である。深さは36cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

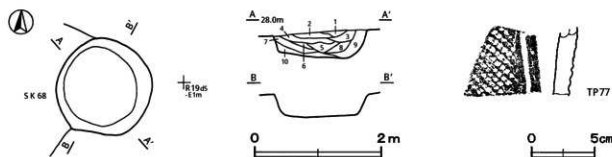
覆土 10層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片141点（口縁部14、胴部125、底部2）が、覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置が明確でないため、廃絶時期は判然としないが、埋没した最終時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第97図 第67号土坑・出土遺物実測図

第67号土坑出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	沈線による磨擦文 L R Lの増部縄文	覆土中	

第68号土坑（第98図）

位置 調査区東部のR19c4区、標高27mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第67号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第67号土坑に掘り込まれているため、短軸は1.46mと推定され、長軸は2.38mである。長軸方向がN-19°-Eの隅丸長方形と推測できる。深さは18cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

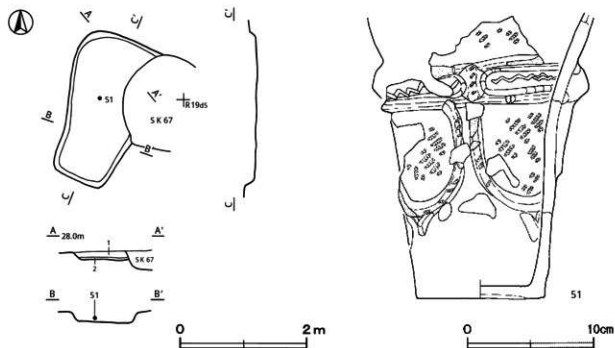
覆土 2層に分層できる。第2層はローム土を多く含み、水平堆積の状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片1点が出土している。51は、中央部の覆土下層から斜位で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第98図 第68号土坑・出土遺物実測図

第68号土坑出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
51	縄文土器	深鉢	-	(226)	102	長石・石英・炭母	に541群属	普通	頸部は押引き状の沈線が沿う溝帯による区画文内は、波状の沈線文 R しの線部縦文	区画文	覆土下層 50% PL19

第69号土坑（第99図）

位置 調査区東部のR19d4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第85号土坑を掘り込み、第12号住居のP 8に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.74m、短径1.48mの楕円形で、長径方向はN-82°-Wである。深さは36cmで、底面は皿状であり、壁は西壁が緩やかに立ち上がっている以外は、外傾して立ち上がっている。

ビット 北壁際に位置している。深さは33cmである。

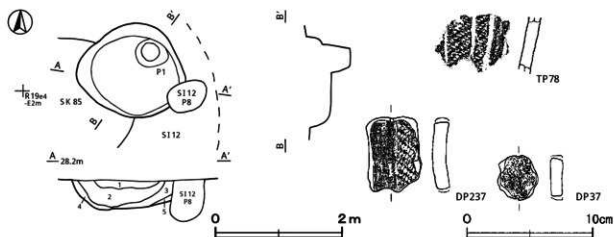
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 4 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 子微量 5 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片183点（口縁部13，胴部160，底部10），土製品1点（土器片錘），石器1点（磨製石斧），剥片1点が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP78・DP237は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第99図 第69号土坑・出土遺物実測図

第69号土坑出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP78	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による磨崖文様を施し R Lの単節縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP37	土器片錘	3.1	3.2	1.0	11.5	長石・石英・雲母	黒褐色	両端にキザミ 両辺部一部研磨 無文	覆土上層	
DP237	土器片錘	6.0	4.5	1.4	36.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	両端にキザミ 両辺部研磨 L Rの単節縄文	覆土下層	

第70号土坑（第100図）

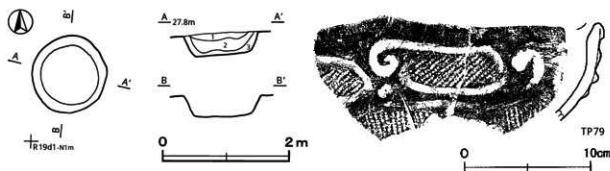
位置 調査区東部のR19e1区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.2mほどの円形である。深さは34cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 層 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 3 層 色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
 2 層 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第100図 第70号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片62点（口縁部9，胴部52，底部1），剥片1点が覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置が明確でないため，廃絶時期は判然としないが，埋没した最終時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第70号土坑出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP79	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・灰色粒子	灰色	低温	口縁部は沈線に沿う横帯で渦巻文・区画文 L Rの早期縄文	覆土中	

第73号土坑（第101図）

位置 調査区東部のR18e0区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.5mほどの円形である。深さは21cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 3か所。P1・P3は北壁寄りに，P2は南西壁際に位置している。深さは，P1が22cm，P2が14cmで，P3が8cmである。

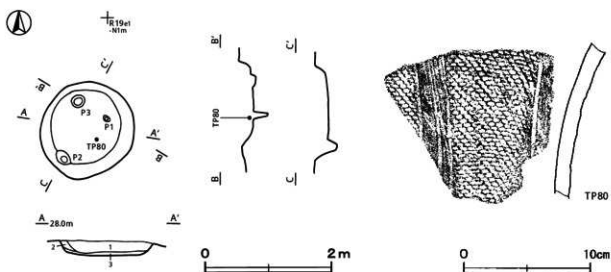
覆土 3層に分層できる。第2層にローム土を多く含んでいるが，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片46点（口縁部9，胴部37）が，確認面から覆土下層にかけて出土している。TP80は，中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第101図 第73号土坑・出土遺物実測図

第73号土坑出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP80	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	3条一組の沈線による懸帯文間を磨り消し L R Lの早期縄文	覆土下層	

第74号土坑（第102図）

位置 調査区東部のR19d1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.9mほどの円形である。深さは38cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

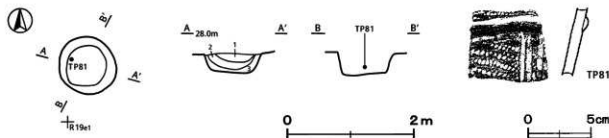
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭土粒子少量 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
2 暗褐色 炭土粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片40点（口縁部6，胴部34）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP81は、西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第102図 第74号土坑・出土遺物実測図

第74号土坑出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP81	縄文土器	深鉢	炭石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部と胴部を沈線が沿う帯帯で区画 胴部は3条一組の沈線による帯	覆土下層	

第75号土坑（第103図）

位置 調査区東部のR19a3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号住居跡及び第83号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.7mほどの円形である。深さは84cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は直立している。

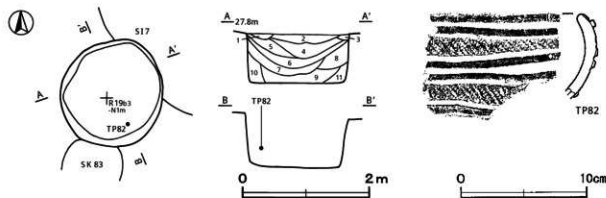
覆土 11層に分層できる。全体に締まりが弱く、ロームブロック等の含有物を多く含んでおり、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量 7 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子少量、炭土粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量 8 黒褐色 黒色粒子少量、ロームブロック・炭化物少量
3 暗褐色 ローム粒子微量 9 黒褐色 黒色粒子少量、ロームブロック・炭土粒子・炭化物少量
4 黒褐色 ロームブロック・炭化物・炭土粒子微量 10 暗褐色 ローム粒子中量、黒色粒子少量
5 黒褐色 ロームブロック・炭土粒子微量 11 黒褐色 黒色粒子少量、ロームブロック微量
6 黒褐色 ロームブロック・炭土粒子・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片49点（口縁部5，胴部42，底部2），剥片1点が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP82は、南壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）以降で、後期には至らないと考えられる。



第103図 第75号土坑・出土遺物実測図

第75号土坑出土遺物観察表 (第103図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP82	縄文土器	深鉢	長石・石炭・雲母	灰50% 黒1%	普通	文様が沿う隆帯で口縁部の文様擦出 R.Lの卑部縄文	覆土下層	

第76号土坑 (第104・105図)

位置 調査区東部のR19a3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号住居に掘り込まれている。

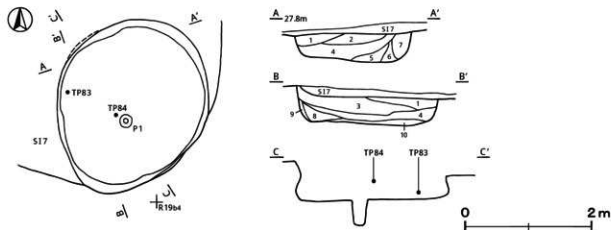
規模と形状 上部を第7号住居に掘り込まれているため、確認できたのは長径2.90m、短径2.40mの楕円形である。長径方向はN-20°-Eである。深さは50cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は一部下位から中位にかけて内傾している以外は、直立している。

ピット 中央部に位置している。深さは45cmである。

覆土 10層に分層できる。全体に締まりが弱く、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

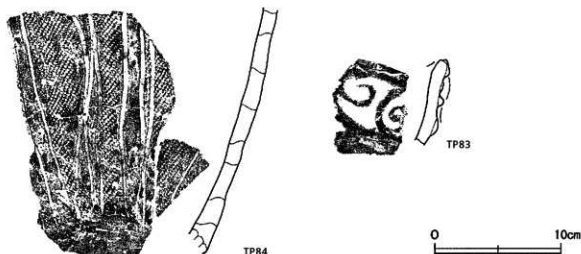
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 7 暗褐色 黒色粒子中量、ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 黒色粒子少量、ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ロームブロック中量 |



第104図 第76号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片136点（口縁部18、胴部117、底部1）、石器1点（石鏃）、剥片3点が出土している。土器は、中央部の覆土中層から集中して出土している。TP83は西壁際の覆土下層から、TP84は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第105図 第76号土坑出土遺物実測図

第76号土坑出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP83	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい色	普通	口縁部に沈線 口縁部は沈線に沿う隆帯で渦巻文	覆土下層	
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい色	普通	沈線による螺旋文間を隔り滑り R Lの複線縄文	覆土中層	

第77号土坑（第106図）

位置 調査区東部のR19e1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 本跡の覆土上面に第8号住居の床が構築され、第86号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 フラスコ状土坑である。上部を第8号住居に掘り込まれているため、確認できた開口部は1.6mほどの円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.1mほどの円形である。確認面からの深さは94cmで、下位から括れ部にかけて内傾し、上位では直立している。また底面から括れ部までの高さは62～70cmである。

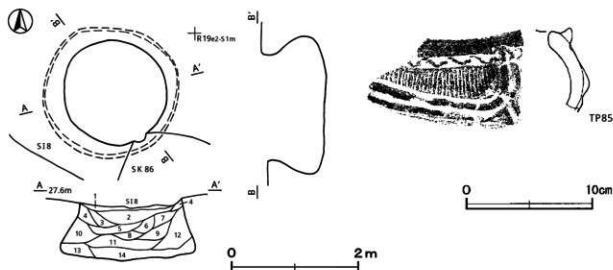
覆土 14層に分層できる。第1層上面が第8号住居跡の床面である。全体にロームブロックを多量に含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。本跡の覆土上層に重複する住居の跡が構築されているため、第6層には焼土ブロックの含有が顕著に認められる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量	9	にぶい黄褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	10	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	11	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・鹿沼バミス微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック中量
5	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミス微量
6	にぶい黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミス微量
7	暗褐色	ロームブロック多量			
8	黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物・鹿沼バミス微量			

遺物出土状況 縄文土器片31点（口縁部2，胴部28，底部1）が，覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置が明確でないため，廃絶時期は判断としないが，埋没した最終時期は，重複関係や出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第106図 第77号土坑・出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表（第106図）

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP85	縄文土器	深鉢	灰石・石炭・雲母	赤黒	素焼	沈線に沿う隆帯と縦位の沈線 交互斜突による連続つこの字状文	覆土中	

第78号土坑（第107図）

位置 調査区東部のR1818区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径2.3mほどの円形である。深さは10.3cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

ビット 3か所。中央部と壁際に位置している。深さは，P1が43cm，P2が56cm，P3が61cmである。

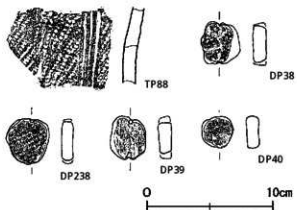
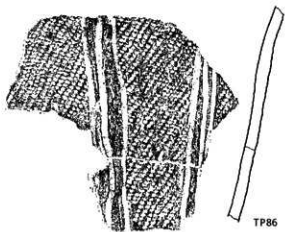
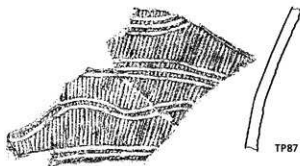
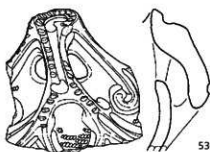
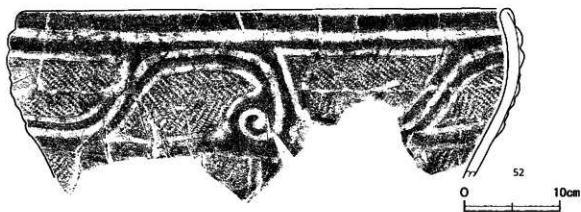
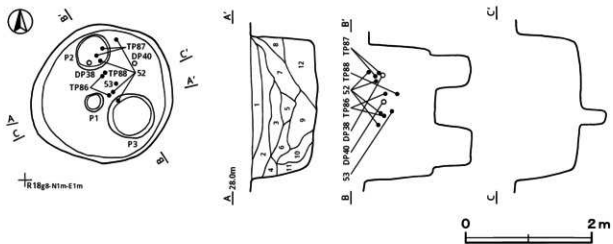
覆土 12層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック多量
4	褐色	ローム粒子少量	10	褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	11	褐色	ロームブロック微量
6	褐色	ロームブロック中量	12	褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片967点（口縁部141，胴部794，底部32），土製品4点（土器片鏝3，土器片円盤1），石器3点（磨製石斧2，石皿1），剥片2点が，確認面から覆土下層にかけて出土している。土器は覆土上層から中層にかけて集中して出土しており，大形破片が多い。TP88は，中央部の覆土中層から出土している。52は中央部から北壁にかけての覆土上層から，散在して出土している。

所見 埋め戻しに伴って大形破片の土器が，一括投棄されたと考えられる。それらは，覆土下層から出土している土器片と時期差はなく，時期は中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第107图 第78号土坑·出土遗物实测图

第78号土坑出土遺物観察表（第107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S2	縄文土器	深鉢	150㎜	(17.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部は沈線が沿う隆帯で透書文・区画文を磨り消し、肩の単部縄文	覆土上層	20%
S3	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	キザミと沈線をもつ隆帯によって作出された縦線状把手の単部縄文	覆土中層	5% PL21

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	3条一組の沈線による懸垂文間を磨り消し R Lの単部縄文	覆土上層	
TP87	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明確	普通	波状の沈線が走る 透書文	覆土上層	
TP88	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粘土	橙	普通	3条一組の沈線による懸垂文間を磨り消し R Lの単部縄文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP38	土器片鉢	3.3	3.1	1.1	149	長石・石英・雲母	明赤褐色	両端にキザミ 両辺部研削 彫文	覆土上層	
DP39	土器片鉢	3.4	2.8	1.0	127	長石・石英・雲母	黒褐色	両端にキザミ 両辺部研削 彫文	覆土上層	
DP32	土器片鉢	3.6	3.4	1.0	147	長石・石英・雲母	黒褐色	両端にキザミ 両辺部研削 L Rの単部縄文	覆土中層	
DP40	土器片円蓋	2.5	2.5	1.0	80	長石・石英・雲母	にぶい褐色	両辺部研削 彫文	覆土上層	

第79号土坑（第108図）

位置 調査区東部のR19b3区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第80号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第80号土坑に掘り込まれているため、南北径は1.16m、東西径は0.68mが確認されただけである。

平面形は不明である。深さは46cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

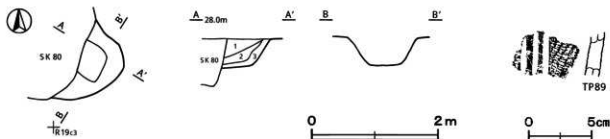
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 色 ロームブロック・炭化物微量 3 暗褐色 色 ロームブロック少量
2 黒褐色 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片13点（口縁部2，胴部11）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP89は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第108図 第79号土坑・出土遺物実測図

第79号土坑出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP89	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい褐色	普通	3条一組の沈線による懸垂文間を磨り消し R Lの単部縄文	覆土下層	

第80号土坑（第109図）

位置 調査区東部のR19b2区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第79号土坑を掘り込み，第55号ピットに掘り込まれている。第81号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 他の遺構と重複しているため，東西径は1.68mが確認されただけで，南北径は2.10mである。径2.1mほどの不整形円形と推測できる。深さは73cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 中央部に位置している。深さは39cmである。

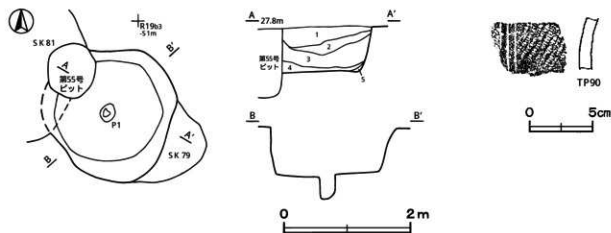
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片88点（口縁部12，胴部74，底部2）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP90は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第109図 第80号土坑・出土遺物実測図

第80号土坑出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP90	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にじみ層	普通	3条一組の沈線による懸垂文層を磨り消し，R.Lの単部縄文	覆土下層	

第81号土坑（第110図）

位置 調査区東部のR19b2区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第55号ピットに掘り込まれている。第80号土坑とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 他の遺構と重複しているため，東西径は2.05mが確認されただけで，南北径は2.30mである。長径方向がN-3°-Eの不整形円形と推測できる。深さは52cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

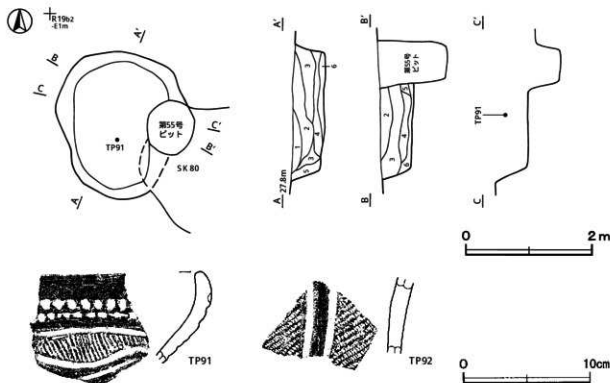
覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|---------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 濃い黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片189点（口縁部17、胴部165、底部7）、石器2点（磨石）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP91は中央部の覆土中層から、TP92は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第110図 第81号土坑・出土遺物実測図

第81号土坑出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP91	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	濃い褐色	普通	交互斜交文 波状の沈線が通る 照糸文	覆土中層	
TP92	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	濃い褐色	普通	沈線による懸垂文間を磨り消し R Lの準部縄文	覆土下層	

第82号土坑（第111図）

位置 調査区東部のR19b2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.2mほどの円形である。深さは85cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

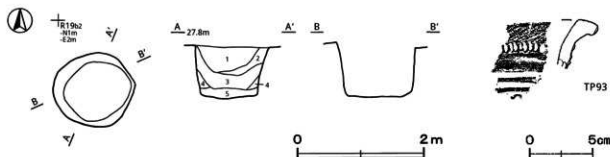
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 濃い黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片20点（口縁部3，胴部17）が，覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置が明確でないため，廃絶時期は判然としないが，埋没した最終時期は，出土土器から中期中葉から後葉（阿玉台Ⅱ式期～加曾利Ⅰ式古段階期）と考えられる。



第111図 第82号土坑・出土遺物実測図

第82号土坑出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英・霞母・炭化粒子	にじみ色	普通	口縁部は外面に突出し，LRの単純縄文を施文 隆厚上のキザミを有する	覆土中	

第83号土坑（第112図）

位置 調査区東部のR19b2区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第75号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第75号土坑に掘り込まれているため，長径は1.04mと推定され，短径は0.92mである。長径方向がN-2°-Eの楕円形と推測できる。深さは56cmで，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

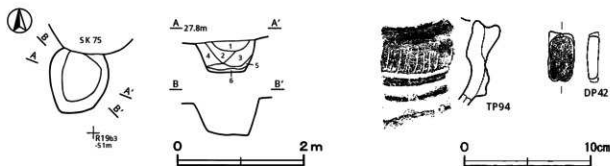
覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片19点（口縁部5，胴部13，底部1），土製品1点（土器片鏝）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP94は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利Ⅰ式期）と考えられる。



第112図 第83号土坑・出土遺物実測図

第83号土坑出土遺物観察表 (第112図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP94	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粘土	にぶい 黄褐色	普通	口縁部と胴部は沈線をも有する隆帯で区画 口縁部は層位の沈線文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP42	土器片鉢	40	21	1.0	10.6	長石・石英・ 赤色粘土	にぶい赤褐色	両端にキザミ 両辺部研磨 無文 口縁部片を利用	覆土中	

第85号土坑 (第113・114図)

位置 調査区東部のR19e4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第69号土坑及び第33号ピットに掘り込まれている。第12号住居跡とも重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が古いと考えられる。

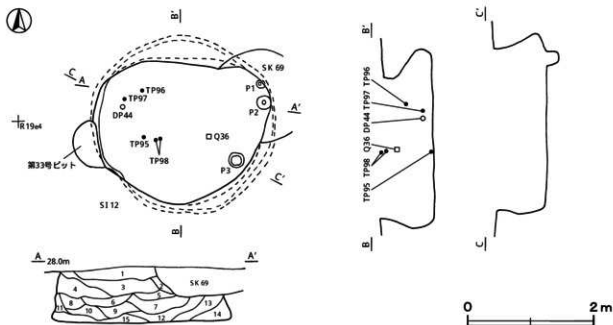
規模と形状 フラスコ状土坑である。他の遺構と重複しているため、開口部は長径が2.63mと推定され、短径が2.28mで、楕円形と推測できる。底面は平坦であり、平面形は径2.8mほどの円形である。深さは80cmで、下位から括れ部にかけて内傾し、上位では直立している。また底面から括れ部までの高さは60~70cmである。

ピット 3か所。東壁際に位置している。深さは、P1が16cm、P2が28cm、P3が20cmである。

覆土 15層に分層できる。下層は締まりが弱い。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

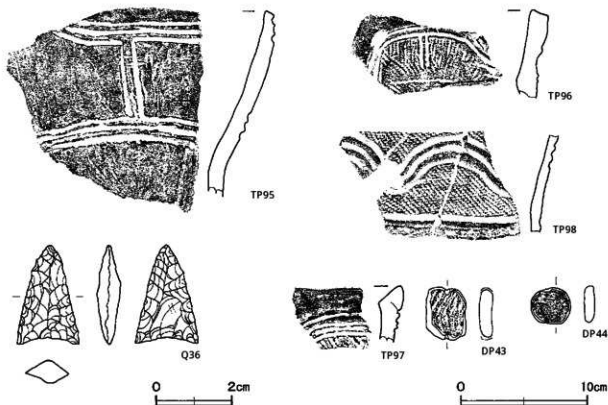
1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 にぶい黄褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック中量 (締まり弱い)
3 暗褐色	ロームブロック中量	11 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	12 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	13 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック多量	14 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
7 褐色	ロームブロック多量	15 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
8 褐色	ロームブロック中量		



第113図 第85号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片700点（口縁部78，胴部605，底部17），土製品2点（土器片錘，土器片円盤），石器2点（石鎌，磨石）が，覆土上層から下層にかけて散在して出土している。TP95は中央部の底面に近い覆土下層から，TP97は西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 土器の廃棄行為を伴って埋め戻されたと考えられる。時期は，覆土下層の土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第114図 第85号土坑出土遺物実測図

第85号土坑出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に灰1層	普通	口縁部と胴部を3条一組の沈線で区画 沈線で口縁部の文様を掘出	覆土下層	
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母		普通	隆帯に沿って2条一組の沈線文 R Lの単部縄文	覆土中層	
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粘土		普通	隆帯に沿って3条一組の沈線文 R Lの単部縄文	覆土下層	
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に灰1層	普通	3条一組の沈線の沈線が通る L Rの単部縄文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP43	土器片錘	42	31	1.1	17.8	長石・石英・雲母	褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 L Rの単部縄文	覆土上層	
DP44	土器片円盤	29	31	0.8	9.4	長石・石英・雲母	褐色	周辺部研磨 縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	石鎌	2.6	1.6	0.6	1.8	チャート	両面研削 凹基部茎部	覆土上層	PL28

第86号土坑（第115図）

位置 調査区東部のR19e1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8・11号住居跡及び第77号土坑を掘り込み、第102号土坑に掘り込まれている。第99号土坑及び第54号ピットとも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 一辺が2.1mほどの隅丸方形である。深さは32cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 南壁際に位置している。深さは27cmである。

覆土 3層に分層できる。全体として締まりが弱く、各層にロームブロック等の含有物を含んでおり、埋め戻されている。

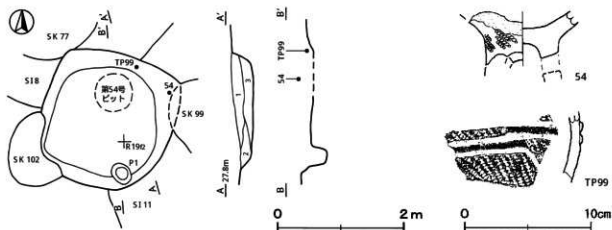
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片55点（口縁部5、胴部45、底部5）が、北東壁際に集中して、確認面から覆土下層にかけて出土している。TP99は、北壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第115図 第86号土坑・出土遺物実測図

第86号土坑出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
54	縄文土器	台付土器	-	(46)	-	黒石・石英・炭母	にぶい赤褐色	普通	L Rの単部縄文 孔4か所	確認面	5% PL20
TP99	縄文土器	深鉢				黒石・石英・炭母 赤鉄粉子	にぶい赤褐色	普通	L Rの単部縄文を施文後、繩帯を貼り付け 沈線が沿う縄文	覆土中層	

第88号土坑（第116図）

位置 調査区東部のR19a5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号住居に掘り込まれている。

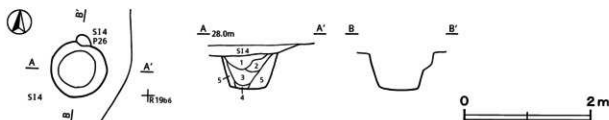
規模と形状 上部を第4号住居に掘り込まれているため、確認できたのは径0.88mの円形である。第4号住居跡の床面からの深さは58cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | |

所見 時期は、出土土器がないため明確ではないが、重複関係や周囲の遺構の時期から、中期後葉（加曾利EⅢ式期）以前の中期と考えられる。



第116図 第88号土坑実測図

第89号土坑（第117・118図）

位置 調査区東部のR19b4区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号住居跡を掘り込み、第4号住居に掘り込まれている。

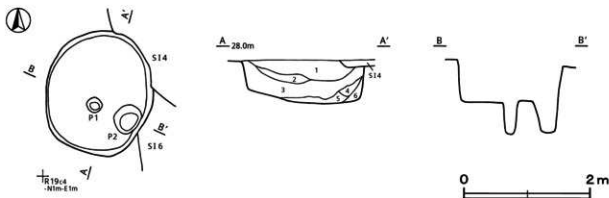
規模と形状 長径1.96m、短径1.72mの楕円形で、長径方向はN-18°-Eである。深さは64cmで、底面はほぼ平坦であるが、北側へ若干傾斜している。壁は直立している。

ピット 2か所。中央部と南東壁際に位置している。深さは、P1が50cm、P2が48cmである。

覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況であるが、全体として締まりが弱く、各層にロームブロック等の含有物を含んでいることから、埋め戻されていると考えられる。

土層解説

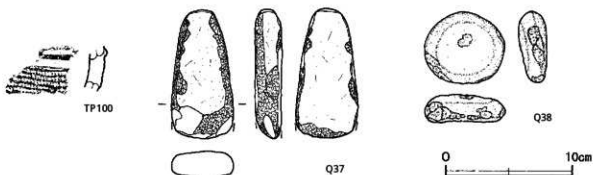
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量（締まり弱い） |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量（締まり弱い） | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |



第117図 第89号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片57点（口縁部5，胴部51，底部1），石器3点（磨製石斧，磨石，敲石）が，覆土上層から下層にかけて出土している。TP100・Q38は，覆土下層から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第118図 第89号土坑出土遺物実測図

第89号土坑出土遺物観察表（第118図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP100	縄文土器	深鉢	長石・雲母	に灰1層	普通	沈線に沿う隆帯文 R.Lの準部縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	磨製石斧	10.2	4.9	2.1	116.3	凝灰岩	定角式 器体研磨入念 刃部欠損 両側縁に密な磨打痕	覆土上層	Pl.28
Q38	敲石	5.7	6.4	2.2	120.2	安山岩	側縁に磨打痕	覆土下層	

第90号土坑（第119・120図）

位置 調査区東部のR19b4区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.00m，短径0.86mの楕円形で，長径方向はN-67°-Wである。深さは51cmで，底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

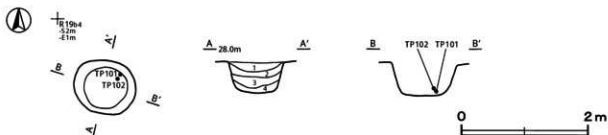
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック微量
 3 黒褐色 ロームブロック少量
 4 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片25点（口縁部8，胴部17）が出土している。TP101・TP102は，北東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第119図 第90号土坑実測図



第120図 第90号土坑出土遺物実測図

第90号土坑出土遺物観察表 (第120図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP101	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母	黒に近い褐色	普通	隆線による口縁部文様帯 隆線帯はL Rの単節縄文を充填	覆土下層	
TP102	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母・炭化粒子	黒色	普通	沈線に沿う隆帯で区画文 L Rの単節縄文	覆土下層	

第92号土坑 (第121図)

位置 調査区東部のR19c1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.9mほどの円形である。深さは41cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

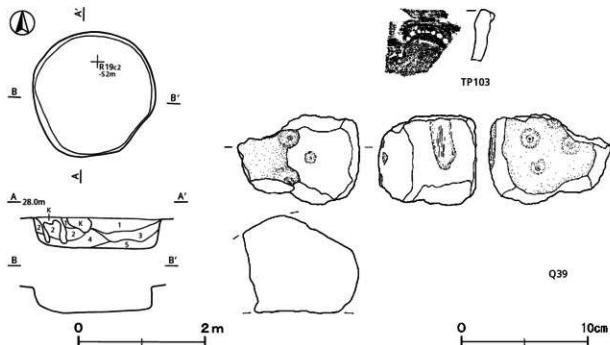
覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片98点(口縁部14、胴部84)、石器1点(石皿)、剥片7点が、覆土中から出土している。

所見 土器は細片が多く出土位置が明確でないため、廃絶時期は判然としないが、出土土器の主体は阿玉台式土器であり、時期は中期中葉(阿玉台式期)と考えられる。



第121図 第92号土坑・出土遺物実測図

第92号土坑出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP103	縄文土器	深鉢	石英・雲母	黒褐色	普通	堆積に沿って結節沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	石皿	(72)	(97)	(77)	(499.2)	安山岩	中心に向かって大きく凹む 凹石兼用 側縁に磨痕	覆土中	

第93号土坑（第122図）

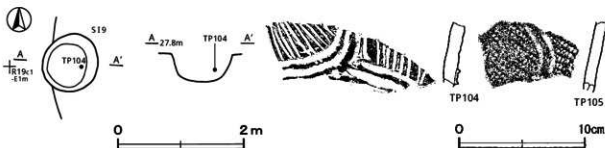
位置 調査区東部のR19b1区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.9mほどの円形である。深さは44cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 縄文土器片43点（口縁部3，胴部38，底部2）が出土している。TP104は、東壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 堆積状況が不明のため、廃絶時期は明確でないが、覆土中層の堆積時期は、TP104から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第122図 第93号土坑・出土遺物実測図

第93号土坑出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP104	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線を有する隆帯と斜位によって口縁部の文様を呈出	覆土中層	
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒に赤い	普通	沈線文周を磨り消し L Rの単節縄文	覆土中	

第94号土坑（第123図）

位置 調査区東部のR18d9区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第95号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.0mほどの円形である。深さは18cmで、底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

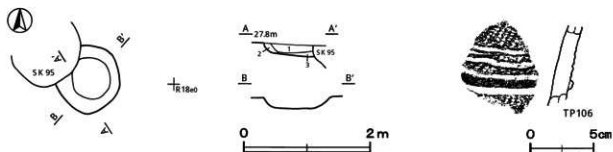
覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片23点（口縁部2，胴部19，底部2）が，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から中期後葉（加曾利E I・II式期）と考えられる。



第123図 第94号土坑・出土遺物実測図

第94号土坑出土遺物観察表（第123図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英・霞母・灰色粘土	に25:1	摩造	沈線に沿う隆帯文 R Lの準部縄文	覆土中	

第95号土坑（第124図）

位置 調査区東部のR1849区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第94号土坑及び第34号ピットを掘り込んでいる。

規模と形状 径1.1mほどの円形である。深さは38cmで，底面はほぼ平坦であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

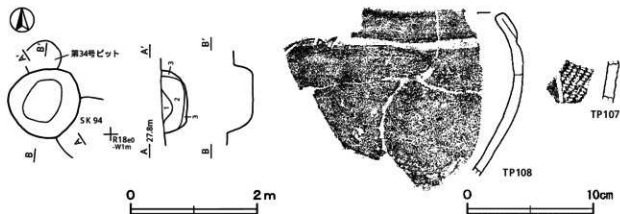
覆土 3層に分層できる。全体として締まりが弱く，焼土粒子や炭化粒子を含んでいることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片72点（口縁部10，胴部62）が，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から中期後葉（加曾利E I・II式期）と考えられる。



第124図 第95号土坑・出土遺物実測図

第95号土坑出土遺物観察表（第124図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP107	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈線による帯文と廻り消し R Lの単純縄文	覆土中	
TP108	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母・炭化粒子	黒褐色	普通	口縁部直下に沈線が沿う隆帯が走る	覆土中	

第96号土坑（第125・126図）

位置 調査区東部のR18f6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径2.2mほどの円形である。深さは50cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。P1は西壁寄り、P2は東壁際に位置している。深さは、P1が30cm、P2が18cmである。

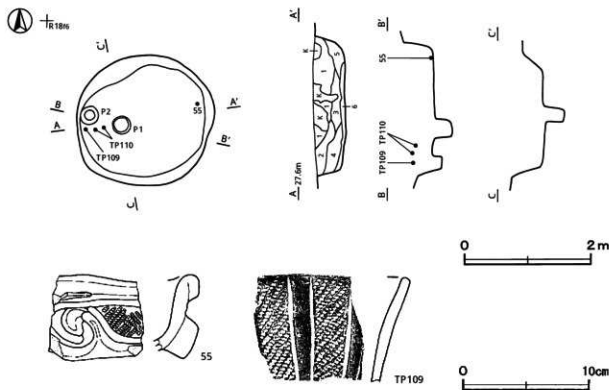
覆土 6層に分層できる。全体として締まりが弱く、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

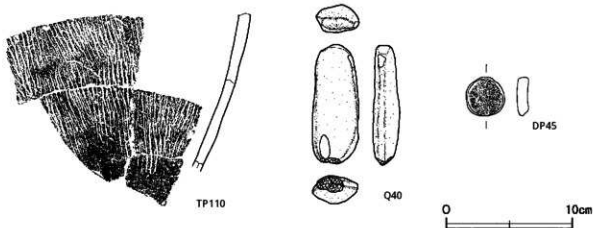
- | | | | | | |
|-----|----|----------------------------|-----|----|---------------------|
| 1 層 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 層 | 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 層 | 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量（細まり弱い） | 5 層 | 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 層 | 褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 層 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片358点（口縁部40、胴部311、底部7）、石器2点（敲石）、土製品1点（土器片円盤）、剥片2点が出土している。遺物は、東壁際の覆土下層、西壁際の覆土上層から、それぞれ集中して出土している。55は、東壁際の覆土下層から出土している。

所見 遺物が覆土上層と下層に集中し、二度にわたって廃棄されたことがうかがえる。時期は、覆土下層から出土している55から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第125図 第96号土坑・出土遺物実測図



第126図 第96号土坑出土遺物実測図

第96号土坑出土遺物観察表 (第125・126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
55	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英	灰黄緑	普通	沈線が沿う隆帯で渦巻モチーフを施す R.Lの単部縄文	覆土下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP109	縄文土器	深鉢	石英・雲母・赤色粒子	赤灰	普通	2条一組の沈線による懸垂文間を繰り返す R.Lの単部縄文	覆土上層	
TP110	縄文土器	深鉢	石英・雲母	赤	普通	照赤文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP45	土器片内面	3.1	3.1	0.9	10.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	周辺部研磨 無文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q40	隕石	9.5	3.6	2.2	(10.1)	砂岩	下層に敲打痕 磨石適用	覆土中	

第98号土坑 (第127・128図)

位置 調査区東部のR19e2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号住居に掘り込まれている。第14号住居跡とも重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が古いと考えられる。

規模と形状 他の遺構と重複しているため、開口部は長径が推定1.36mで、短径が1.20mの不整楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径1.3mほどの円形である。深さは47cmで、下位から括れ部にかけて内積して立ち上がっている。また底面から括れ部までの高さは28cmである。

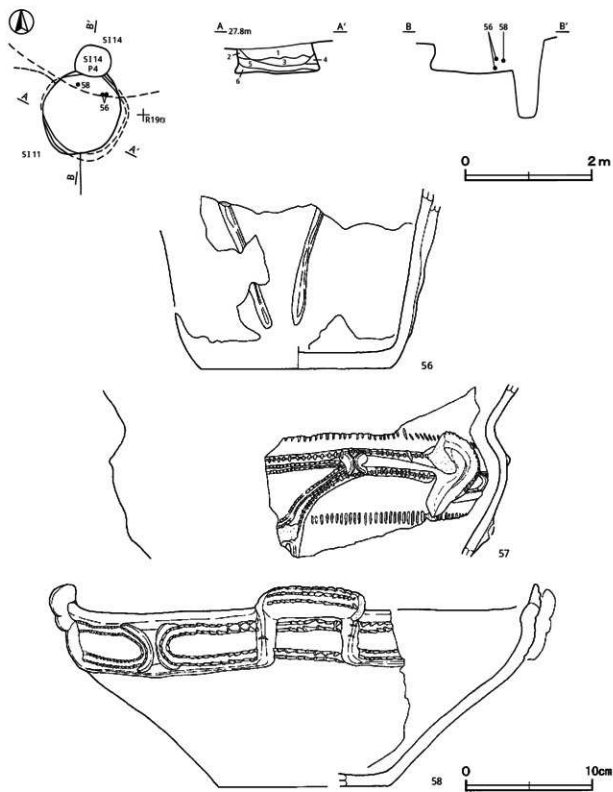
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、全体として締まりが弱く、各層にロームブロックを多く含んでいることから、埋め戻されていると考えられる。

土層解説

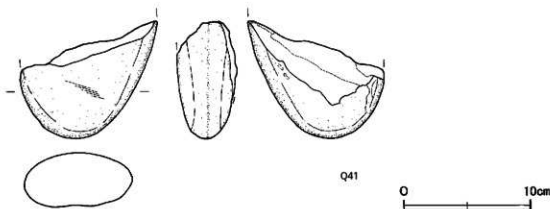
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片127点（口縁部17，胴部104，底部6），石器3点（磨製石斧，磨石，敲石），剥片1点が，覆土上層から下層にかけて出土している。56は北東壁際の覆土下層から，58は北壁際の覆土中層から，それぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第127図 第98号土坑・出土遺物実測図



第128図 第98号土坑出土遺物実測図

第98号土坑出土遺物観察表 (第127・128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
56	縄文土器	深鉢	-	(14.3)	15.0	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	陸等による磨擦文	覆土下層	30%
57	縄文土器	深鉢	-	(13.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	に灰褐色	普通	キザミを有する陸等に沿って確列の結節状線文 キザミ目列が走る	覆土中層	10%
58	縄文土器	浅鉢	[35.4]	16.6	[13.6]	長石・石英・雲母	に灰褐色	良好	キザミと確列の結節状線文を有する陸等 口縁部は確列の結節状線文が出つ陸等で区画文 胴部は磨擦文	覆土中層	25% P1.20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	磨石	(9.3)	(10.9)	(4.3)	(444.5)	砂岩	両面に使用痕	覆土下層	

第99号土坑 (第129・130図)

位置 調査区東部のR19e2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号住居跡を掘り込んでいる。第14号住居跡と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が古いと考えられる。第86・109号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 他の遺構と重複しているため、開口部は長径が推定2.06mで、短径が1.48mの不整形円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.2mほどの円形である。深さは125cmで、下位から括れ部にかけて内傾して、上位では直立している。また底面から括れ部までの高さは70~100cmである。

ビット 3か所。それぞれ壁寄りに位置している。深さは、P1が31cmで、P2が34cm、P3が25cmである。

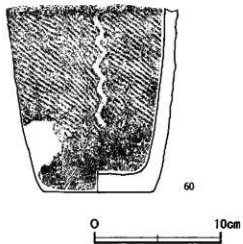
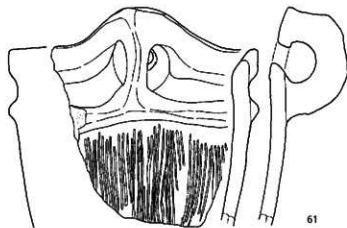
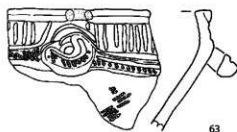
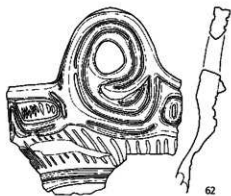
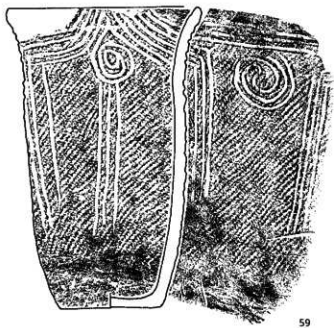
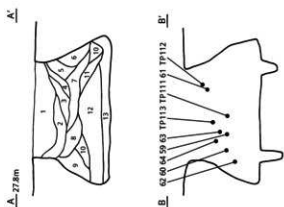
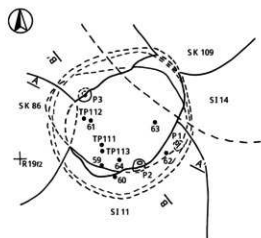
覆土 13層に分層できる。全体として締まりが弱く、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

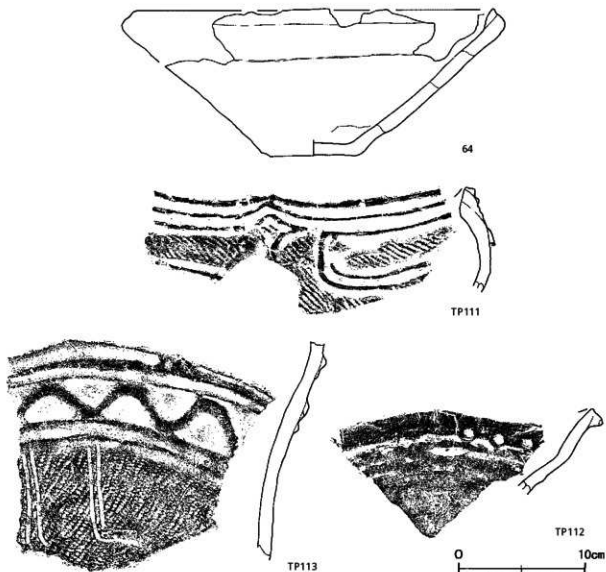
1	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	9	暗褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック微量	11	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	12	暗褐色	ロームブロック中量
			13	灰黄褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片334点(口縁部56, 胴部267, 底部11), 剥片2点が覆土上層から下層にかけて出土している。土器は、覆土上層から中層にかけて集中して出土しており、大形破片が多い。59は、南壁寄りの覆土中層から斜位で出土している。

所見 埋め戻しに伴って大形破片の土器が廃棄されたと考えられる。それらは、覆土下層から出土している土器片と時期差はなく、時期は中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第129图 第99号土坑·出土遗物实测图



第130図 第99号土坑出土遺物実測図

第99号土坑出土遺物観察表 (第129・130図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
59	縄文土器	深鉢	[150]	24.0	8.0	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部は沈線による渦巻文 胴部は沈線による懸垂文 R Lの半部縄文	縄土中層	80% PL20
60	縄文土器	深鉢	-	(14.7)	8.5	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	沈線による波状の懸垂文 L Rの半部縄文	縄土中層	60%
61	縄文土器	深鉢	[192]	(17.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部は縦線状把手を起点に隆帯文 胴部は赤線文	縄土上層	10% PL21
62	縄文土器	深鉢	-	(14.7)	-	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部に沈線 孔を有し隆帯で加飾された把手 隆帯による区画文 区画内は縦位の沈線文	縄土中層	15% PL21
63	縄文土器	深鉢	[206]	(9.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部は突起を有する隆帯文と沈線文 R Lの半部縄文	縄土中層	5% PL21
64	縄文土器	浅鉢	[285]	11.6	7.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	良野	簡文 外面スス付着	縄土中層	80%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP111	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	沈線に沿う隆帯によって口縁部の文様提出 R Lの半部縄文	縄土中層	
TP112	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部直下に押圧を有する隆帯文	縄土上層	
TP113	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部は沈線を有する隆帯と波状の沈線が通る 胴部は2条一組の沈線文とR Lの半部縄文	縄土中層	

第105号土坑（第131図）

位置 調査区中央部のR1717区、標高26mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第106号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.04m、短径1.90mの不整形円形である。深さは28cmで、底面は北西方向に緩やかに傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。

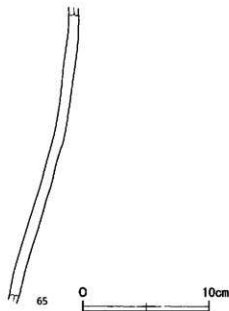
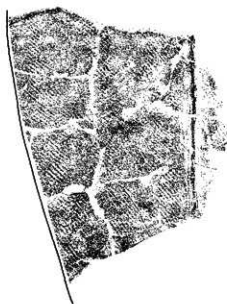
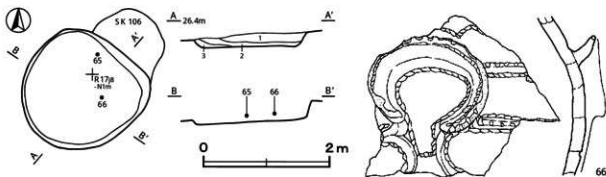
覆土 3層に分層できる。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 濃い黄褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂粒少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片41点（口縁部2、胴部37、底部2）、石器1点（磨製石斧）が出土している。65は北東壁寄り、66は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 出土土器が覆土中層に集中しているため、廃絶時期は明確でないが、覆土中層の堆積時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台I b・II式期）と考えられる。



第131図 第105号土坑・出土遺物実測図

第105号土坑出土遺物観察表 (第131図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
65	縄文土器	深鉢	-	(23.9)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	隆帯による帯彫文 LRの半部彫文	覆土中層	30%
66	縄文土器	深鉢	-	(12.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	隆帯に沿って結節状彫文 隆帯上にはキザミを有する	覆土中層	5%

第106号土坑 (第132図)

位置 調査区中央部のR1718区、標高26mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第105号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第105号土坑に掘り込まれているため、南北径は0.72m、東西径は1.14mが確認されただけである。平面形は不明である。深さは30cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は北西壁が外傾して立ち上がっている以外は直立している。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

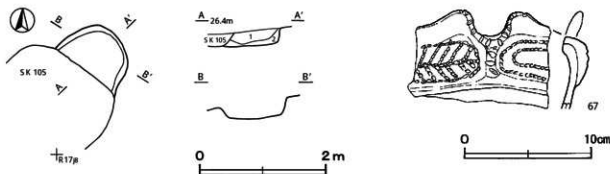
土層解説

1 黒褐色 色 ローンプロック少量

2 暗褐色 色 ローンプロック中量、砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片40点（口縁部5、胴部32、底部3）が、覆土中から出土している。

所見 出土位置が明確でないため、廃絶時期は判然としないが、埋没した最終時期は、出土土器や重複関係から中期中葉（阿玉台I b・II二期）と考えられる。



第132図 第106号土坑・出土遺物実測図

第106号土坑出土遺物観察表 (第132図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
67	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母・灰色粒子	赤褐	普通	隆帯による区画文 区画内は結節状彫文 隆帯上にキザミを有する	覆土中	5%

第107号土坑 (第133図)

位置 調査区中央部のR1717区、標高26mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

規模と形状 長径2.02m、短径1.80mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。深さは32cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

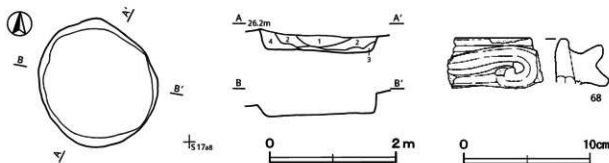
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・機土粒子・炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ロームブロック・機土粒子・炭化粒子・砂粒
 3 暗 褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、機土粒子微量
 4 黒 褐色 ローム粒子・機土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片26点(口縁部1, 胴部24, 底部1), 石器1点(磨石)が, 覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置が明確でないため, 廃絶時期は判断としないが, 埋没した最終時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第133図 第107号土坑・出土遺物実測図

第107号土坑出土遺物観察表 (第133図)

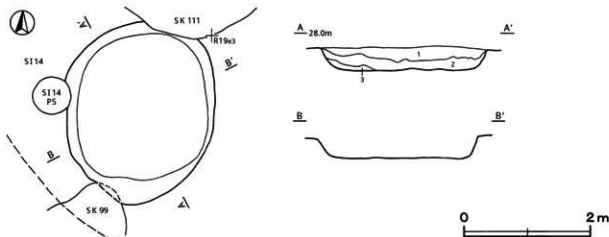
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
68	縄文土器	深鉢	-	(39)	-	機土・石質・炭粒	黒	普通	口縁部直下に隆帯が湾状に広がる 隆帯による渦巻文	覆土中	5%

第109号土坑 (第134・135図)

位置 調査区東部のR19e2区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第111号土坑に掘り込まれている。第14号住居跡は, 第111号土坑との新旧関係から, 本跡よりも新しい。第99号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長径2.92m, 短径2.38mの楕円形で, 長径方向はN-11°-Eである。深さは36cmで, 底面はほぼ平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。



第134図 第109号土坑実測図

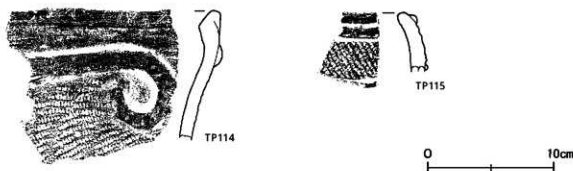
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片234点（口縁部33、胴部190、底部11）、石器2点（石皿、磨石）、剥片1点が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP114は覆土上層、TP115は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第135図 第109号土坑出土遺物実測図

第109号土坑出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP114	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	に高い橙	普通	焼解による湯泡文 R Lの半部横文	覆土上層	
TP115	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙灰	普通	沈線に沿う横帯文 R Lの半部横文	覆土下層	

第111号土坑（第136・137図）

位置 調査区東部のR19d2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第109号土坑を掘り込んでいる。木跡の覆土上面に第14号住居跡の炉が構築されている。第12号住居跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部が径2.8mほどの不整形円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.85m、短径2.65mの円形である。深さは61cmで、下位から括れ部にかけて内傾し、上位では北壁が外傾している以外は直立している。また底面から括れ部までの高さは38cmである。

覆土 11層に分層できる。全体にロームブロックを多く含んでおり、埋め戻されている。

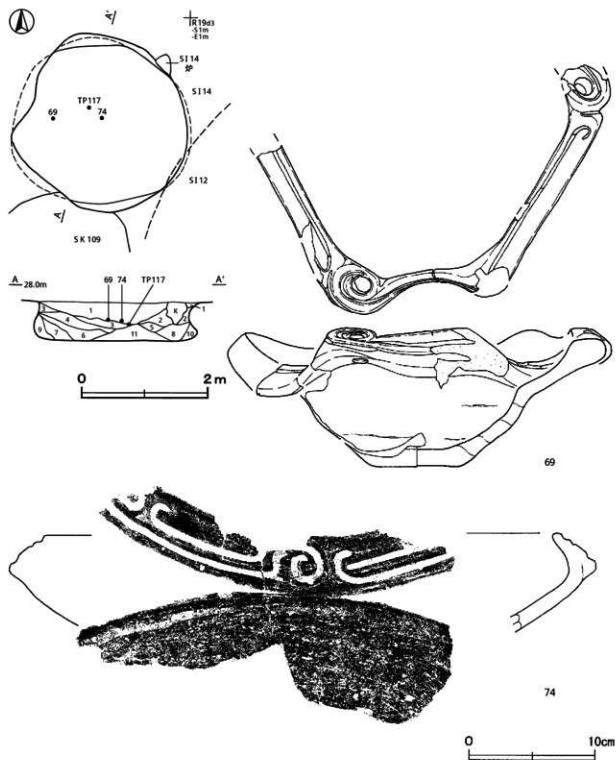
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
6 濃い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 に近い黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
8 黒褐色 ロームブロック中量
9 に近い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗褐色 ロームブロック少量
11 暗褐色 ロームブロック多量

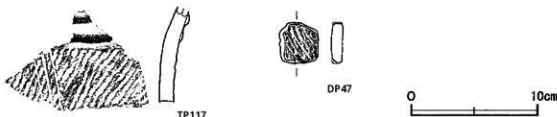
遺物出土状況 縄文土器片246点（口縁部50、胴部184、底部12）、土製品2点（土器片鏝）が覆土中層から集積して出土している。69は西壁寄り、74とTP117は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。74の浅鉢は、木跡から北東へ約17mの距離に位置する、第116号土坑の覆土下層から出土した土器片と接合したものである。

また、覆土中層から出土した土器片が、第6号住居跡の口の深鉢と接合している。

所見 土器の廃棄行為を伴って埋め戻されたと考えられる。時期は、重複関係や出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。本跡と第6号住居跡及び第116号土坑は、土器片に遺構間接合が確認されたことから、同時期に機能していた可能性がある。



第136図 第111号土坑・出土遺物実測図



第137図 第111号土坑出土遺物実測図

第111号土坑出土遺物観察表 (第136・137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
69	縄文土器	浅鉢	[30.5]	11.0	7.2	長石・石英・炭母	灰褐色	普通	口縁部は外面に突出し、孔を有する 隆帯と沈線で文様	覆土中層	70% PL20
74	縄文土器	浅鉢	[40.8]	(7.9)	-	長石・石英・炭母・灰色粘土	にぶい橙	普通	口縁部は沈線による渦巻文 胴部は黒文	覆土中層	5% PL21

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP117	縄文土器	深鉢	長石・石英・炭母・灰色粘土	灰褐色	普通	隆帯に沿った沈線で口縁部と胴部を区画 3条一組の沈線による渦巻文 R Lの単純黒文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP47	土縄片縁	3.3	3.1	0.9	12.3	長石・石英・炭母	にぶい橙	両端にキザシ 両辺部研磨 R Lの単純黒文と沈線文	覆土中層	

第112号土坑 (第138・139図)

位置 調査区中央部のR1719区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第113号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.36m、短径0.88mの楕円形で、長径方向はN-3°-Wである。深さは30cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 北壁寄りに位置している。深さは18cmである。

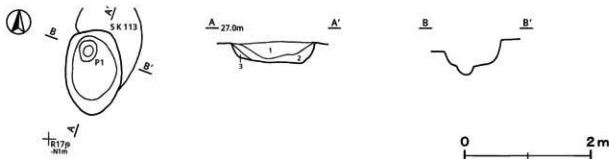
覆土 3層に分層できる。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

土層解説

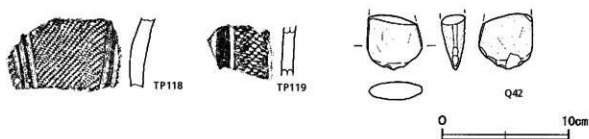
- 黒褐色 ロームブロック・機土ブロック・炭化穀子少量
- 黒褐色 ロームブロック・機土・砂粒少量

遺物出土状況 縄文土器片65点（口縁部12、胴部51、底部2）、石器1点（磨製石斧）が、覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置が明確でないため、廃絶時期は判然としないが、埋没した最終時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第138図 第112号土坑実測図



第139図 第112号土坑出土遺物実測図

第112号土坑出土遺物観察表 (第139図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP118	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線による懸垂文周を廻り消し R.Lの華部縄文	覆土中	
TP119	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰褐色	普通	沈線による懸垂文周を廻り消し R.Lの華部縄文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	磨製石片	(43)	44	(19)	(40.6)	砂岩	器体研磨人志 刃部及び基部欠損	覆土中	

第113号土坑 (第140図)

位置 調査区中央部のR1719区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第112号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第112号土坑に掘り込まれているため、南北径は1.46mが確認されただけで、東西径は0.98mである。長径方向がN-12°-Wの楕円形と推測できる。深さは27cmで、底面は皿状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

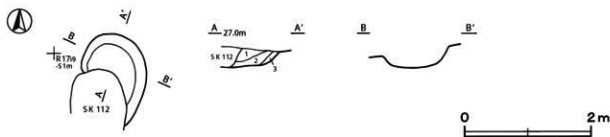
覆土 3層に分層できる。周囲からの土砂の流入を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量 3 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片25点(口縁部4, 胴部21)が、覆土中から出土している。いずれも細片で、図示することができない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉(加曾利E II 式期)以前の中期と考えられる。



第140図 第113号土坑実測図

第114号土坑（第141図）

位置 調査区中央部のR1719区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第2号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.84m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-86°-Eである。深さは20cmで、底面は西壁に向かって傾斜しており、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示しているが、覆土上層に土器が集中して出土していることから、埋め戻されていると考えられる。

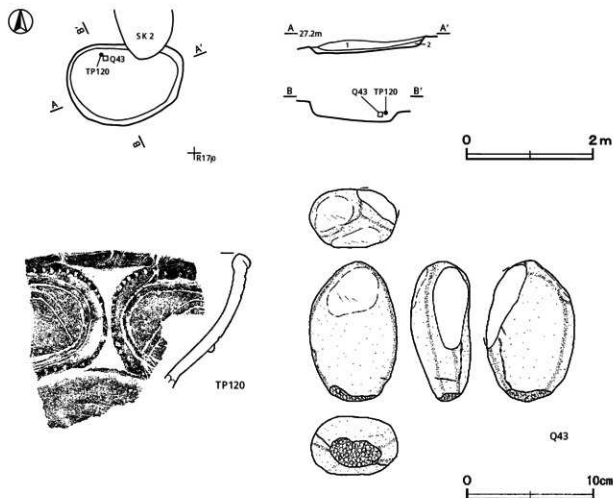
土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片105点（口縁部9、胴部92、底部4）、石器2点（磨石、敲石）、剥片1点が、北西壁際の覆土上層から集中して出土している。

所見 土器の廃棄行為を伴って埋め戻されたと考えられる。時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第141図 第114号土坑・出土遺物実測図

第114号土坑出土遺物観察表 (第141図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP120	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	増判の結部沈線が沿う隆帯によって楕円形区画文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q43	燧石	11.1	(69)	47	(499g)	石英片岩	下端に鋭打痕 磨石兼用 被熱痕有り	覆土上層	PL25

第115号土坑 (第142図)

位置 調査区中央部のR1710区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第1号住居跡と重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器と土坑の形状から本跡が古いと考えられる。

規模と形状 開口部が長径2.00m、短径1.86mの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径1.8mほどの円形である。深さは84cmで、下位から括れ部にかけて内傾し、上位は東壁が直立している以外は外傾して立ち上がっている。また底面から括れ部までの高さは60～62cmである。

ピット 2か所。北西壁寄りに位置している。深さは、P1が16cmで、P2が43cmである。

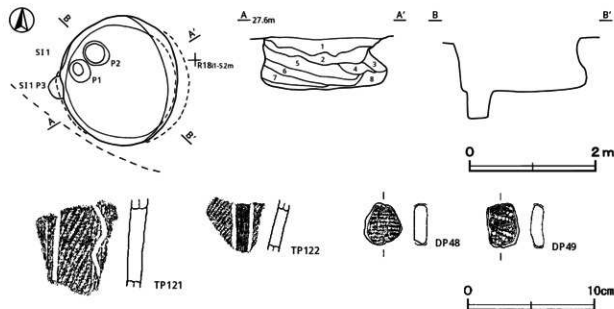
覆土 8層に分層できる。全体にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	8 濃い黄褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片205点(口縁部27, 胴部170, 底部8)。土製品2点(土器片鏟)、石器2点(磨製石斧、石皿)が、覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置は明確でないが、出土土器の主体は加曾利EⅠ・Ⅱ式土器であり、時期は中期後葉(加曾利EⅠ・Ⅱ式期)と考えられる。



第142図 第115号土坑・出土遺物実測図

第115号土坑出土遺物観察表 (第142図)

番号	種別	器種	胎土	色調	成成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP121	縄文土器	深鉢	長石・雲母	に5-11 赤褐色	普通	沈線による懸垂文 R Lの半部縄文	覆土中	
TP122	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈線による懸垂文周を廻り消し R Lの半部縄文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP40	土器片鉢	3.3	2.9	1.0	11.5	長石・雲母	黒褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 LRの半部縄文	覆土中	
DP40	土器片鉢	3.5	2.6	1.0	10.0	長石・石英・雲母	褐色	両端にキザミ 周辺部一部研磨 R Lの半部縄文	覆土中	

第116号土坑 (第143・144図)

位置 調査区東部のR19b6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第117号土坑に掘り込まれている。第10号住居跡は、第117号土坑との新旧関係から、本跡より新しい。

規模と形状 開口部が長径2.62m、短径2.30mの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.6mほどの円形である。深さは80cmで、下位から括れ部にかけて内傾し、上位では直立している。また底面から括れ部までの高さは55~70cmである。

ピット 東壁寄りに位置している。深さは18cmである。

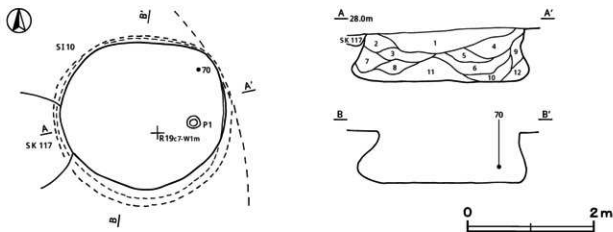
覆土 12層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第11層はロームブロックを多量に含み、極めて締まった覆土であり、内傾する壁が崩落した後、踏み固められたと考えられる。

土層解説

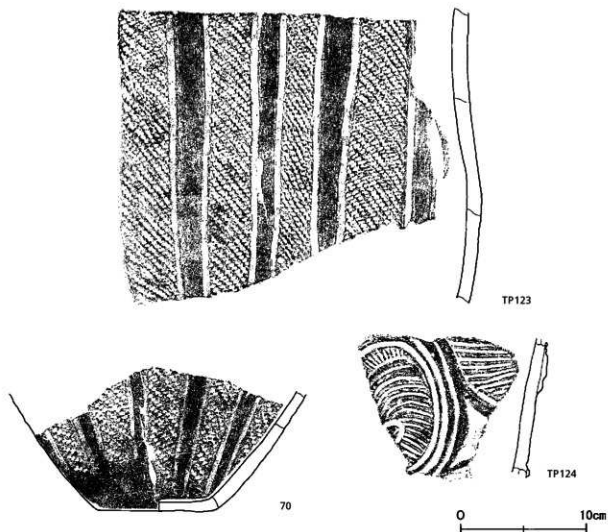
- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にい・黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 にい・黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片105点（口縁部18、胴部84、底部3）が、覆土上層から下層にかけて出土している。70は北東壁際の覆土中層、TP123は覆土下層からそれぞれ出土している。また、覆土下層から出土した土器片が、第111号土坑の74の浅鉢と接合している。

所見 70とTP123は接合しないが、胎土や文様構成から同一個体と考えられる。時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ時期）と考えられる。本跡と第111号土坑は、土器片に遺構間接合が確認されたことから、同時期に機能していた可能性がある。



第143図 第116号土坑実測図



第144図 第116号土坑出土遺物実測図

第116号土坑出土遺物観察表 (第144図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
70	縄文土器	深鉢	-	(95)	9.1	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による懸垂文間を磨り消し、LRLの襷部縄文	覆土中層	15%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP123	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に20% 橙	普通	沈線による懸垂文間を磨り消し、LRLの襷部縄文	覆土下層	
TP124	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色鉄子	に20% 橙	普通	沈線を有する隆帯と沈線によって文様擦出	覆土上層	

第117号土坑 (第145図)

位置 調査区東部のR19b6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号土坑を掘り込んでいる。本跡の覆土上面に第10号住居の炉が構築されている。

規模と形状 径1.7mほどの円形である。深さは20cmで、底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

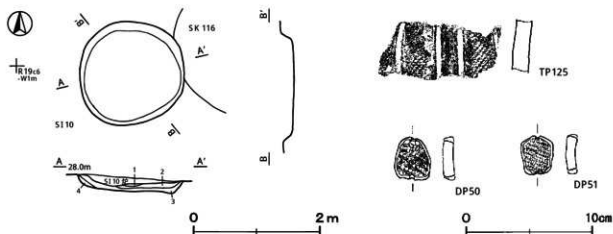
覆土 4層に分層できる。第1層上面に第10号住居の炉が構築されているため、第1層には焼土ブロックの含有が顕著に認められる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭
色粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 濃い黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片241点（口縁部23、胴部212、底部6）、土製品2点（土器片鏝）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP125は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第145図 第117号土坑・出土遺物実測図

第117号土坑出土遺物観察表（第145図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP125	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による磨盤文周を磨り消し R Lの半筋縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP50	土器片鏝	3.4	2.9	1.0	11.0	長石・石英・ 炭色	橙	両端にキザミ 両辺部研磨 R Lの半筋縄文	覆土中層	
DP51	土器片鏝	3.0	2.6	0.9	8.1	長石・石英・ 炭色	黄褐色	両端にキザミ 両辺部研磨 R Lの半筋縄文	覆土上層	

第118号土坑（第146図）

位置 調査区中央部のR17h0区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第119号土坑を掘り込んでいる。本跡の覆土上面に第1号住居の跡が構築されている。

規模と形状 開口部が長径3.05m、短径2.58mの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.90m、短径2.65mの楕円形である。深さは62cmで、東壁が外傾して立ち上がっている以外は、下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がっている。また底面から括れ部までの高さは32cmである。

ビット 2か所。P1は東壁寄りに、P2は南東壁際に位置している。深さは、P1が40cm、P2が50cmである。

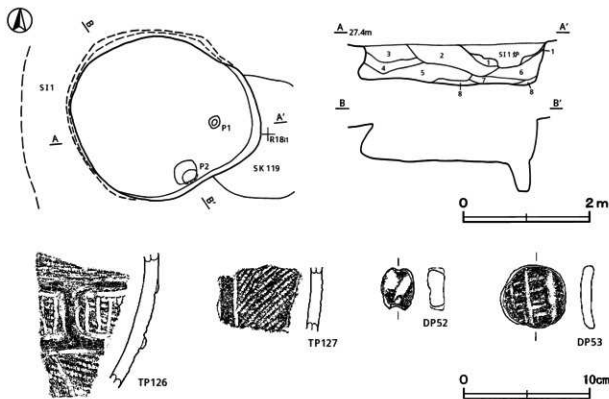
覆土 8層に分層できる。第1層上面に第1号住居の跡が構築されているため、第1層には焼土ブロックの含有が認められる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片438点（口縁部42、胴部368、底部28）、土製品2点（土器片鍾、土器片円盤）が、覆土上層から下層にかけて出土している。TP127は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第146図 第118号土坑・出土遺物実測図

第118号土坑出土遺物観察表（第146図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP126	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	精	普通	沈線に沿う隆帯で区画文 区画内は低位の沈線 R Lの単部縄文	覆土中	
TP127	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明赤褐	普通	沈線による懸垂文帯を磨り消し R Lの単部縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP52	土器片鍾	3.3	2.6	1.3	11.6	長石・石英・炭化粒子	黒褐	両端にキザミ 両辺部研磨 沈線文	覆土中	Pl.24
DP53	土器片円盤	5.0	5.1	1.0	23.8	長石・石英・炭化粒子	にがい黄緑	両辺部研磨 隆帯と沈線文	覆土下層	Pl.24

第119号土坑（第147図）

位置 調査区中央部のR1811区、標高27mほどの台地縁部部の緩斜面に位置している。

重複関係 第120号土坑を掘り込み、第118号土坑に掘り込まれている。本跡の覆土上面に第1号住居の炉が構築されている。

規模と形状 他の遺構と重複しているため、東西径は1.28mが確認されただけで、南北径は1.90mである。径1.9mほどの円形と推測できる。深さは61cmで、底面は平坦であり、南壁が外傾している以外は直立している。

ピット 2か所。ともに壁際に位置している。深さは、P1が50cm、P2は34cmである。

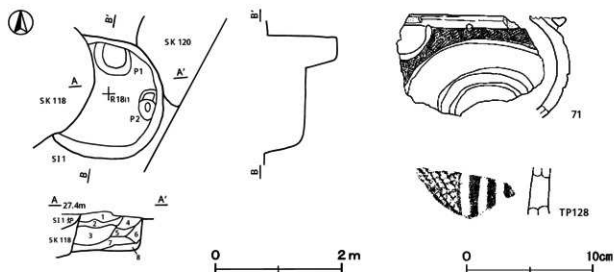
覆土 8層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量、灰色粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量（細まり強い） |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片78点（口縁部7、胴部69、底部2）、剥片1点が、覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置は明確でないが、出土土器は加曾利EⅡ式土器が主体であり、時期は中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第147図 第119号土坑・出土遺物実測図

第119号土坑出土遺物観察表（第147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
71	縄文土器	有孔網付	-	(81)	-	長石・雲母	灰緑	釜通	網状の隆平裏下に沈線 沈線間はLRの単部縄文と磨り消し	覆土中	5% PL21

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP128	縄文土器	深鉢	長石・石英	に高い橙	釜通	沈線による懸垂文間を磨り消し LRの単部縄文	覆土中	

第120号土坑（第148図）

位置 調査区中央部のR18h1区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第119・122号土坑に掘り込まれている。第1号住居跡は、第119号土坑との新旧関係から本跡より新しい。

規模と形状 他の遺構と重複しており、南東側が調査区域外に延びているため、南北径は1.68m、東西径は1.56mが確認されただけである。長径方向がN-13°-Wの楕円形と推測できる。深さは28cmで、底面は平坦であり、残存する北東壁は緩やかに立ち上がっている。

ビット 南壁寄りに位置している。深さは11cmである。

覆土 2層に分層できる。重複によって全容は不明であるが、ロームブロックを含み、水平堆積の状況から埋め戻されていると考えられる。

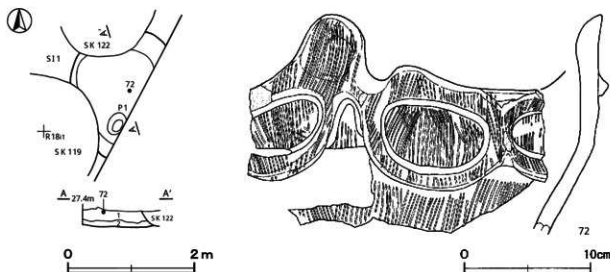
土層解説

1 暗赤褐色 ロームブロック少量

2 紅・黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片3点（口縁部1，胴部2）が出土している。72は、中央部の覆土上層から出土している。

所見 出土した土器には時期差が認められず、時期は中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。



第148図 第120号土坑・出土遺物実測図

第120号土坑出土遺物観察表（第148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
72	縄文土器	深鉢	-	(17.3)	-	長石・石英・炭屑	灰緑	普通	隆帯による楕円形区画文 地文は糸織文	覆土上層	10% PL21

第121号土坑（第149図）

位置 調査区中央部のR18h1区、標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第1・122号土坑に掘り込まれている。第1号住居跡とも重複しており、土層では確認できなかったが、出土土器から本跡が古いと考えられる。

規模と形状 他の遺構と重複しているため、東西径は1.60mが確認されただけで、南北径は1.82mである。径1.8mほどの円形と推測できる。深さは31cmで、底面は皿状であり、緩やかに立ち上がっている。

ビット 中央部に位置している。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロック等の含有物を含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

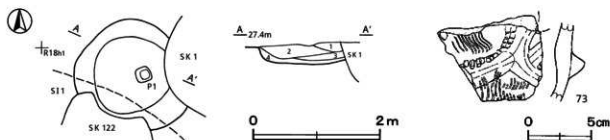
3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片66点（口縁部11，胴部50，底部5）が，覆土中から出土している。

所見 土器の出土位置が明確でないため，廃絶時期は判然としないが，埋没した最終時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第149図 第121号土坑・出土遺物実測図

第121号土坑出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
73	縄文土器	深鉢	-	(68)	-	長石・石英・燧石	にがい色焼	普通	踵等に沿っての角押文 波状の条線文	覆土中	5%

第122号土坑（第150図）

位置 調査区中央部のR18h1区，標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第120・121号土坑を掘り込んでいる。第1号住居跡とも重複しており，土層では確認できなかったが，出土土器から本跡が古いと考えられる。

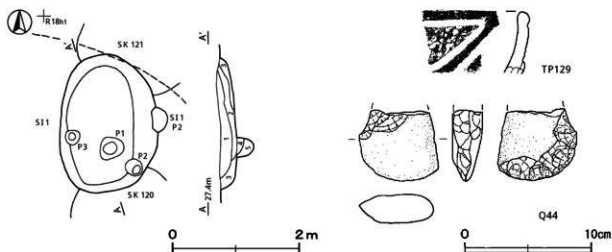
規模と形状 長径2.20m，短径1.56mの楕円形で，長径方向はN-0°ある。深さは26cmで，底面はほぼ平坦であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

ビット 3か所。中央部と壁際に位置している。深さは，P1が39cmで，P2は42cm，P3は20cmである。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量（細まり弱い） |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |



第150図 第122号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片131点（口縁部11，胴部118，底部2），石器1点（打製石斧），剥片1点が，覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から中期後葉（加曾利E I・II時期）と考えられる。

第122号土坑出土遺物観察表（第150図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP129	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒1 に赤1	普通	沈線に沿う隆帯で区画文 LRLの複線縄文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q44	打製石斧	(5.6)	6.3	2.3	(109.2)	安山岩	両面調整 両面に磨礫面残す	覆土中	

第123号土坑（第151図）

位置 調査区中央部のR17J0区，標高27mほどの台地縁辺部の緩斜面に位置している。

重複関係 第13号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第13号住居に掘り込まれており，南東側が調査区域外に延びているため，南北径は2.03m，東西径は1.60mが確認されただけである。形状は不明である。深さは30cmで，底面は平坦であり，残存する壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。重複によって全容は不明であるが，堆積の乱れはなく自然堆積と考えられる。

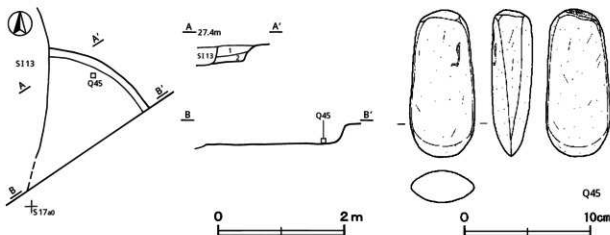
土層解説

1 黒 褐色 土 ロームブロック・焼土・炭子・炭屑

2 黒 褐色 土 ロームブロック・焼土・炭子・炭屑

遺物出土状況 石器1点（磨製石斧）が，北東壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器がないため明確でないが，重複関係や周囲の遺構から，中期後葉（加曾利E I時期）以前の中期と考えられる。なお，形状から住居跡の可能性もあるが，硬化面やピットが確認できなかったことから，土坑として判断した。



第151図 第123号土坑・出土遺物実測図

第123号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	磨製石斧	11.6	4.6	3.2	275.9	砂岩	定角式 器体研磨入念	覆土下層	PL28

表3 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	開口部 平面形	長径方向	周 縁		深さ (m)	壁面	底部	ビット	層土	主な出土遺物	備考 参照関係 (古→新)
				開口部 (長径×短径(m))	底 部 (長径×短径(m))							
1	R18h1	[円形]	-	1.90×(1.18)	-	70	外傾	皿状	-	-	縄文土器・土器片繻・土器片円盤	SK121→本跡
2	R179	楕円形	N-12°W	1.46×0.82	-	22	傾斜	平壇	-	人角	縄文土器	SK114→本跡
3	R170	楕円形	N-8°E	2.41×2.04	-	118	外傾	傾斜	2	自然	縄文土器	
4	Q197	楕円形	N-48°E	1.48×1.30	-	54	直立	平壇	-	人角	縄文土器	
5	Q199	楕円形	N-66°E	2.26×1.94	-	112	内傾 直立	平壇	-	自然 人角	縄文土器・土器片繻	
6	R19a9	楕円形	N-30°E	2.86×2.04	-	78	内傾 直立	平壇	1	人角	縄文土器	
7	R19a9	円形	-	2.40×2.20	-	50	外傾	平壇	1	人角	縄文土器	
8	R20a1	円形	-	2.14×2.00	-	45	外傾	平壇	1	自然	縄文土器	
9	R19b9	円形	-	2.95×2.80	-	60	外傾	平壇	-	自然	縄文土器	
10	R19b0	円形	-	1.69×1.57	-	60	外傾	皿状	-	自然	縄文土器・磨石	
11	R19c8	[楕円形]	N-13°W	(1.92)×2.40	-	44	外傾	平壇	2	人角 自然	縄文土器	
12	R19a8	円形	-	2.36×2.30	-	68	外傾	皿状	3	自然	縄文土器・土器片円盤	
15	Q196	円形	-	1.60×1.48	-	36	傾斜 外傾	平壇	1	自然	縄文土器・土器片円盤	SK16→本跡
16	Q195	[円形]	-	0.95×(0.86)	-	42	外傾	平壇	1	自然	縄文土器	本跡→SK15 SK18との新旧関係不明
19	R19a6	楕円形	N-26°W	2.22×1.88	-	68	直立	平壇	4	人角	縄文土器	
20	R19a6	楕円形	N-27°W	2.00×1.73	-	70	外傾	平壇	1	自然	縄文土器・磨石	
21	R19b7	不整形円形	-	1.65×1.52	-	80	外傾	皿状	-	自然	縄文土器	
22	Q195	楕円形	N-33°E	2.00×1.67	-	37	傾斜 外傾	平壇	3	人角	縄文土器	
28	R19d7	円形	-	2.12×2.00	-	26	外傾	平壇	3	自然	縄文土器	
29	R19b6	円形	-	2.47×2.34	2.67×2.60	72	フラスコ	平壇	2	自然	縄文土器・土器片繻・土器片円盤・磨製石斧	
32	R19a5	円形	-	1.58×1.44	-	33	外傾	平壇	-	自然	縄文土器・打製石斧・石皿	本跡→S112
33	R195	[円形]	-	(2.35)×2.00	-	25	外傾	平壇	5	自然	縄文土器	本跡→SK48, P15
35	Q194	楕円形	N-66°E	2.20×1.98	-	43	直立 傾斜	平壇	5	人角	縄文土器	SK36→本跡
36	Q195	不明	-	(1.10)×(0.98)	-	41	外傾	平壇	-	自然	縄文土器	本跡→SK35
40	R19c6	円形	-	1.60×1.50	-	45	外傾	一部 外傾	-	自然	縄文土器・磨製石斧	SK43→本跡→S110
41	R19a5	楕円形	-	2.50×2.26	2.61×2.47	73	フラスコ	平壇	3	自然	縄文土器・土器片繻	SK66との新旧関係不明
42	R19a5	円形	-	1.78×1.77	-	14	外傾	平壇	2	自然	縄文土器・磨石	S112との新旧関係不明
43	R19c6	[楕円形]	-	(2.10)×1.68	3.22×3.16	124	フラスコ	平壇	-	自然 人角	縄文土器・土器片繻・土器片円盤・磨製石斧	本跡→S110, SK40
46	R19a4	円形	-	1.84	-	34	内傾 外傾	平壇	1	人角	縄文土器・石鏡	S112との新旧関係不明
47	R19a3	楕円形	-	1.09×0.90	1.67×(1.52)	67	フラスコ	平壇	-	人角	縄文土器・土器片円盤	本跡→S112・14, SK49
49	R19a3	楕円形	-	2.46×2.22	2.75×2.58	87	フラスコ	平壇	5	自然 人角	縄文土器・土器片繻・石鏡・磨石	SK47→本跡→S112・14
50	R19a2	楕円形	N-10°E	2.64×2.23	-	78	外傾	傾斜	2	人角	縄文土器・土器片繻・磨製石斧	
51	R19c4	円形	-	1.92×1.80	-	35	外傾	平壇	2	人角	縄文土器・土器片繻	
53	R19a4	[楕円形]	N-6°W	(2.19)×1.66	-	12	外傾	平壇	2	自然	縄文土器	本跡→SK53 S112・14との新旧関係不明
54	R193	[円形]	-	(1.46)×(1.30)	-	(24)	直立 外傾	平壇	-	人角	縄文土器	本跡→S13・12
55	R19c3	[不整形楕円形]	N-40°W	2.25×(1.28)	-	20	傾斜	皿状	1	自然	縄文土器	本跡→SK57
57	R19c3	楕円形	N-21°W	1.48×1.03	-	90	直立	平壇	-	自然	縄文土器	SK55→本跡
58	R19b5	円形	-	1.40	-	54	外傾	平壇	-	自然	縄文土器	S14・6→本跡
59	R19b3	楕円形	-	2.30×1.87	2.30×2.14	83	フラスコ	傾斜	1	人角	縄文土器・土器片繻	本跡→S114, SK97
61	R19d7	[楕円形]	-	2.23×(0.94)	2.20×(0.88)	84	フラスコ	平壇	-	自然 人角	縄文土器	本跡→P18
62	R19b3	楕円形	N-36°W	2.84×2.36	-	10	傾斜	平壇	3	自然	縄文土器	
63	R19b3	円形	-	1.44×1.40	-	51	直立	平壇	-	自然	縄文土器	
65	R19c5	楕円形	N-8°E	2.20×1.95	-	60	直立	平壇	2	自然 人角	縄文土器・土器片繻・磨製石斧	S110→本跡
67	R19a4	円形	-	1.55×1.49	-	36	外傾	平壇	-	人角	縄文土器	SK68→本跡
68	R19c4	[楕円長方形]	N-19°E	2.38×(1.46)	-	18	外傾	平壇	-	人角	縄文土器	本跡→SK67
69	R19a4	楕円形	N-82°W	1.74×1.48	-	36	傾斜 外傾	皿状	1	自然	縄文土器・土器片繻	SK85→本跡→S112

番号	位置	開口部 平面形	長径方向	周 縁			壁面	底面	ビット	覆土	主な出土遺物	備 考 監視関係 (古・新)
				開口部 (長径×短径(m))	底 部 (長径×短径(m))	深さ (m)						
70	R 19c1	円形	-	1.20×1.18	-	34	外傾	平埧	-	自然	縄文土器	
73	R 18e0	円形	-	1.52×1.44	-	21	外傾	平埧	3	自然	縄文土器	
74	R 19d1	円形	-	0.92×0.87	-	38	外傾	平埧	-	自然	縄文土器	
75	R 19a3	円形	-	1.74×1.63	-	84	直立	平埧	-	人為	縄文土器	SI 7, SK 83→本跡
76	R 19a3	[楕円形]	N-20°-E	(2.90×2.40)	-	50	内傾 直立	平埧	1	人為	縄文土器	本跡→SI 7
77	R 19e1	[不整形円形]	-	(1.66×1.60)	2.10×2.08	94	フラスコ	平埧	-	人為	縄文土器	本跡→SI 8, SK 86
78	R 18f8	円形	-	2.34×2.22	-	103	直立	平埧	3	人為	縄文土器・土器片雑・土器片汚籠	
79	R 19b3	不明	-	(1.16×0.80)	-	46	外傾	平埧	-	自然	縄文土器	本跡→SK 80
80	R 19b2	[不整形円形]	-	2.10×(1.08)	-	73	外傾	平埧	1	自然	縄文土器	SK 79→本跡→P 55 SK 81との新旧関係不明
81	R 19b2	[不整形円形]	N-3°-E	2.30×(2.05)	-	52	外傾	平埧	-	自然	縄文土器	本跡→P 55 SK 80との新旧関係不明
82	R 19b2	円形	-	1.28×1.16	-	85	直立	平埧	-	自然	縄文土器	
83	R 19b2	[楕円形]	N-2°-E	(1.04×0.92)	-	56	外傾	平埧	-	自然	縄文土器・土器片雑	本跡→SK 75
85	R 19e4	[楕円形]	-	(2.63×2.28)	2.84×2.75	80	フラスコ	平埧	3	人為	縄文土器・土器片雑・土器片汚籠・石鏡	本跡→SI12, SK 89, P 33
86	R 19e1	楕円形	-	2.13×2.07	-	32	傾斜	平埧	1	人為	縄文土器	SI 8・11, SK 77→本跡→SK 102 SK 99, P 54cとの新旧関係不明
88	R 19a5	[円形]	-	(0.88)	-	(58)	外傾	平埧	-	自然	-	本跡→SI 4
89	R 19b4	楕円形	N-18°-E	1.96×1.72	-	64	直立	平埧	2	人為	縄文土器・磨製石斧・敲石	SI 6→本跡→SI 4
90	R 19b4	楕円形	N-67°-W	1.00×0.86	-	51	外傾	平埧	-	自然	縄文土器	
92	R 19c1	円形	-	1.97×1.92	-	41	直立	平埧	-	人為	縄文土器・石皿	
93	R 19b1	円形	-	0.93×0.89	-	44	外傾	平埧	-	-	縄文土器	SI 9→本跡
94	R 18d9	円形	-	1.06×1.02	-	18	傾斜	平埧	-	自然	縄文土器	本跡→SK 95
95	R 18d9	円形	-	1.10×1.08	-	38	傾斜	平埧	-	人為	縄文土器	SK 94, P 34→本跡
96	R 18f6	円形	-	2.24×2.12	-	50	外傾	平埧	2	人為	縄文土器・土器片汚籠 敲石	
98	R 19a2	不整形円形	-	[1.39]×1.20	1.32×1.28	47	フラスコ	平埧	-	人為	縄文土器・磨石	本跡→SI11・14
99	R 19a2	不整形円形	-	[2.08]×1.48	2.28×2.12	125	フラスコ	平埧	3	人為	縄文土器	SI11→本跡→SI 14 SK 86・109cとの新旧関係不明
105	R 17f7	不整形円形	-	2.04×1.90	-	28	外傾	傾斜	-	自然	縄文土器	SK 106→本跡
106	R 17b8	不明	-	(1.10×0.96)	-	30	外傾 直立	平埧	-	自然	縄文土器	本跡→SK 105
107	R 17f7	楕円形	N-45°-W	2.02×1.80	-	32	外傾	平埧	-	自然	縄文土器	
109	R 19a2	楕円形	N-11°-E	2.92×2.38	-	36	外傾	平埧	-	自然	縄文土器	本跡→SI 14, SK 111 SK 99との新旧関係不明
111	R 19a2	不整形円形	-	2.87×2.73	2.85×2.65	61	フラスコ	平埧	-	人為	縄文土器・土器片雑	SK 109→本跡→SI 14 SI 12cとの新旧関係不明
112	R 17b9	楕円形	N-3°-W	1.36×0.88	-	30	傾斜	平埧	1	自然	縄文土器・磨製石斧	SK 113→本跡
113	R 17b9	[楕円形]	N-12°-W	(1.64)×0.98	-	27	傾斜	皿状	-	自然	縄文土器	本跡→SK 112
114	R 17b9	楕円形	N-86°-E	1.84×1.28	-	20	傾斜	傾斜	-	人為	縄文土器・敲石	本跡→SK 2
115	R 17b0	円形	-	2.00×1.86	1.82×1.74	84	フラスコ	平埧	2	人為	縄文土器・土器片雑	本跡→SI 1
116	R 19b6	楕円形	-	2.62×2.30	2.66×2.52	80	フラスコ	平埧	1	人為	縄文土器	本跡→SI 10, SK 117
117	R 19b6	円形	-	1.72×1.66	-	20	傾斜	平埧	-	人為	縄文土器・土器片雑	SK 116→本跡→SI 10
118	R 17b0	楕円形	-	3.05×2.58	2.90×2.65	62	フラスコ	平埧	2	人為	縄文土器・土器片雑・土器片汚籠	SK 119→本跡→SI 1
119	R 18f1	[円形]	-	(1.28)×1.90	-	61	外傾 直立	平埧	2	人為	縄文土器	SK 120→本跡→SI 1, SK 118
120	R 18f1	[楕円形]	N-13°-W	(1.68×1.56)	-	28	傾斜	平埧	1	人為	縄文土器	本跡→SI 1, SK 119・122
121	R 18f1	[円形]	-	1.82×(1.60)	-	31	傾斜	皿状	1	人為	縄文土器	本跡→SI 1, SK 1・122
122	R 18f1	楕円形	N-0°	2.20×1.90	-	26	傾斜	平埧	3	自然	縄文土器・打製石斧	SK 120・121→本跡→SI 1
123	R 17b0	不明	-	(2.03×1.80)	-	30	外傾	平埧	-	自然	磨製石斧	本跡→SI 13

(a) ビット

この項で取り扱うビットは、径が0.7m以下のもの、もしくは径に対して深さの深いものと定義した。用途は、貯蔵穴、柱穴等が考えられるが、機能がはっきりしなかったため性格不明とした。調査で31か所のビットを確認したが、遺物出土状況が良好なもの、新旧関係から縄文時代のビットと考えられるものを取り上げた。

第17号ビット (第152図)

位置 調査区東部のR19e1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.7mほどの円形である。深さは82cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

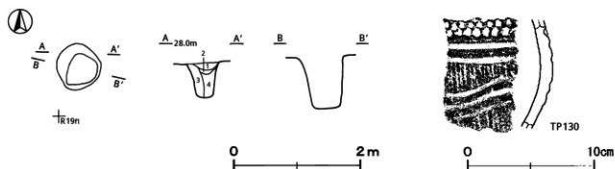
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片50点(口縁部8, 胴部40, 底部2), 石器1点(石皿)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第152図 第17号ビット・出土遺物実測図

第17号ビット出土遺物観察表 (第152図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP130	縄文土器	深鉢	長石・石英	に灰1質焼	磨造	交互斜交文 波状の沈線文 沈線文間を隔り滑り 縦糸文	覆土中	

第18号ビット (第153図)

位置 調査区東部のR19d7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第61号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.84m、短径0.73mの楕円形で、長径方向はN-54°-Wである。深さは102cmで、底面は平坦であり、壁は直立しているが、上位でやや外傾して立ち上がっている。

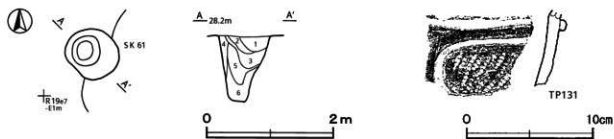
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 濃い黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片8点(胴部)が覆土上層から下層にかけて出土している。TP131は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅠ・Ⅱ時期)と考えられる。



第153図 第18号ビット・出土遺物実測図

第18号ビット出土遺物観察表(第153図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP131	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒1 に赤1	窯造	沈線に沿う隆帯で区画文 R Lの華部縄文	覆土中	

第34号ビット(第154図)

位置 調査区東部のR18d9区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第95号土坑に掘り込まれている。

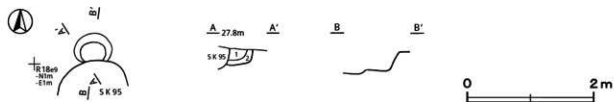
規模と形状 第95号土坑に掘り込まれているため、長径は0.60mで、短径は推定0.50mである。長径方向がN-85°-Eの楕円形である。深さは30cmで、底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層に含有物を含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 色 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 色 褐色 ローム粒子中量

所見 時期は出土土器がないため明確でないが、重複関係や周囲の遺構から、中期後葉(加曾利EⅡ時期)以前の中期と考えられる。



第154図 第34号ビット実測図

第41号ビット(第155図)

位置 調査区東部のR19b5区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号住居に掘り込まれている。第10号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 第6号住居に掘り込まれているため、径0.7mほどの円形と推測される。深さは48cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

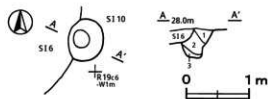
覆土 3層に分層できる。各層に含有物を含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片4点（胴部）が覆土中から出土している。いずれも細片で、図示することができない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）以前の中期と考えられる。



第155図 第41号ピット実測図

第42号ピット（第156図）

位置 調査区東部のR191f区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.3mほどの円形である。深さは41cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

遺物出土状況 縄文土器片34点（口縁部3、胴部27、底部4）が覆土中から出土している。

所見 堆積状況が不明のため、廃絶時期は明確でないが、埋没した最終時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第156図 第42号ピット・出土遺物実測図

第42号ピット出土遺物観察表（第156図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP132	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にじみ色	普通	沈線に沿う隆帯で口縁部文様を構成 R・Lの半部縄文	覆土中	
TP133	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	沈線による器底文様を崩し消し R・Lの半部縄文	覆土中	

第55号ピット（第157図）

位置 調査区東部のR19b2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第80・81号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.84m、短径0.74mの楕円形で、長径方向はN-23°-Eである。深さは110cmで、底面は平坦であり、壁は直立している。

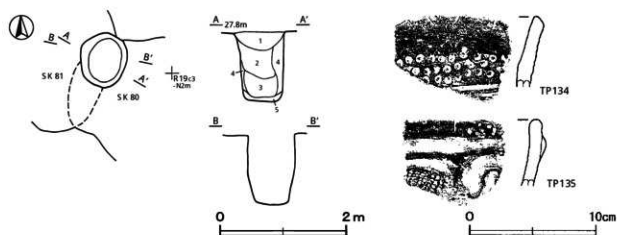
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 4 褐色 ロームブロック少量
5 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片34点（胴部11，胴部23）が，主に覆土上層から集中して出土している。TP134・TP135は覆土上層から出土している。

所見 出土土器が覆土上層に集中しているため，廃絶時期は明確でないが，埋没した最終時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ時期）と考えられる。



第157図 第55号ピット・出土遺物実測図

第55号ピット出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP134	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にじみ1層	普通	口縁部直下に刺突文が巡る 沈線文	覆土上層	
TP135	縄文土器	深鉢	長石・雲母	明赤褐色	普通	沈線に沿う隆帯によって渦巻文・区面文 L Rの単節縄文	覆土上層	

表4 縄文時代ピット一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径×短径(m)	深さ (cm)					
17	R19e1	円形	-	0.73×0.68	82	直立	平坦	人為	縄文土器	
18	R19d7	楕円形	N-54°-W	0.84×0.73	102	直立	平坦	人為	縄文土器	SK 61→本跡
34	R18d9	楕円形	N-85°-E	0.60×[0.50]	30	皿状	外傾	人為	-	本跡→SK 95
41	R19e5	[円形]	-	0.70×[0.68]	48	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→S16 S19との新旧関係不明
42	R19f1	円形	-	0.35×0.30	41	平坦	直立	-	縄文土器	
55	R19e2	楕円形	N-23°-E	0.84×0.74	110	直立	平坦	自然	縄文土器	SK 80・81→本跡

(4) 炉跡

今回の調査で，壁や床，ピットの付随施設が明確でない炉跡1基を確認した。

第1号炉跡（第158図）

位置 調査区東部のR19d3区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号住居の炉1に掘り込まれている。

規模と形状 南側を第14号住居跡の炉1に掘り込まれているため、長径は推定106cmで、短径は50cmの楕円形を呈する土器埋設炉である。炉床は第3層上面であり、火を受けて赤変硬化している。炉床から深さ9cmの掘り方に、胴部下半を欠く深鉢を正位で埋設している。埋設土器の周囲は赤変硬化した炉床であるが、埋設土器内の覆土では、炉床は確認されていない。

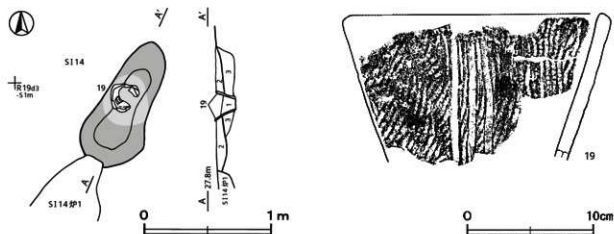
覆土 3層に分層できる。第3層は掘り方への埋土である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 3 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片5点（口縁部1、胴部3、底部1）が出土している。19は炉の埋設土器である。

所見 埋設土器は、赤変して器面の剥落が著しいことから、長期にわたって火を受けたと考えられる。時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第158図 第1号炉跡・出土遺物実測図

第1号炉跡出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
19	縄文土器	深鉢	119d3	(11.9)	-	焦石・石英・炭屑	明赤褐色	普通	3条一組の器文 R.Lの単純縄文	炉埋設土器	10%

(5) 遺物包含層

第1号遺物包含層（第159～167図）

位置 調査区中央部のR17区・R18区、標高24～26mの斜面部から谷部にかけて位置している。

確認状況 本跡は埋没谷に堆積している遺物包含層である。斜面部から谷部にかけて、縄文土器片を中心とした遺物を広範囲で確認した。本跡の南側にある台地上面には、縄文時代中期の遺構が集中して分布している。

重複関係 第1号井戸に掘り込まれている。

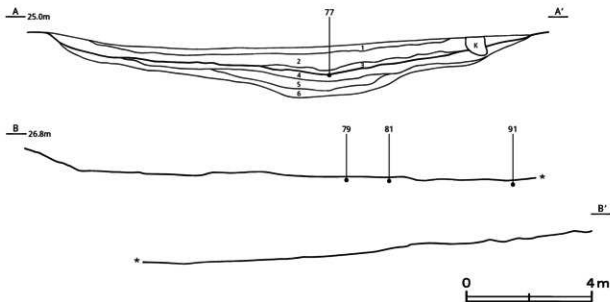
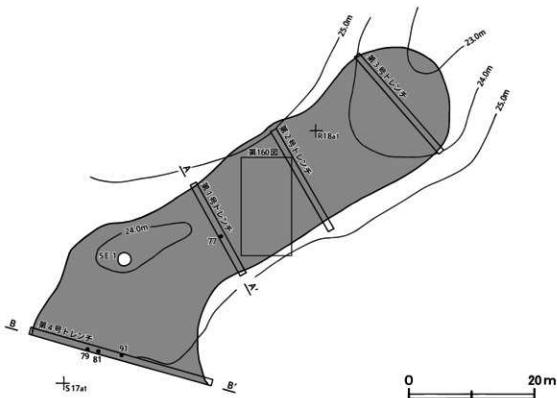
規模 確認できた堆積範囲は、東西74m、南北20mに及んでいる。厚さは、最深度で0.94mである。

調査方法 遺物包含層に対して、南北方向に4本のトレンチを設定し、土層観察から遺物の出土層位を確認した。ここでは、特に遺物の集積が確認された谷部の第1号トレンチの土層解説と、斜面部の第4号トレンチの断面図を掲載した。遺物包含層の堆積状況を確認後、遺物の出土状況を確認しながら、グリットごとに掘り下げた。

覆土 遺物包含層は第1層から第3層までの3層に分別できる。第4層以下は、自然堆積土であり、遺物は確認されていない。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|---------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細礫微量 | 4 黒 色 | 黒色粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・細礫微量 | 5 黒 色 | 黒色粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒 色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 | 6 黒 褐 色 | 黒色粒子中量、暗褐色粒子少量、砂粒微量 |

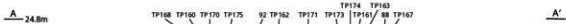


第159図 第1号遺物包含層実測図

阿玉台式期



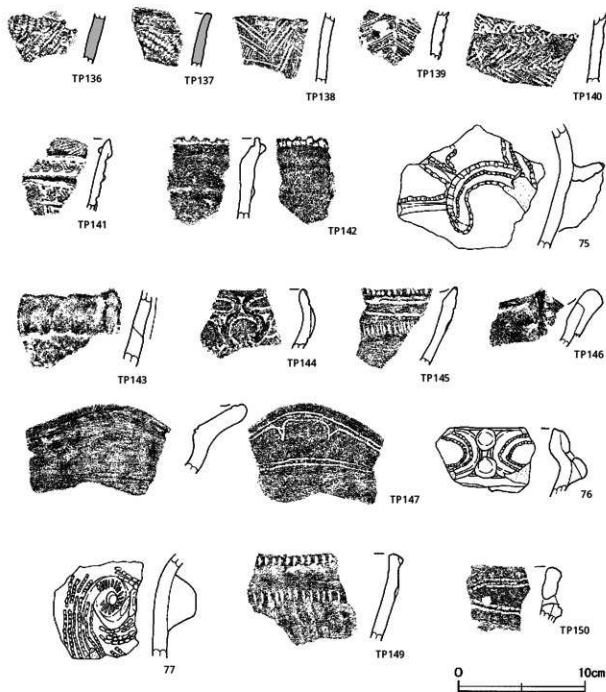
加曾利E式期



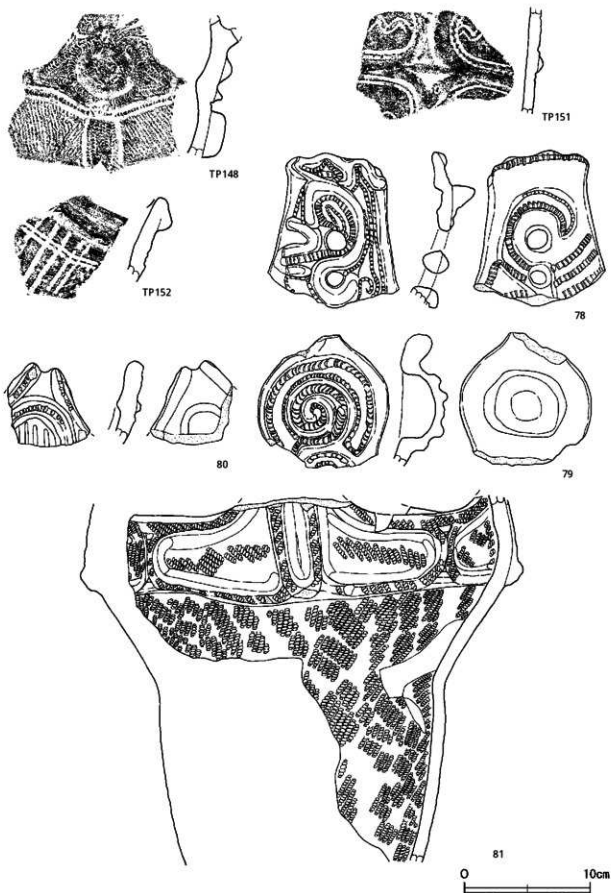
第160图 第1号遺物包含層出土状況図

遺物出土状況 縄文土器片17,022点、土製品34点（土器片鍾29、土器片円盤5）、剥片を含む石器85点、混入したと考えられる土師器片3点が出土した。縄文土器は、前期11点、中期17,008点（阿玉台式期2,705点、加曾利E式期6,465点、無文2,446点、細片4,600点、底部792点）、後期3点が出土している。大半は、谷部に設定した第1号トレンチと第2号トレンチ間の範囲に集中して出土している。

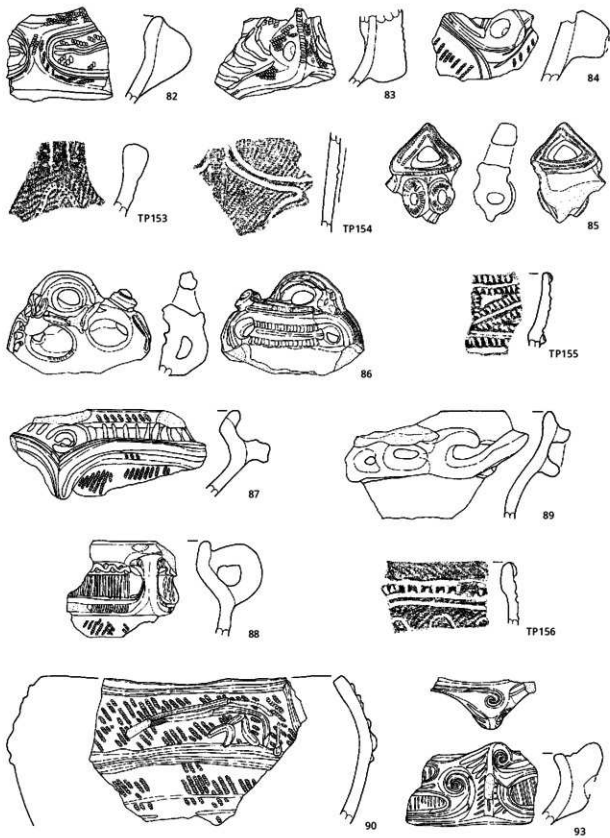
所見 出土土器の大半は、阿玉台I b式期から加曾利E III式期のものであり、台地上の集落の時期とはほぼ一致している。時期別の土器片の出土状況からは、平面分布と垂直分布ともに集中することなく、時期ごとに顕著な違いは見られない。トレンチの土層観察から、埋没谷に土砂が堆積した後、ゆるやかな斜面に向かって台地上から遺物が流れ込んで、遺物包含層が形成されたものと考えられる。



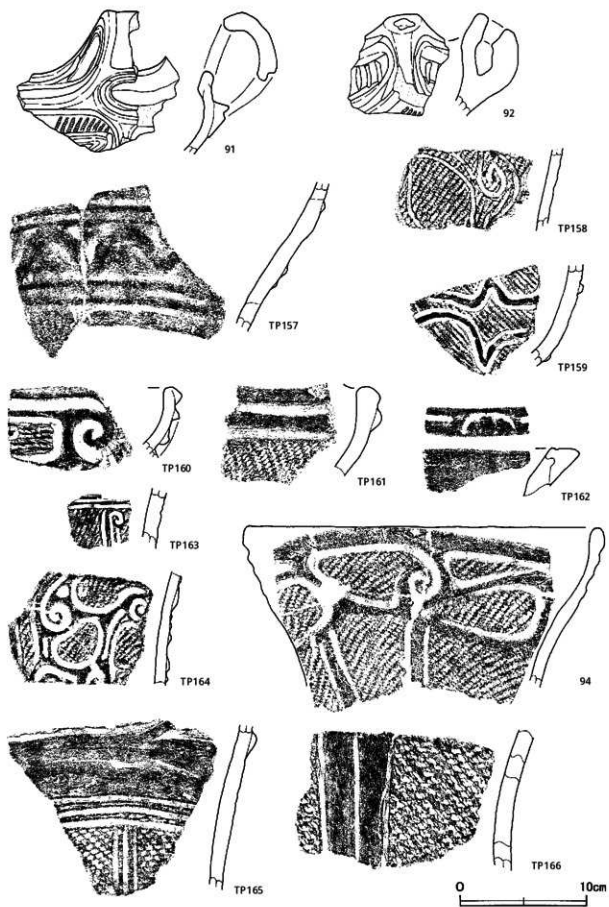
第161図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(1)



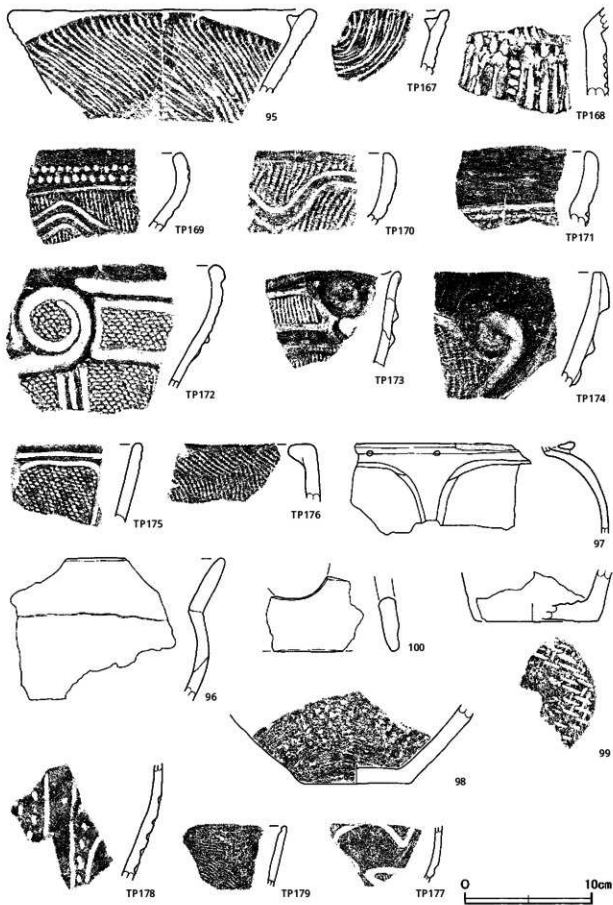
第162图 第1号遗物包含层出土遗物实测图(2)



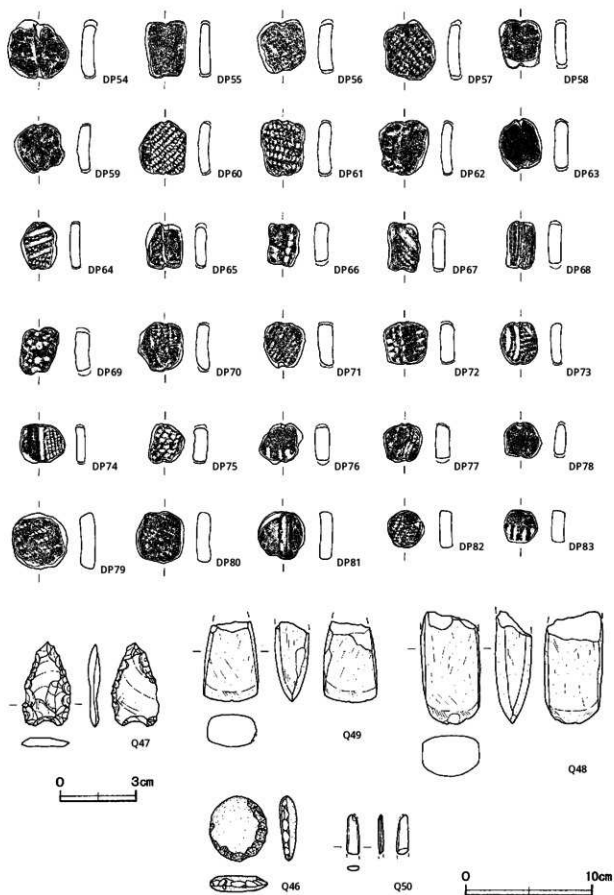
第163图 第1号遗物包含層出土遺物実測図(3)



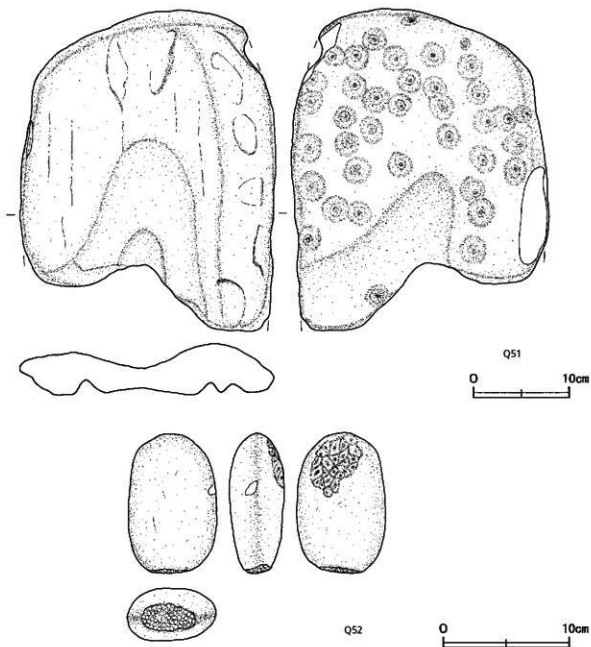
第164图 第1号遗物包含层出土遗物实测图(4)



第165图 第1号遗物包含層出土遺物实测图(5)



第166图 第1号遗物包含层出土遗物实测图(6)



第167図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(7)

第1号遺物包含層出土遺物観察表(第161~167図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T P136	縄文土器	深鉢	-	(40)	-	長石・石英・ 燧石	明褐色	普通	L Rの単節縄文	R 17-9	前期
T P137	縄文土器	深鉢	-	(43)	-	長石・雲母・ 燧石	にがい褐色	普通	R Lの単節縄文	R 18-64	前期
T P138	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英・ 燧石	褐色	普通	平行次線文 地文は網糸文	R 17-9	前期
T P139	縄文土器	深鉢	-	(38)	-	長石・石英	にがい黄褐色	普通	円形刺突文と平行線文		確認前
T P140	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英・ 雲母	灰褐色	普通	結線文 断節縄文による羽状縄文	第2号 トレンチ	前期
T P141	縄文土器	深鉢	-	(57)	-	長石・石英・ 雲母	灰褐色	普通	三角文 内面口唇部直下に隆帯が走る	第4号 トレンチ	中前期
T P142	縄文土器	深鉢	-	(64)	-	長石・石英	にがい褐色	普通	内外面、口唇部直下に結節次線文	第4号 トレンチ	中期中葉
75	縄文土器	深鉢	-	(98)	-	長石・石英・ 雲母	にがい黄褐色	普通	隆帯に沿っての結節次線文 隆帯状にキズミを有する		確認前
T P143	縄文土器	深鉢	-	(59)	-	長石・石英	にがい褐色	普通	ヒダ状庄屋 隆帯による唇部文		確認前
T P144	縄文土器	深鉢	-	(47)	-	長石・石英	灰褐色	普通	隆帯に沿って結節次線文		確認前

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP145	縄文土器	深鉢	-	(61)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部にキザミ 口縁部に結節状線文とキザミ目列が通	R17c	中期中葉
TP146	縄文土器	浅鉢	-	(47)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部直下に隆帯が通る 瘤状の突起配付 内面赤文	第2号トレンチ	中期中葉
TP147	縄文土器	浅鉢	-	(55)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	良好	口縁部内面に結節状線文	第1号トレンチ	中期中葉
76	縄文土器	深鉢	-	(54)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	隆帯に沿って後列の結節状線文 ボタン状配付文	R17d	中期中葉 5%
77	縄文土器	深鉢	-	(81)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	隆帯に沿って後列の結節状線文 瘤状の突起を有する隆帯 突起上には肩輪縁文	第1号トレンチ	中期中葉 5% PL22
TP148	縄文土器	深鉢	-	(111)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	後列の結節状線文 R.Lの単節縁文	第4号トレンチ	中期中葉 PL22
TP149	縄文土器	深鉢	-	(69)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部直下に隆帯 隆帯上と口縁部にキザミ目列が通る	第2号トレンチ	中期中葉 PL22
TP150	縄文土器	深鉢	-	(43)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	口縁部に補修孔 隆帯に沿って後列の結節状線文	R17c	中期中葉
TP151	縄文土器	深鉢	-	(85)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	隆帯に沿って後列の結節状線文	第1号トレンチ	中期中葉 PL22
TP152	縄文土器	深鉢	-	(67)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部直下に隆帯 結節状線文	R17d	中期中葉
78	縄文土器	深鉢	-	(124)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	円孔を有し、結節状線に沿う隆帯で加飾された裝飾把手	第4号トレンチ	中期中葉 5% PL22
79	縄文土器	深鉢	-	(105)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	角弁文に沿う隆帯で加飾された裝飾把手	第4号トレンチ	中期中葉 5% PL22
80	縄文土器	深鉢	-	(64)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	キザミを有し、隆帯に沿う隆帯で加飾された山形状の把手	R17d	中期中葉
81	縄文土器	深鉢	-	(290)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部は隆帯による区画文 R.Lの単節縁文	第4号トレンチ	中期中葉 40% PL20
82	縄文土器	深鉢	-	(77)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	平行状線に沿う隆帯で口縁部文・隆帯を構成 隆帯上にはR.Lの単節縁文・文・3条一組の平行状線文	R17b	中期中葉 5% PL22
83	縄文土器	深鉢	-	(72)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	別みを有する隆帯と沈線で口縁部文・隆帯を構成 R.Lの単節縁文	R17b	中期中葉 5% PL22
84	縄文土器	深鉢	-	(54)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	隆帯に沿って平行状線文 R.Lの単節縁文	第1号トレンチ	中期中葉 5% PL22
TP153	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	山形状の把手 結節状線文 R.Lの単節縁文	R17b	中期中葉
TP154	縄文土器	深鉢	-	(78)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	沈線文 隆帯状にR.Lの単節縁文・文	第4号トレンチ	中期中葉 PL22
85	縄文土器	深鉢	-	(79)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	円孔を有し、結節状線文で加飾された把手	確認部	中期中葉 5% PL22
86	縄文土器	深鉢	-	(82)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	沈線と結節状線を有する隆帯で加飾された裝飾把手	R17d	中期中葉 5% PL22
TP155	縄文土器	深鉢	-	(59)	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	隆帯上にキザミ 三叉文	確認部	中期中葉 PL22
87	縄文土器	深鉢	-	(79)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	沈線を有する隆帯が肩状に張り出し文様を提出 R.Lの単節縁文	R17c	中期中葉 5% PL22
88	縄文土器	深鉢	-	(71)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	結節状線を有する網線状把手 口縁部直下に交互斜交による連続つ字状文 R.Lの単節縁文	R17d	中期中葉 5% PL22
89	縄文土器	深鉢	-	(84)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	隆帯が外面に突出し、文様を提出	第4号トレンチ	中期中葉 PL22
TP156	縄文土器	深鉢	-	(51)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	口縁部直下に交互斜交による連続つ字状文 R.Lの単節縁文	第4号トレンチ	中期中葉 PL22
90	縄文土器	深鉢 [240]	(118)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	隆帯によって口縁部文・隆帯を提出 L.Rの単節縁文	第4号トレンチ	中期中葉 PL23	
91	縄文土器	深鉢	-	(113)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	網線状把手 沈線に沿う隆帯によって口縁部文・隆帯を構成 R.Lの単節縁文	第4号トレンチ	中期中葉 5%
92	縄文土器	深鉢	-	(81)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	網線状把手 縦位の沈線文 R.Lの単節縁文	R17b	中期中葉 5% PL22
93	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	口縁部に沈線による溝文・口縁部は沈線に沿う隆帯による溝文・区画文・外面には縦位の沈線	R17b	中期中葉 5% PL23
TP157	縄文土器	深鉢	-	(158)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	隆帯による波状文 R.Lの単節縁文	R16g	中期後葉
TP158	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・雲母	にがれ焼	普通	沈線によって溝帯状のモチーフを提出 R.Lの単節縁文	確認部	中期中葉
TP159	縄文土器	深鉢	-	(81)	-	長石・雲母	にがれ焼	普通	沈線に沿う隆帯で文様を提出 0段多糸によるL.Rの単節縁文	第4号トレンチ	中期後葉 PL23
TP160	縄文土器	深鉢	-	(54)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	沈線に沿う隆帯で溝帯文 扇文	R17c	中期後葉 PL23
TP161	縄文土器	深鉢	-	(69)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	沈線に沿う隆帯で口縁部文・文様を提出 R.Lの単節縁文	R17d	中期後葉
TP162	縄文土器	浅鉢	-	(38)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部沈線文	R17c	中期後葉
TP163	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	沈線文 0段多糸によるR.Lの単節縁文	R17d	中期後葉
TP164	縄文土器	深鉢	-	(89)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	沈線に沿う隆帯で溝帯文・区画文 R.Lの単節縁文	第4号トレンチ	中期後葉 PL23
94	縄文土器	深鉢 [280]	(127)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	口縁部は沈線に沿う隆帯で溝帯文・区画文 扇部は沈線による溝帯文を施し、R.Lの単節縁文 又スリ文	確認部	中期後葉 PL23	
TP165	縄文土器	深鉢	-	(131)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	3条一組の沈線による溝帯文・区画文・L.Rの溝帯縁文	確認部	中期後葉 PL23
TP166	縄文土器	深鉢	-	(111)	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	3条一組の沈線による溝帯文・区画文・L.Rの溝帯縁文	第4号トレンチ	中期後葉 PL23
95	縄文土器	深鉢 [200]	(67)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	斜位の沈線文 内面口縁部直下に肩状の隆帯が通る	R16g	中期後葉 5% PL23	
TP167	縄文土器	深鉢	-	(51)	-	雲母・赤色粒子	にがれ焼	普通	溝帯文 内面口縁部直下に肩状の隆帯が通る	R17b	中期後葉
TP168	縄文土器	深鉢	-	(71)	-	長石・赤色粒子	にがれ焼	普通	キザミを有する隆帯文 縦位の沈線文	R17c	中期後葉 PL23
TP169	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	口縁部直下に円形斜交文 3条一組の沈線による波状文・扇文	R17c	中期後葉 PL23
TP170	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	2条一組による沈線による波状文を施し、R.Lの単節縁文	R17c	中期後葉 PL23
TP171	縄文土器	深鉢	-	(60)	-	長石・石英・赤色粒子	にがれ焼	普通	交互斜交文	R17b	中期後葉

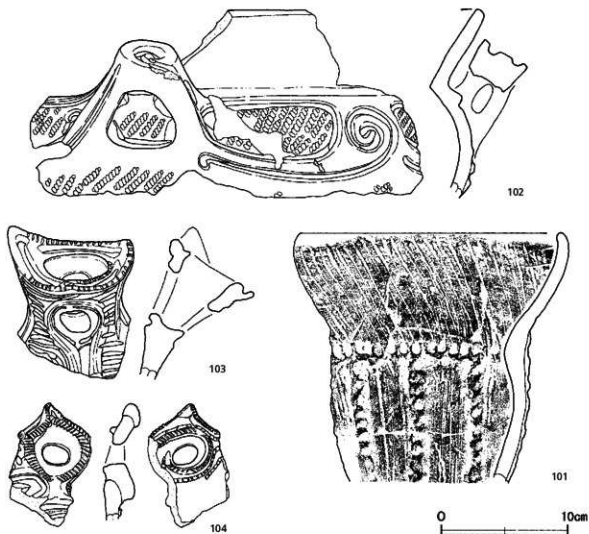
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出位置	備考
TP172	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	沈線に沿う帯等で渦巻文・区画文 LRLの複部縄文	確認	中朝後葉 PL23
TP173	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	沈線に沿う帯等で区画文 照糸文	R17d	中朝後葉 PL23
TP174	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	沈線に沿う帯等による渦巻文 LRLの単部縄文	R17d	中朝後葉 PL23
TP175	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	沈線文 LRLの複部縄文	R17d	中朝後葉 PL23
TP176	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・雲母	焼	普通	口唇部は内面に突出 0段多条によるRRLの単部縄文	第4号トレンチ	中朝 5%
96	縄文土器	鉢	-	(11.5)	-	長石・石英	灰褐	良好	無文	第4号トレンチ	中朝 5%
97	縄文土器	有孔円筒	-	(7.3)	-	長石・雲母	橙	普通	胴部と口縁部の境に、穿孔された円状の帯等を透らす	確認	中朝 5% PL23
98	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	8.8	長石・石英	橙	普通	RRLの複部縄文	第4号トレンチ	中朝 5%
99	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	10.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	底部磨代痕	第1号トレンチ	中朝 5%
100	縄文土器	器台	-	(6.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	円孔を有する	第4号トレンチ	中朝 5%
TP177	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・雲母	にぶい焼	普通	沈線文周を磨り消し RRLの単部縄文	R17d	後朝
TP178	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	沈線文周の列点文	R18c3	後朝
TP179	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	内面口唇部直下に沈線が走る 無部縄文	第1号トレンチ	後朝

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出位置	備考
DP54	土器片鉢	4.7	4.8	1.1	26.8	長石・石英	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	第2号トレンチ	
DP55	土器片鉢	4.4	3.2	0.9	16.1	長石・石英・赤色粒子	橙	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文 口縁部片利用	R17d9	PL24
DP56	土器片鉢	4.3	3.8	1.1	21.1	長石・石英	橙	両面にキザミ 周辺部研磨 RRLの単部縄文	R17d6	
DP57	土器片鉢	4.8	4.0	1.0	21.8	石英・雲母	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部研磨 RRLの単部縄文	R17d8	
DP58	土器片鉢	3.8	3.4	0.9	13.7	長石・石英	橙	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文 口縁部片利用	確認	
DP59	土器片鉢	3.9	4.0	1.0	16.8	長石・石英	灰褐	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	R17d9	
DP60	土器片鉢	4.2	3.7	1.0	17.1	長石・石英	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	第1号トレンチ	PL24
DP61	土器片鉢	4.4	3.4	1.1	20.2	長石・石英	黒褐	両面にキザミ 周辺部一部研磨 RRLの単部縄文	確認	
DP62	土器片鉢	4.3	3.9	0.9	17.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	確認	
DP63	土器片鉢	4.1	3.4	1.1	(18.8)	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文 一部欠損	第4号トレンチ	
DP64	土器片鉢	3.7	2.9	0.8	10.4	長石・石英・雲母	灰褐	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 沈線文 LRLの単部縄文	確認	
DP65	土器片鉢	3.6	2.9	0.9	12.0	長石・雲母	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 RRLの単部縄文	R17d8	
DP66	土器片鉢	3.5	2.5	1.2	11.0	長石・石英・赤色粒子	明褐	両面にキザミ 結節沈線文	確認	
DP67	土器片鉢	3.9	2.6	1.1	13.3	長石・雲母	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部研磨 沈線文 LRLの単部縄文	R17d3	
DP68	土器片鉢	3.9	2.3	1.1	12.1	長石・石英・雲母	橙	両面にキザミ 周辺部研磨 平行赤線文 口縁部片利用	確認	
DP69	土器片鉢	3.8	3.1	1.3	15.8	長石・石英	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文 表面割剥	R17d5	
DP70	土器片鉢	3.9	3.5	1.1	16.3	長石・石英	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部研磨 RRLの単部縄文	第4号トレンチ	
DP71	土器片鉢	3.6	3.2	1.1	16.1	長石・石英	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 RRLの単部縄文	確認	
DP72	土器片鉢	3.3	3.4	1.1	16.6	長石・石英	明褐	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 帯列の結節沈線文	第4号トレンチ	
DP73	土器片鉢	3.3	2.9	0.9	10.9	長石・石英・雲母	にぶい焼	両面にキザミ 上部部にキザミが2カ所 周辺部入念に研磨 沈線文 RRLの単部縄文	R17d8	PL24
DP74	土器片鉢	3.2	3.6	0.7	11.0	長石・石英・雲母	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 沈線文周を磨り消し照糸文	R17d8	PL24
DP75	土器片鉢	3.2	2.8	1.1	10.8	長石・雲母	暗赤褐	両面にキザミ 周辺部研磨 RRLの単部縄文	確認	
DP76	土器片鉢	3.3	3.4	1.2	13.4	長石・雲母	橙	両面にキザミ 周辺部一部研磨 キザミ目列	包含層中	
DP77	土器片鉢	3.1	3.1	1.2	13.5	長石・雲母	にぶい焼	両面にキザミ 周辺部一部研磨 LRLの単部縄文	第4号トレンチ	
DP78	土器片鉢	2.8	2.9	0.9	9.3	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文 口縁部片利用	R17d5	
DP79	土器片内蓋	4.5	4.4	1.2	27.5	長石・石英	にぶい焼	周辺部研磨 RRLの単部縄文	第4号トレンチ	
DP80	土器片内蓋	4.0	3.8	1.1	22.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	周辺部研磨 RRLの単部縄文	R17d1	
DP81	土器片内蓋	3.7	3.7	1.1	15.7	長石・石英	にぶい焼	周辺部研磨 帯等による磨擦文	第4号トレンチ	PL24
DP82	土器片内蓋	3.0	2.9	1.1	9.5	長石・雲母	にぶい焼	周辺部研磨 RRLの単部縄文	R17d8	
DP83	土器片内蓋	2.6	2.7	1.1	8.2	長石・石英	明赤褐	周辺部入念に研磨 キザミ目列	第4号トレンチ	PL24

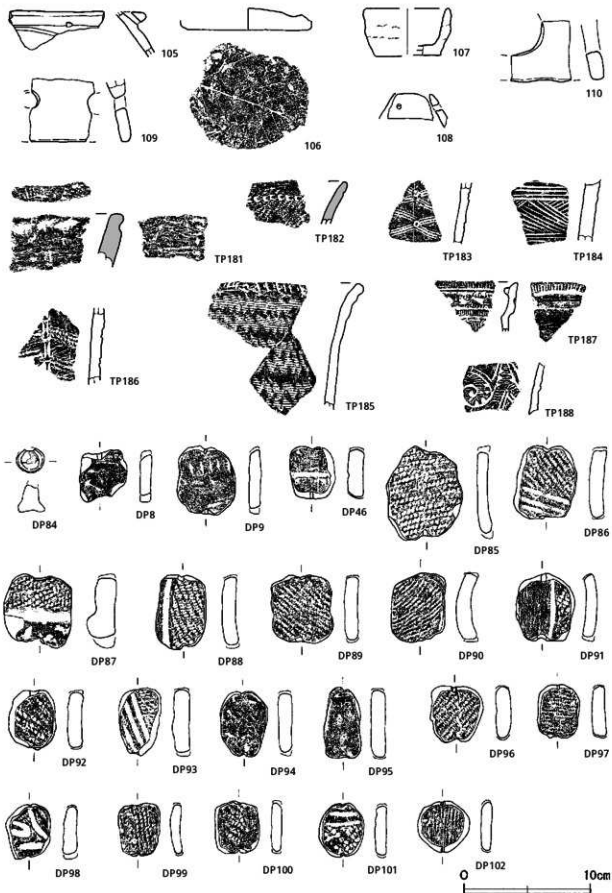
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q46	播磨	5.1	4.5	1.3	43.4	石英琺瑯	下端部から右側縁にかけて背面より緩斜度の溝部 両面に磨痕面を施す	包含層中	
Q47	石鏃	2.2	1.3	0.3	0.8	チャート	両面押圧割離 凹基部至縁	第4号トレンチ	PL28
Q48	磨製石片	(9.0)	3.0	4.6	(179g)	砂岩	定角式 全面を研磨 基部欠損	確認面	
Q49	磨製石片	(6.4)	4.3	2.7	(112g)	凝灰岩	定角式 全面を研磨 基部欠損	R 1749	
Q50	磨製石片	(3.2)	0.9	0.4	(1.9g)	凝灰岩	全面を研磨 刃部欠損	確認面	PL28
Q51	石皿	(33.5)	26.9	5.3	(6300g)	雲母片岩	表面割離顯著 両面とも機能面が面状に凹む 凹石併用	確認面	PL26
Q52	磨石	11.1	7.0	4.3	49.5	石英琺瑯	上端部は荒い磨打痕 下端部は緻密な磨打痕 磨石兼用	確認面	

(6) 遺構外出土遺物 (第168~175図)

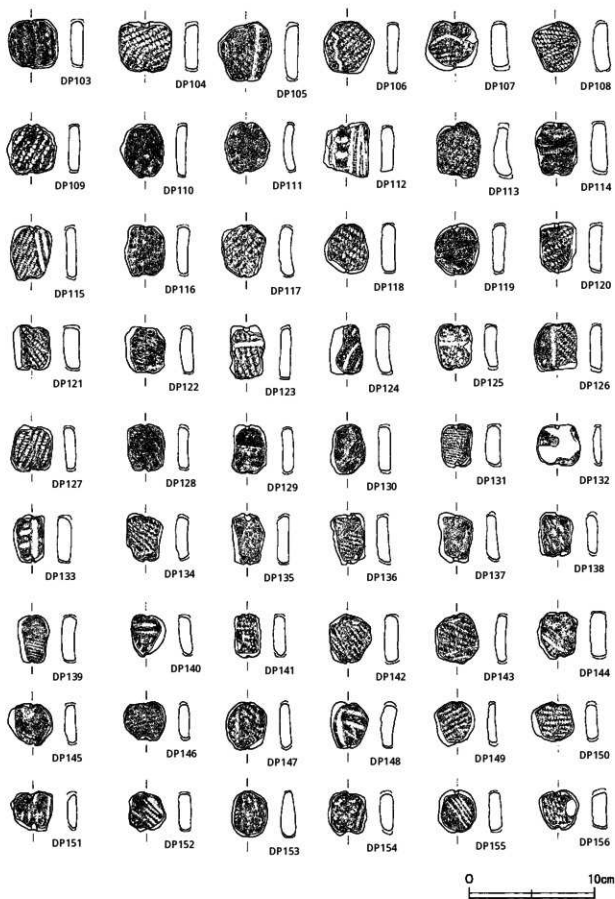
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、ここでは縄文時代の遺物について、実測図と観察表を掲載する。なお、表土除去前に行ったトレンチによる試掘調査で出土した遺物も、複数図示しているが、トレンチの設定図は付図に掲載した。



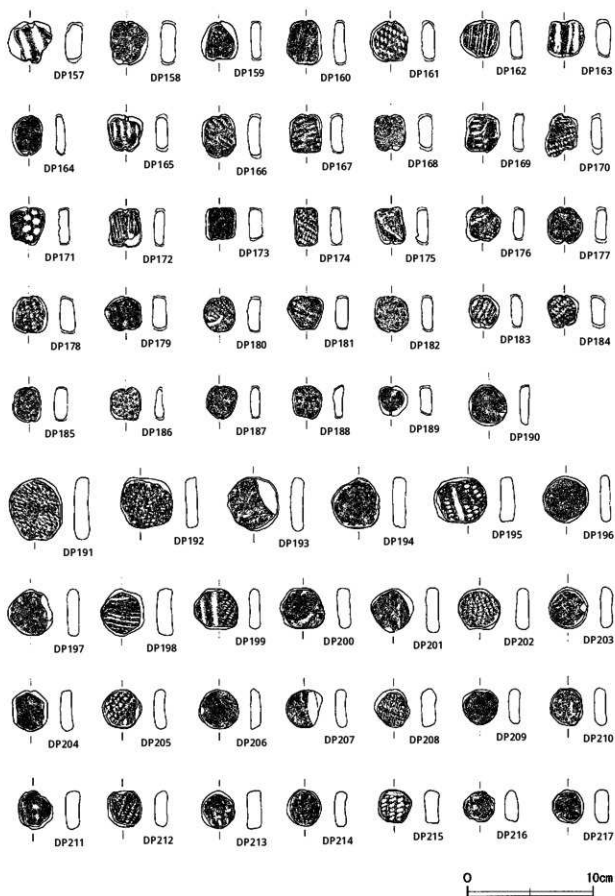
第168図 遺構外出土遺物実測図(1)



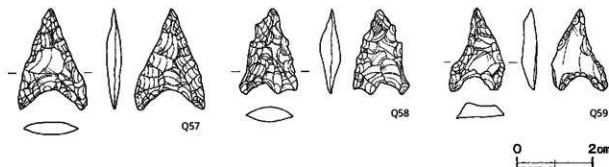
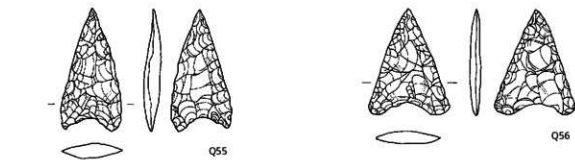
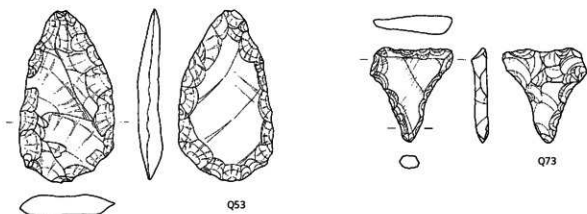
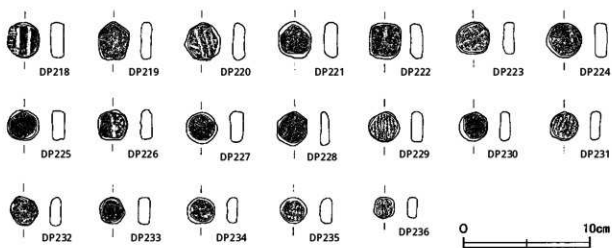
第169図 遺構外出土遺物実測図(2)



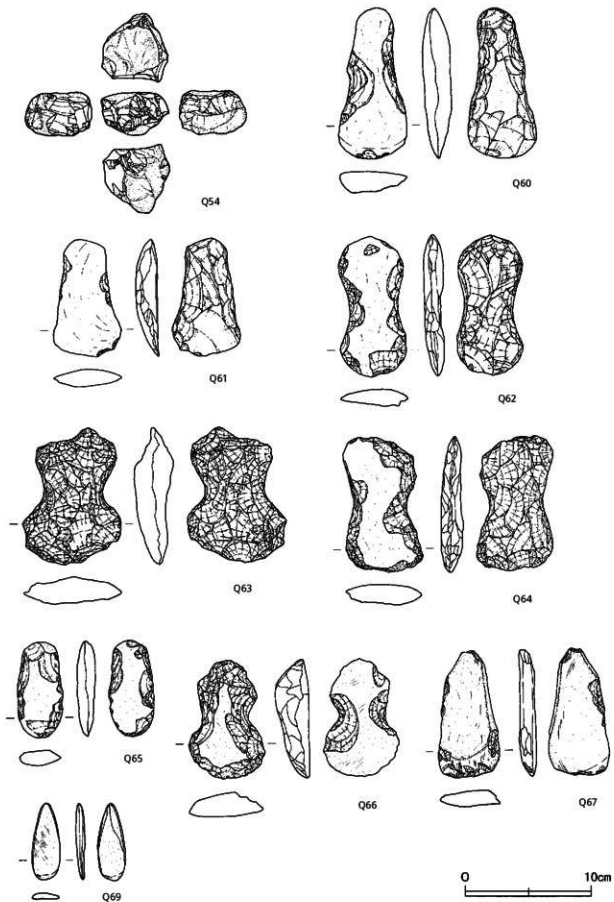
第170図 遺構外出土遺物実測図(3)



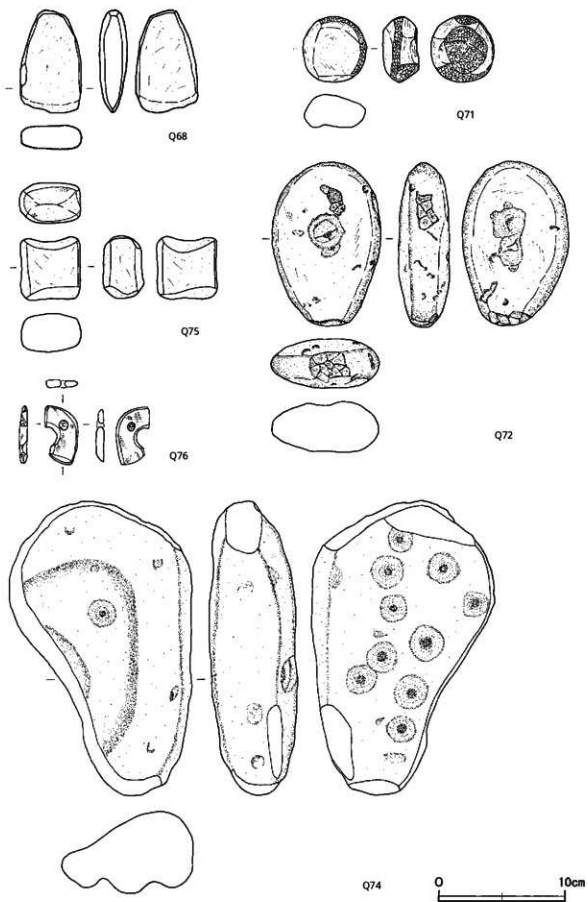
第171图 遺構外出土遺物実測図(4)



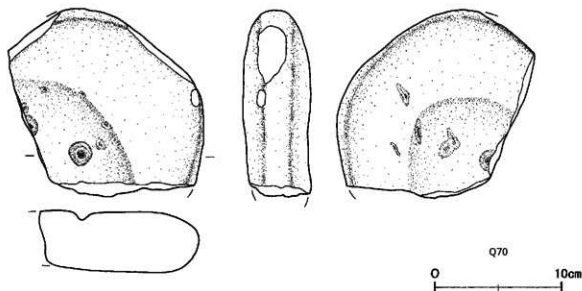
第172図 遺構外出土遺物実測図(5)



第173図 遺構外出土遺物実測図(6)



第174図 遺構外出土遺物実測図(7)



第175図 遺構外出土遺物実測図(8)

遺構外出土遺物観察表(第168~175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
101	縄文土器	深鉢	20.5	(19.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部は斜位の沈線文 胴部は縦位の沈線文と押圧を有する隆帯	Hトレンチ	50% PL20
102	縄文土器	深鉢	-	(14.9)	-	長石・石英	にぶい橙	明赤焼	口縁部に消管文を有する把手が付く L Rの単部縄文	Hトレンチ	5%
103	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	3方に孔が空けられた扇形把手 キザミを有する隆帯文と沈線文	確認図	5%
104	縄文土器	深鉢	-	(9.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	キザミを有する隆帯文 隆帯には結部沈線に沿う	確認図	5%
105	縄文土器	穿孔円筒	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	良好	胴部と口縁部の間に、穿孔された筒状の隆帯を透らす沈線文	Cトレンチ	5%
106	縄文土器	深鉢	-	(1.6)	[10.3]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	高部木葉痕	Hトレンチ	5%
107	縄文土器	ミニチュア	[64]	3.8	[5.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	無文 輪縁痕を残す	Eトレンチ	35%
108	縄文土器	ミニチュア	[30]	2.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	円孔を有する 無文	Jトレンチ	5%
109	縄文土器	器台	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	円孔を有する 無文	Cトレンチ	5%
110	縄文土器	器台	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	円孔を有する 無文	Cトレンチ	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP181	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	内外側異様赤線文 口唇部直下に異様圧痕文	確認図	
TP182	縄文土器	深鉢	石英・繊維	にぶい橙	普通	口唇部直下に連続した刺突文 L Rの単部縄文	Hトレンチ	
TP183	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄	普通	円形刺突文と平行線文	SK49	
TP184	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	平行沈線文	Iトレンチ	
TP185	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部に赤線 異様隆線文	確認図	
TP186	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	結部沈線文 照糸文	Jトレンチ	
TP187	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	三角印刺突文と結線文 口唇部直下、内外面に赤線	確認図	
TP188	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	三角印刺突文と結線文	確認図	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP84	耳栓	(2.2)	2.2	-	(5.8)	長石・雲母	灰褐	無文で凹状にくぼみ、上げ底状を呈する	Dトレンチ	PL24
DP8	土器片縁	4.1	4.1	0.9	17.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄褐	両端にキザミ 両辺部一部研磨 隆帯文	SK20	
DP9	土器片縁	5.4	4.6	1.0	29.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	両端にキザミ 両辺部一部研磨 キザミ目列	SK21	PL24
DP46	土器片縁	4.1	3.5	1.3	23.7	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	両端にキザミ 両辺部研磨 結部沈線文	SK111	PL24
DP85	土器片縁	7.4	6.0	1.1	50.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	両端にキザミ 両辺部一部研磨 L Rの単部縄文	Fトレンチ	
DP86	土器片縁	5.8	5.0	1.4	42.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	両端にキザミ 両辺部入念に研磨 隆帯文を纏り消し L Rの単部縄文	Hトレンチ	PL24

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP87	土器片縁	6.0	5.4	2.3	67.4	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 沈線が沿う隆帯文 L R Lの複線文 口縁部片利用	Gトレンチ	PL24
DP88	土器片縁	6.0	4.0	1.8	39.5	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 沈線 R Lの単線文	Eトレンチ	PL24
DP89	土器片縁	5.4	4.9	1.2	33.8	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 R Lの単線文	確認面	PL24
DP90	土器片縁	5.5	4.4	1.7	34.2	長石・石英・ 長石 雲母	明赤褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 Lの単線文	Gトレンチ	
DP91	土器片縁	5.4	4.7	1.1	27.1	長石・石英・ 長石 雲母	橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 沈線周を磨り消し R Lの単線文	Jトレンチ	PL24
DP92	土器片縁	4.8	3.8	1.3	27.7	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい赤褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 Lの単線文	Fトレンチ	
DP93	土器片縁	5.4	3.4	1.4	25.2	長石・石英・ 長石 雲母	黒褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 沈線周を磨り消し 粗余文	Dトレンチ	
DP94	土器片縁	5.2	3.7	1.1	23.5	長石・石英・ 長石 雲母	橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 黒文	確認面	PL24
DP95	土器片縁	5.7	3.0	1.2	23.4	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 黒文	SK44	
DP96	土器片縁	4.5	4.1	1.2	30.6	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい赤褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 R Lの単線文 縁線文	Gトレンチ	
DP97	土器片縁	4.2	3.3	1.2	19.2	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単線文	Eトレンチ	
DP98	土器片縁	4.3	3.5	1.2	18.8	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 沈線文 R Lの 単線文	Gトレンチ	PL24
DP99	土器片縁	4.1	3.3	0.9	15.6	長石・石英・ 長石 雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 粗余文	Gトレンチ	
DP100	土器片縁	4.2	3.5	0.8	18.0	長石・石英・ 長石 雲母	明赤褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単線文	Gトレンチ	
DP101	土器片縁	4.3	3.6	1.0	18.6	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 沈線文を磨り消し R L Rの複線文	Dトレンチ	PL24
DP102	土器片縁	4.1	4.2	0.9	19.1	長石・雲母	雑灰	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 赤線文	Cトレンチ	
DP103	土器片縁	3.9	3.8	1.0	23.3	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい黄橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 黒文 口縁部片利用	Hトレンチ	
DP104	土器片縁	4.0	4.2	1.1	26.1	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい黄橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 L Rの単線文	Hトレンチ	
DP105	土器片縁	4.7	4.3	1.1	26.0	長石・石英・ 長石 赤色粒子	にぶい赤褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 隆帯文 L Rの単 線文	Hトレンチ	PL24
DP106	土器片縁	4.1	4.1	0.9	18.2	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 R Lの単線文 沈線文	Aトレンチ	
DP107	土器片縁	3.9	4.3	1.4	(24.8)	長石・石英・ 長石 赤色粒子	灰褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 L Rの単線文	Gトレンチ	
DP108	土器片縁	4.0	3.3	1.3	18.8	長石・石英・ 長石 雲母	灰黄褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 R Lの単線文	確認面	
DP109	土器片縁	3.9	3.9	0.9	17.6	長石・石英・ 長石 赤色粒子	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部一部研磨 R Lの単線文	Jトレンチ	
DP110	土器片縁	4.3	3.4	0.9	13.3	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい赤褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 黒文	Gトレンチ	
DP111	土器片縁	4.0	3.6	0.9	12.5	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 黒文	Bトレンチ	
DP112	土器片縁	4.3	3.6	1.1	20.8	長石・石英・ 長石 赤色粒子	黒褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 押圧を有する隆 帯文 沈線文	Fトレンチ	PL24
DP113	土器片縁	4.5	3.5	1.4	19.5	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単線文	Cトレンチ	
DP114	土器片縁	4.3	3.3	1.3	21.1	長石・石英・ 長石 雲母	黒褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 黒文	Dトレンチ	
DP115	土器片縁	4.4	3.2	0.9	14.2	長石・石英・ 長石 雲母	明褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 沈線周を磨り消し R L の単線文	Jトレンチ	PL24
DP116	土器片縁	4.1	3.2	1.0	13.9	長石・石英・ 長石 雲母	橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 黒文	Dトレンチ	
DP117	土器片縁	4.2	3.5	1.2	17.4	長石・石英・ 長石 雲母	明赤褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 L Rの単線文	Jトレンチ	
DP118	土器片縁	4.0	3.5	1.1	18.1	長石・石英・ 長石 雲母	灰褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単線文	確認面	
DP119	土器片縁	4.1	3.6	1.1	17.2	長石・石英・ 長石 雲母	暗赤褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 黒文	Bトレンチ	
DP120	土器片縁	4.0	2.9	1.1	16.8	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単線文	Eトレンチ	
DP121	土器片縁	3.6	3.0	1.4	17.9	長石・石英・ 長石 雲母	暗褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 L Rの単線文	Eトレンチ	
DP122	土器片縁	3.8	3.3	1.1	14.6	長石・石英・ 長石 雲母	橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 器部厚削のため、文様 不明	Hトレンチ	
DP123	土器片縁	4.3	2.8	1.0	12.4	長石・石英・ 長石 雲母	橙	周縁にキザミ 周辺部研磨 沈線文 R Lの単線文	確認面	
DP124	土器片縁	4.0	2.6	1.3	15.1	長石・石英・ 長石 雲母	橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 沈線文	Cトレンチ	
DP125	土器片縁	3.7	2.9	1.0	12.2	長石・石英・ 長石 雲母	橙	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 沈線文 R Lの単 線文	Hトレンチ	
DP126	土器片縁	3.8	3.4	0.9	16.3	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部一部研磨 沈線文と磨り消し L Rの単線文	Gトレンチ	
DP127	土器片縁	3.6	3.2	0.9	13.9	長石・石英・ 長石 雲母	雑灰	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単線文	確認面	
DP128	土器片縁	3.7	3.0	0.9	12.9	長石・雲母・ 長石 赤色粒子	灰褐	周縁にキザミ 周辺部研磨 黒文	Dトレンチ	
DP129	土器片縁	3.8	2.8	0.9	13.3	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい橙	周縁にキザミ 周辺部一部研磨 黒文	Hトレンチ	
DP130	土器片縁	3.9	2.8	1.0	11.7	長石・石英・ 長石 雲母	明赤褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 黒文	Hトレンチ	
DP131	土器片縁	3.4	2.4	1.3	13.8	長石・石英・ 長石 雲母	灰褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 赤線文 口縁部片 利用	確認面	PL24
DP132	土器片縁	3.3	3.4	0.7	9.3	長石・石英・ 長石 雲母	雑灰	周縁にキザミ 周辺部研磨 器部剥落	確認面	
DP133	土器片縁	3.8	2.4	1.2	14.5	長石・石英・ 長石 雲母	にぶい赤褐	周縁にキザミ 周辺部入念に研磨 隆帯文 沈線文	確認面	PL24

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP134	土器片断	3.8	2.9	1.0	12.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Fトレンチ	
DP135	土器片断	4.0	2.6	0.9	12.2	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	確認面	
DP136	土器片断	4.1	2.7	1.0	11.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Jトレンチ	
DP137	土器片断	3.9	2.7	1.0	12.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	Kトレンチ	
DP138	土器片断	3.5	2.7	0.9	9.4	長石・石英	褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文	Cトレンチ	
DP139	土器片断	3.8	2.4	1.3	10.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 赤線文	Jトレンチ	
DP140	土器片断	3.3	2.7	1.1	9.1	長石・石英・赤色粒子	褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 沈線文周を磨り消し 無文	確認面	
DP141	土器片断	3.5	2.1	1.0	7.9	長石・石英	明赤褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Hトレンチ	
DP142	土器片断	3.9	3.4	1.1	18.6	長石・石英・赤色粒子	黒	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 L Rの単部縄文	Fトレンチ	
DP143	土器片断	3.9	3.5	1.0	14.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Oトレンチ	
DP144	土器片断	3.7	3.2	1.3	17.1	長石・石英・赤色粒子	褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 沈線文 R Lの単部縄文	確認面	
DP145	土器片断	3.3	3.5	0.9	11.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	両面にキザミ 周辺部一部研磨 無文	Gトレンチ	
DP146	土器片断	3.1	3.3	0.9	12.5	長石・雲母	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 器面磨耗のため、文様不明	Oトレンチ	
DP147	土器片断	3.9	3.2	1.0	15.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Oトレンチ	
DP148	土器片断	3.7	2.9	1.2	14.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 沈線文	Gトレンチ	
DP149	土器片断	3.5	3.1	0.8	9.4	長石・石英・赤色粒子	褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単部縄文	Cトレンチ	
DP150	土器片断	3.1	3.3	1.0	13.1	長石・石英・赤色粒子	褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Dトレンチ	
DP151	土器片断	3.1	3.3	0.8	10.1	長石・石英・赤色粒子	明褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 キザミ目列	確認面	
DP152	土器片断	3.1	2.9	1.0	10.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 L Rの単部縄文	Gトレンチ	
DP153	土器片断	3.7	2.8	1.2	13.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単部縄文	Dトレンチ	
DP154	土器片断	3.5	3.1	1.0	11.7	長石・石英・赤色粒子	褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 沈線文 R Lの単部縄文	Eトレンチ	
DP155	土器片断	3.3	3.0	1.1	11.6	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 赤線文	Dトレンチ	
DP156	土器片断	3.2	3.2	1.2	12.8	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	確認面	
DP157	土器片断	3.3	3.5	1.4	15.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部一部研磨 沈線文	Eトレンチ	
DP158	土器片断	3.5	3.0	1.2	14.2	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	Bトレンチ	
DP159	土器片断	3.2	2.8	0.8	10.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	Cトレンチ	
DP160	土器片断	3.5	2.7	0.9	10.3	長石・石英・赤色粒子	褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文 口縁部片利用	Eトレンチ	
DP161	土器片断	3.3	3.0	1.1	12.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Kトレンチ	
DP162	土器片断	3.1	3.0	1.0	10.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 赤線文	確認面	
DP163	土器片断	3.0	2.9	1.1	11.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 隆帯文 沈線文	Eトレンチ	
DP164	土器片断	3.2	2.4	0.8	8.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文	Hトレンチ	
DP165	土器片断	3.0	2.8	0.9	9.7	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 キザミ目列	Hトレンチ	
DP166	土器片断	3.5	2.7	1.1	10.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単部縄文	Gトレンチ	
DP167	土器片断	3.1	2.6	1.0	8.1	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	確認面	
DP168	土器片断	2.9	2.5	1.1	9.8	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文	Hトレンチ	PL24
DP169	土器片断	3.0	2.8	0.8	8.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 キザミ目列	Dトレンチ	PL24
DP170	土器片断	3.4	2.6	0.9	7.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部一部研磨 R Lの単部縄文	Jトレンチ	
DP171	土器片断	2.9	2.8	0.9	7.7	長石・石英・赤色粒子	淡黄褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 交互斜突文 口縁部片利用	Gトレンチ	
DP172	土器片断	3.1	2.6	0.8	8.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 赤線文	Hトレンチ	
DP173	土器片断	2.6	2.4	1.1	9.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文	Jトレンチ	
DP174	土器片断	3.0	1.8	0.9	8.7	長石・雲母	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単部縄文	確認面	
DP175	土器片断	2.9	2.5	1.0	8.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 器面剥落 隆帯文	確認面	
DP176	土器片断	2.6	2.7	0.8	8.8	長石・石英・赤色粒子	褐色	両面にキザミ 周辺部一部研磨 R Lの単部縄文	Hトレンチ	
DP177	土器片断	2.9	2.7	0.9	8.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 無文	Eトレンチ	PL24
DP178	土器片断	3.0	2.8	1.2	12.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Kトレンチ	
DP179	土器片断	2.3	2.9	1.1	11.3	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	両面にキザミ 周辺部研磨 無文	Dトレンチ	
DP180	土器片断	2.9	2.4	1.1	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	両面にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単部縄文	Kトレンチ	

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP181	土器片縁	2.7	2.8	1.1	9.0	長石・石英・ 黄母	赤褐色	両端にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単部縄文	Hトレンチ	
DP182	土器片縁	2.9	2.7	0.9	8.1	長石・石英・ 黄母	褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 無文	Gトレンチ	
DP183	土器片縁	2.6	2.4	0.9	7.4	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	両端にキザミ 周辺部入念に研磨 R Lの単部縄文	Dトレンチ	
DP184	土器片縁	2.7	2.4	1.1	8.0	長石・石英・ 黄母	明赤褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 R Lの単部縄文	Dトレンチ	
DP185	土器片縁	2.7	2.2	1.0	7.7	長石・石英・ 黄母	明赤褐色	両端にキザミ 周辺部入念に研磨 器底摩耗のため、 文様不明	確認箇所	
DP186	土器片縁	2.7	2.4	0.7	6.7	長石・石英・ 黄母	赤褐色	両端にキザミ 周辺部入念に研磨 器底摩耗のため、 文様不明	Hトレンチ	
DP187	土器片縁	2.6	2.4	0.8	6.1	長石・石英・ 黄母	明赤褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 無文	Eトレンチ	
DP188	土器片縁	2.7	2.2	0.8	5.3	長石・石英・ 黄母・赤色粒子	にぶい褐色	両端にキザミ 周辺部入念に研磨 無文	Dトレンチ	
DP189	土器片縁	2.4	2.3	1.0	6.1	長石・石英・ 黄母・赤色粒子	褐色	両端にキザミ 周辺部研磨 無文	Hトレンチ	
DP190	土器片内面	3.2	3.1	0.8	9.3	長石・石英・ 黄母・赤色粒子	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	確認箇所	
DP191	土器片内面	4.9	4.2	1.2	27.2	長石・石英・ 黄母	褐色	周辺部研磨 照永文	Jトレンチ	
DP192	土器片内面	4.0	4.0	1.0	20.2	長石・石英・ 黄母	浅黄褐色	周辺部研磨 R Lの単部縄文	Hトレンチ	
DP193	土器片内面	4.2	4.0	1.0	19.5	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 器底摩耗のため、文様不明	Oトレンチ	
DP194	土器片内面	4.0	3.7	1.1	20.9	長石・黄母・ 赤色粒子	にぶい褐色	周辺部研磨 器底摩耗のため、文様不明	Hトレンチ	
DP195	土器片内面	3.5	4.1	1.1	21.7	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 沈線文 R Lの単部縄文	Gトレンチ	PL24
DP196	土器片内面	3.6	3.5	0.8	12.1	長石・石英・ 黄母	灰褐色	周辺部研磨 無文	Kトレンチ	
DP197	土器片内面	3.7	3.6	1.0	14.1	長石・石英・ 黄母	褐色	周辺部研磨 無文	確認箇所	
DP198	土器片内面	3.7	3.5	1.3	19.4	長石・石英・ 黄母	褐色	周辺部研磨 照永文	Hトレンチ	PL24
DP199	土器片内面	3.3	3.5	0.8	10.3	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 沈線文を磨り消し R Lの単部縄文	Hトレンチ	
DP200	土器片内面	3.2	3.6	1.1	12.8	長石・石英・ 黄母	黄褐色	周辺部研磨 無文	確認箇所	
DP201	土器片内面	3.6	3.5	1.1	11.3	長石・石英・ 黄母	黒褐色	周辺部研磨 隆部等文	Dトレンチ	
DP202	土器片内面	3.3	3.4	1.1	14.2	長石・石英・ 黄母	明赤褐色	周辺部研磨 R Lの単部縄文	Fトレンチ	
DP203	土器片内面	3.2	3.1	0.9	11.3	長石・石英・ 黄母・赤色粒子	褐色	周辺部研磨 R Lの単部縄文	Hトレンチ	PL24
DP204	土器片内面	3.3	2.8	1.0	10.3	長石・石英・ 黄母	明赤褐色	周辺部研磨 無文	Hトレンチ	
DP205	土器片内面	3.1	3.1	1.0	10.4	長石・石英・ 黄母・赤色粒子	にぶい褐色	周辺部研磨 L Rの単部縄文	Dトレンチ	
DP206	土器片内面	3.1	3.2	0.8	9.2	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	Bトレンチ	
DP207	土器片内面	3.1	2.9	0.9	7.4	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	Aトレンチ	
DP208	土器片内面	3.1	2.8	1.2	10.6	長石・石英・ 黄母	暗褐色	周辺部研磨 L Rの単部縄文	Cトレンチ	
DP209	土器片内面	2.8	2.8	0.9	7.7	長石・石英・ 黄母	褐色	周辺部研磨 無文	Hトレンチ	
DP210	土器片内面	3.0	2.6	1.0	7.4	長石・石英・ 黄母	明褐色	周辺部研磨 無文	Jトレンチ	
DP211	土器片内面	3.0	2.7	1.2	10.8	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	Cトレンチ	
DP212	土器片内面	2.8	2.7	1.0	8.9	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 L Rの単部縄文	Hトレンチ	
DP213	土器片内面	3.0	2.7	1.1	10.8	長石・黄母・ 赤色粒子	にぶい褐色	周辺部研磨 胴代用 底部片利用	Hトレンチ	
DP214	土器片内面	2.8	2.7	1.0	9.1	長石・黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	Jトレンチ	
DP215	土器片内面	2.6	2.6	1.2	8.5	長石・石英	にぶい黄褐色	周辺部研磨 R Lの単部縄文	Gトレンチ	
DP216	土器片内面	2.5	2.5	1.0	6.6	長石・石英・ 黄母	褐色	周辺部研磨 無文	Hトレンチ	
DP217	土器片内面	2.7	2.5	1.1	8.5	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	Hトレンチ	
DP218	土器片内面	2.8	2.6	1.1	10.1	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 沈線文を磨り消し 照永文	Hトレンチ	
DP219	土器片内面	3.0	2.4	0.8	7.6	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	Gトレンチ	
DP220	土器片内面	3.0	2.8	1.0	8.7	長石・黄母	にぶい赤褐色	周辺部研磨 沈線文を磨り消し L Rの単部縄文	Oトレンチ	
DP221	土器片内面	2.9	2.6	1.1	9.1	長石・黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	確認箇所	
DP222	土器片内面	2.8	2.4	0.9	8.3	長石・石英・ 黄母	にぶい褐色	周辺部研磨 器底摩耗のため、文様不明	Gトレンチ	
DP223	土器片内面	2.5	2.7	0.9	7.1	長石・石英	灰褐色	周辺部研磨 無文	Dトレンチ	
DP224	土器片内面	2.7	2.8	1.0	8.8	長石・石英・ 黄母	褐色	周辺部研磨 無文	確認箇所	PL24
DP225	土器片内面	2.4	2.5	1.1	8.4	長石・石英	にぶい褐色	周辺部研磨 無文	確認箇所	
DP226	土器片内面	2.4	2.4	1.0	6.2	長石・石英	にぶい褐色	周辺部研磨 沈線文を磨り消し R Lの単部縄文	Bトレンチ	PL24
DP227	土器片内面	2.5	2.5	1.1	7.8	長石・石英	褐色	周辺部研磨 無文	Gトレンチ	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP228	土器片内蓋	2.7	2.4	0.7	5.0	長石・石英	にぶい黄緑	周辺部研磨 無文	Oトレンチ	
DP229	土器片内蓋	2.4	2.4	0.9	6.3	長石・石英・炭屑・赤色粘土	にぶい黄緑	周辺部研磨 無文	確認面	PL24
DP230	土器片内蓋	2.3	2.2	0.8	4.8	長石・石英・炭屑・赤色粘土	にぶい黄緑	周辺部研磨 無文	Fトレンチ	
DP231	土器片内蓋	2.3	2.2	0.8	4.7	長石・石英	灰褐	周辺部研磨 R Lの単部縄文	Hトレンチ	
DP232	土器片内蓋	2.3	2.2	0.9	5.1	長石・石英	にぶい黄緑	周辺部研磨 無文	Jトレンチ	
DP233	土器片内蓋	2.1	2.1	0.9	5.2	長石・石英・炭屑	灰黄褐	周辺部研磨 無文	Eトレンチ	PL24
DP234	土器片内蓋	2.1	2.2	0.8	4.8	長石・石英	にぶい黄緑	周辺部研磨 無文	Hトレンチ	
DP235	土器片内蓋	2.0	2.1	1.0	4.8	長石・石英・炭屑	にぶい黄緑	周辺部研磨 R Lの単部縄文	Eトレンチ	
DP236	土器片内蓋	1.6	1.6	0.8	2.5	長石・石英	黄灰	周辺部研磨 赤縄文	Eトレンチ	PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q53	尖頭器	4.5	2.5	0.6	8.3	安山岩	両面調整 側縁に丁寧な押圧刻線調整	Eトレンチ	PL28
Q54	石槌	3.4	5.3	5.4	109.3	瑪瑙	打面は転移して割傷	Bトレンチ	
Q55	石鏃	3.2	1.6	0.5	2.1	チャート	両面押圧刻線 凹基底茎部	Gトレンチ	PL28
Q56	石鏃	2.8	2.2	0.3	1.4	頁岩	両面押圧刻線 凹基底茎部	Eトレンチ	PL28
Q57	石鏃	2.6	1.8	0.4	1.3	チャート	両面押圧刻線 凹基底茎部	Eトレンチ	PL28
Q58	石鏃	2.2	2.0	0.5	1.3	黒曜石	両面押圧刻線 凹基底茎部	Hトレンチ	PL28
Q59	石鏃	2.2	1.5	0.4	1.0	瑪瑙	両面押圧刻線 凹基底茎部	Hトレンチ	PL28
Q60	打製石斧	12.1	5.5	2.3	164.8	ホルンフェルス	塊型 両面調整 表面及び裏面に原表面を残す	Hトレンチ	PL27
Q61	打製石斧	9.3	5.4	1.7	97.3	ホルンフェルス	塊型 両面調整 表面に原表面を残す	Hトレンチ	PL27
Q62	打製石斧	11.2	5.3	1.6	112.6	安山岩	分銅型 両面調整 表面及び裏面に原表面を残す	Gトレンチ	PL27
Q63	打製石斧	10.8	7.8	3.1	200.5	安山岩	分銅型 両面調整	Hトレンチ	PL27
Q64	打製石斧	10.7	6.2	1.8	147.7	緑泥片岩	分銅型 両面調整 表面に原表面を残す	確認面	PL27
Q65	打製石斧	7.6	3.6	1.5	52.2	頁岩	短棒型 両面調整 表面及び裏面に原表面を残す	Cトレンチ	
Q66	打製石斧	9.4	6.0	2.7	151.2	ホルンフェルス	分銅型 両面調整 表面及び裏面に原表面を残す	Cトレンチ	PL27
Q67	磨製石斧	10.1	4.8	1.3	96.4	粘板岩	刃部及び両側縁に割線を残す 全面を研磨	Hトレンチ	PL28
Q68	磨製石斧	8.3	4.9	2.3	144.4	輝緑岩	全面を研磨 刃部欠損後再加工	Gトレンチ	PL28
Q69	磨製石斧	6.1	2.2	0.7	13.5	緑色凝灰岩	全面を研磨	Hトレンチ	PL28
Q70	石皿	(15.0)	(15.6)	5.5	(1793.3)	砂岩	両面とも機能面が凹状にわずかに凹む 凹石兼用	確認面	
Q71	磨石	5.2	5.0	2.9	102.4	石英	表面及び側縁に使用痕 凹石兼用	Hトレンチ	
Q72	磨石	13.0	8.5	4.0	627.3	安山岩	下縁と側縁に削打痕 凹石兼用	Hトレンチ	PL25
Q73	石鏃	2.5	2.2	0.5	1.9	チャート	両面調整 側縁に丁寧な押圧刻線調整	Bトレンチ	PL28
Q74	凹石	23.5	14.5	7.0	2402.8	花崗岩	表面1孔 裏面10孔 石皿を転用	Hトレンチ	PL25
Q75	砥石	5.0	4.8	3.2	143.3	輝緑岩	両面に使用痕 磨製石斧を転用	確認面	PL25
Q76	磨石	4.6	2.6	0.6	11.4	粘板岩	刃状耳部転用 破断面を研磨	Cトレンチ	PL28

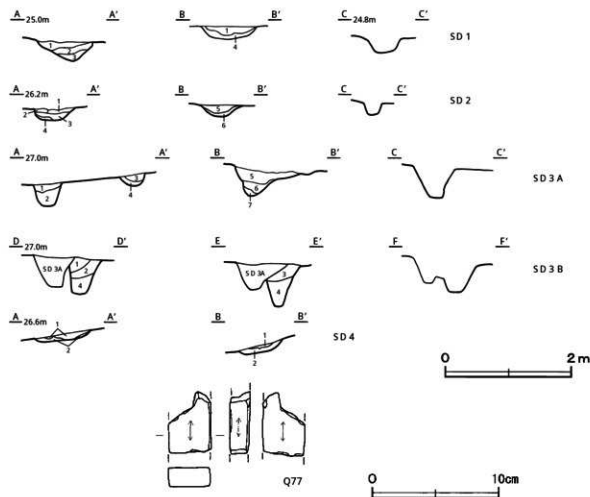
2 その他の遺構と遺物

時期が明確でない溝跡5条、井戸跡2基、土坑29基、ビット25ヶ所が確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 溝跡 (第176図・付図)

今回の調査で、時期不明の溝跡5条が確認されている。いずれも流れ込みと考えられる縄文土器片が出土しているが、他の時代の土器は確認されていない。土層断面図と土層解説については遺構順に掲載し、

規模等については一覧表で、平面図については遺構全体図（付図）で掲載する。また土器以外の遺物で、特徴的な遺物については、遺物実測図と観察表を掲載する。



第176図 溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡土層解説

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 黒色 ローム粒子・砂粒微量 | 3 黒色 ロームブロック少量、砂粒微量 |
| 2 黒色 ロームブロック・砂粒微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |

第2号溝跡土層解説

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・砂粒微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量 | 5 黒色 ローム粒子・砂粒微量 |
| 3 黒色 ローム粒子微量 | 6 黒色 ロームブロック・砂粒微量 |

第3A号溝跡土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・砂粒微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・砂粒少量 | 6 黒褐色 砂粒中量、ローム粒子少量 |
| 3 黒色 ロームブロック・砂粒微量 | 7 暗褐色 砂粒少量、ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・砂粒微量 | |

第3B号溝跡土層解説

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・砂粒微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 砂粒少量、ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・砂粒微量 |

第4号溝跡土層解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 2 褐色 ロームブロック中量 |
|-----------------|----------------|

第3A溝跡出土遺物観察表(第176図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q77	磁石	(50)	3.3	1.6	(38.4)	凝灰岩	4面を使用	層土中	

表5 時期不明溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模(m)				壁面	底面	層土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ					
1	R16e-R16f	N-1°-W	U字形 逆台形	(17.38)	0.46-0.86	0.15-0.40	0.18-0.30	外傾	流しU字	自然	縄文土器	
2	R15d-R15f	N-30°-E	逆台形	(23.50)	0.30-0.48	0.13-0.25	0.15-0.25	外傾	平垣	自然	縄文土器	
3A	R15f-R15g	N-90°-E	U字形	(24.50)	0.23-1.08	0.12-0.35	0.20-0.60	外傾	流しU字	自然 入角	縄文土器、磁石	5D30,5K127→本跡
3B	R15g-R15h	N-90°-E	逆台形	(16.60)	0.40-0.67	0.10-0.25	0.50-0.65	外傾	平垣	自然	縄文土器	本跡→5D3A
4	R18h-Q18h	N-35°-E	逆台形	(12.10)	0.62-0.95	0.30-0.56	0.10-0.12	傾斜	傾斜	自然	縄文土器	

(2) 井戸跡

第1号井戸跡(第177図)

位置 調査区東部のQ19b1区, 標高21mほどの谷部に位置している。

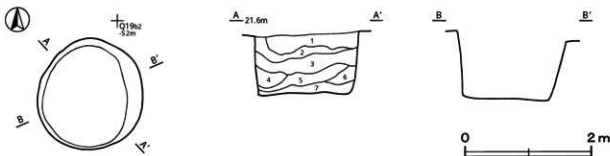
規模と形状 径1.7mほどの円形である。確認面から円筒状に1.5mほど掘り下げられている。

覆土 7層に分層できる。細砂等の含有物を多く含んでいるが、壁が崩落して堆積したものと推測され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | 細砂・砂粒中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂粒少量, 細砂微量 | 5 暗褐色 | 砂粒中量, 細砂少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 鹿沼バミス・細砂微量 | 6 オリーブ褐色 | 細砂多量 |
| | | 7 暗オリーブ褐色 | 細砂多量 |

所見 谷部の遺構確認面は、現地表面から2mほど下がった位置にあり、確認面より上位から掘り込まれていた可能性がある。時期は、出土土器がないため不明である。



第177図 第1号井戸跡実測図

第2号井戸跡(第178図)

位置 調査区中央部のR17f3区, 標高24mほどの谷部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.30m、短径2.17mの円形である。2.6mほど掘り下げた時点で、壁が崩落したため、下部の調査を断念した。断面形は、壁の立ち上がりから漏斗状と考えられる。

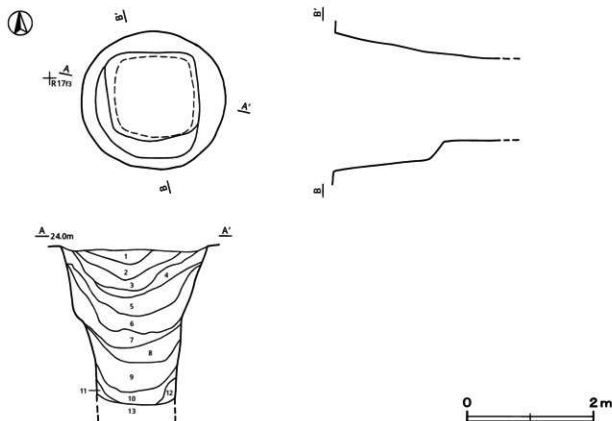
覆土 13層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 黒色粒子中量、砂粒少量、細礫微量 | 8 黒褐色 黒色粒子中量、砂粒少量、粘土粒子微量 |
| 2 黒色 黒色粒子・砂粒中量、細礫微量 | 9 黒褐色 粘土粒子・黒色粒子中量、砂粒少量 |
| 3 黒色 砂粒中量、黒色粒子少量、細礫微量 | 10 黒褐色 砂粒中量、黒色粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 4 黒色 砂粒中量、黒色粒子少量 | 11 暗褐色 砂粒中量、粘土ブロック微量 |
| 5 黒色 黒色粒子・砂粒中量微量 | 12 暗褐色 砂粒中量、黒色粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 6 黒褐色 砂粒中量、黒色粒子少量 | 13 暗褐色 砂粒多量、黒色粒子・細礫少量、粘土ブロック微量 |
| 7 黒褐色 黒色粒子・砂粒少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片152点（口縁部24、胴部118点、底部10点）、石器2点（磨石、敲石）が出土している。いずれも流れ込みと考えられる。

所見 時期は、本跡に伴う遺物がなため不明である。



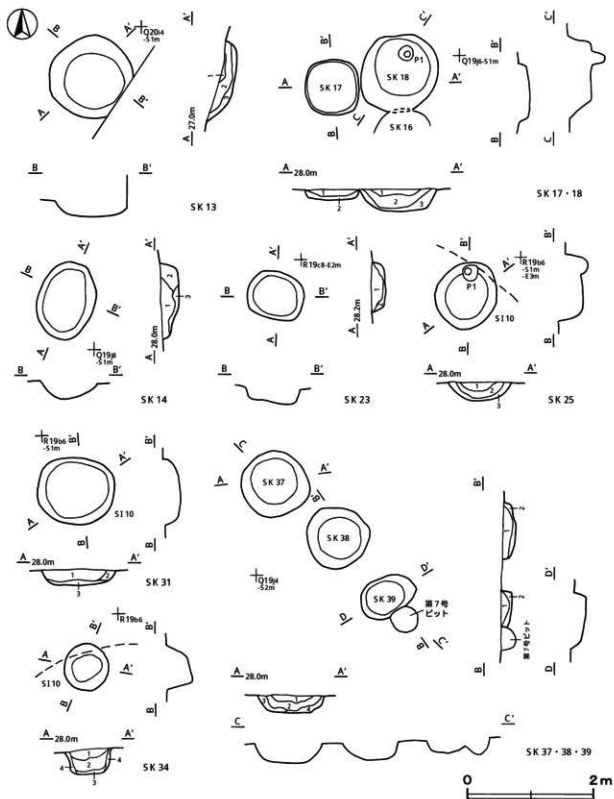
第178図 第2号井戸跡実測図

表6 時期不明井戸跡一覧表

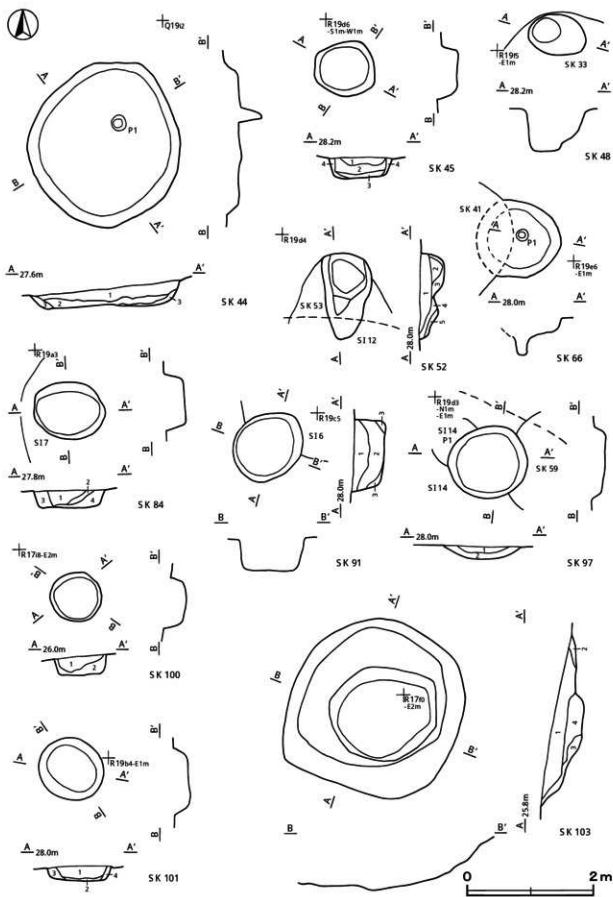
番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 層位関係 (古→新)
				長径×短径	深さ					
1	Q19b1	円形	-	1.75×1.65	1.5	垂直	平坦	自然	-	
2	R17f3	円形	-	2.30×2.17	(2.6)	漏斗状	不明	自然	縄文土器・磨石・敲石	第1号遺物包倉層→本跡

(3) 土坑 (第179~181図)

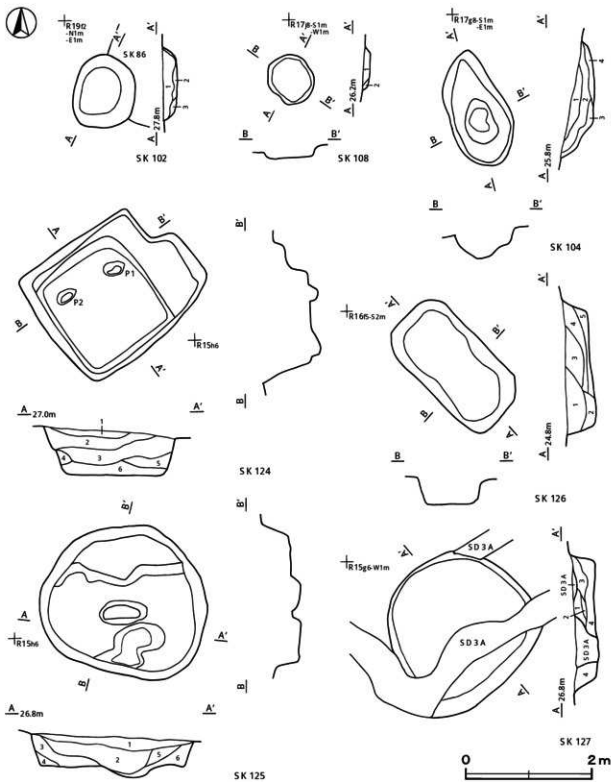
今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑29基が確認されている。これらの土坑については、規模・形状等について一覧表と実測図を掲載する。



第179図 土坑実測図(1)



第180图 土坑实测图(2)



第181図 土坑実測図(3)

第13号土坑土層解説

- 1 黒色 炭土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第14号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第17号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

第18号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック微量

第23号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック中量

第25号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ロームブロック中量

第31号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック微量

第34号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 に近い黄褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

3 褐色 ロームブロック中量

4 褐色 ローム粒子中量

第37号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量

4 に近い黄褐色 ローム粒子中量

第38号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 に近い黄褐色 ローム粒子少量

第39号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 に近い黄褐色 ローム粒子少量

第44号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック中量

第45号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック中量

第52号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック微量

4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

5 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

第64号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック中量

第91号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック少量

第97号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

第100号土坑土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・細礫・砂粒微量

第101号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック微量

4 暗褐色 ロームブロック少量

第102号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

3 に近い黄褐色 ロームブロック中量

第103号土坑土層解説

1 黒褐色 砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック微量

2 暗褐色 砂粒中量、炭分微量

3 黒褐色 砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第104号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・黄土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック微量

- 3 暗褐色 砂粒中量、ロームブロック微量
4 黒褐色 砂粒中量、ローム粒子微量

第108号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・黄土粒子微量

- 2 灰黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第124号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂粒中量、ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・砂粒微量
3 黒褐色 砂粒中量、ロームブロック少量

- 4 黒褐色 ローム粒子少量、砂粒微量
5 黒褐色 砂粒少量、ロームブロック微量
6 黒褐色 砂粒少量、ローム粒子微量

第125号土坑土層解説

- 1 黒褐色 砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色 砂粒中量、ロームブロック微量
3 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子微量

- 4 暗褐色 砂粒少量
5 暗褐色 砂粒少量、ローム粒子微量
6 黒褐色 砂粒少量、ローム粒子微量

第126号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・黒色ブロック・砂粒微量
2 黒色 黒色粒子・砂粒中量、ロームブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック・黒色ブロック・砂粒微量

- 4 黒褐色 黒色粒子中量、ロームブロック微量
5 暗褐色 ロームブロック微量

第127号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 砂粒少量、ローム粒子微量

- 3 灰黄褐色 砂粒中量、ローム粒子微量
4 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子微量

表7 時期不明土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模		壁面	底面	ピット	掘土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径×短径(m)	深さ (m)						
13	Q203	円形	-	1.30×(1.20)	20	緩斜	傾斜	-	自然	-	
14	Q197	楕円形	N-17-E	1.22×0.90	28	外傾	曲状	-	人為	縄文土器	
17	Q195	円形	N-4'-E	0.88×0.86	16	外傾	平坦	-	自然	縄文土器	
18	Q195	楕円形	N-36'-E	1.32×1.18	38	外傾	平坦	1	自然	縄文土器	SK16との新旧関係不明
23	R19c8	楕円形	N-72'-W	0.90×0.74	25	緩斜	平坦	-	自然	-	
25	R19b6	楕円形	N-15'-E	1.10×0.97	38	直立	曲状	1	自然	縄文土器	S110との新旧関係不明
31	R19b6	楕円形	N-90'-W	1.22×1.05	22	緩斜	平坦	-	自然	縄文土器	S110との新旧関係不明
34	R19b5	円形	-	0.75×0.70	40	直立	傾斜	-	自然	縄文土器	S110との新旧関係不明
37	Q194	円形	-	1.04×1.02	30	直立	曲状	-	自然	縄文土器	
38	Q194	円形	-	1.00×0.96	28	外傾	曲状	-	自然	-	
39	Q194	楕円形	N-64'-E	0.90×(0.57)	20	直立	平坦	-	自然	-	本跡→P7
44	Q191	楕円形	N-15'-E	2.69×2.34	25	外傾	平坦	1	自然	縄文土器・土師器 土鏡片鏃・磨製石斧	
45	R19d5	楕円形	N-85'-W	0.97×0.87	32	外傾	平坦	-	自然	縄文土器	
48	R19e5	楕円形	N-71'-W	0.92×0.64	66	外傾	平坦	-	-	縄文土器	SK33→本跡
52	R19d4	楕円形	N-4'-W	1.37×0.73	40	直立	凹凸	-	人為	縄文土器	SK53→本跡 S112との新旧関係不明
66	R19b6	[円形]	-	1.22×(0.74)	45	外傾	平坦	1	-	縄文土器・磨製石斧	SK41との新旧関係不明
84	R19a3	楕円形	N-86'-E	1.16×0.91	30	外傾	平坦	-	人為	-	S17→本跡
91	R19c4	楕円形	N-36'-E	1.22×1.00	51	外傾 直立	平坦	-	自然	縄文土器	S16→本跡
97	R19d3	円形	-	1.14×1.00	20	外傾	平坦	-	自然	縄文土器	S114, SK50→本跡
100	R17b7	円形	-	0.84×0.80	32	外傾	平坦	-	人為	-	
101	R19b4	楕円形	N-98'-W	1.06×0.93	26	外傾	平坦	-	自然	縄文土器	
102	R19f1	楕円形	N-13'-E	1.17×0.97	22	外傾	平坦	-	人為	縄文土器	SK86→本跡
103	R17b0	円形	-	2.74×2.70	41	緩斜	段状	-	自然	縄文土器・磨石	

番号	位置	平面形	長径方向	規模		壁面	底面	ビット	覆土	主な出土遺物	遺物 管理形法 (古→新)
				長径×短径(m)	深さ (cm)						
104	R 17g8	楕円形	N-15°-W	1.89×0.94	25	外傾	平坦	-	自然	縄文土器・磨製石斧	
108	R 17j7	楕円形	N-34°-W	0.80×0.68	16	外傾	平坦	-	人為	縄文土器	
124	R 15k5	不整形方形	N-54°-E	2.58×2.10	72	外傾	有段	2	人為	-	
125	R 15g6	円形	-	2.65×2.48	62	外傾	凹凸	-	人為	縄文土器	
126	R 16f5	楕円形	N-45°-W	2.18×1.14	40	外傾	平坦	-	人為	-	
127	R 15g6	楕円形	N-36°-E	[2.40]×2.28	34	外傾	平坦	-	人為	-	本跡→SD 3 A

(4) ビット (付図)

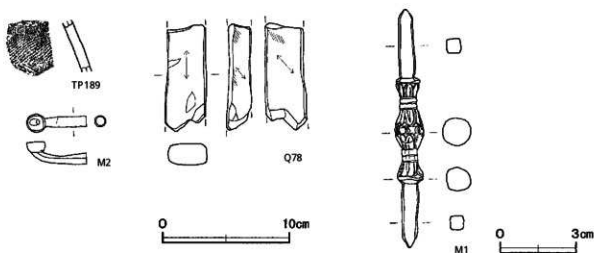
今回の調査で、時期不明のビット25基が確認されている。用途としては柱穴等が考えられるが、いずれも建物跡を想定できるような配置ではなかった。これらのビットについては、平面図を遺構全体図(付図)で掲載し、計測表で記載する。

表8 ビット計測表

番号	位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
1	Q 19k6	65	44	30	21	R 18dD	42	39	50	40	R 19c5	34	34	30
2	Q 19j6	58	53	29	22	R 18dD	40	35	33	44	R 18e9	28	26	40
3	Q 19j6	44	31	24	24	R 18e9	58	55	43	45	R 18d9	48	43	40
4	Q 19j6	56	46	18	25	R 18eD	30	28	42	47	R 18e8	40	35	48
5	R 19e5	49	28	46	26	R 19e1	53	49	130	51	R 18e8	33	27	62
7	Q 19j4	44	40	24	33	R 19e4	79	58	50	52	R 18f7	39	35	50
9	R 19e5	60	45	104	37	R 19c6	37	35	21	54	R 19e1	61	60	161
15	R 19e5	37	30	39	38	R 19c6	42	42	25	-	-	-	-	-
20	R 18a0	32	30	22	39	R 19c6	50	43	50	-	-	-	-	-

(5) 遺構外出土遺物 (第182図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、ここでは縄文時代以外の遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第182図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第182図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP180	弥生土器	甕	長石・石炭・雲母	に濃い橙	普通	附加赤縄文 羽状構成	確認	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q78	磁石	(85)	34	2.1	(81.5)	凝灰岩	4面を使用	確認	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	埴輪片	94	1.1	1.1	30.7	銅	鬼目埴輪片 跡の部分は新羅四角		PL28
M2	埴輪	47	矢野径 1.4	小口径 0.9	4.7	銅	扉首のみ	Nトレンチ	

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、石川西遺跡は縄文時代中期の集落跡であることが明らかになり、当該期の遺構として、竪穴住居跡15軒、土坑87基、ピット6か所、竪跡1基、遺物包含層1か所が確認されている。ここでは確認された遺構と遺物について概観しながら、出土土器と集落の変遷、住居形態の変遷について、若干の考察を加えることでまとめたい。

2 出土土器と集落の変遷（第183・184図）

集落は中期中葉から後葉にかけて営まれており、出土土器から大きく6期に分けることができる。ここでは、各時期ごとの土器様相を確認し、竪穴住居跡と付随する遺構群を時期ごとに細分して、集落の変遷について概観する。取り上げる遺構は、年代幅があるものや時期が明確でないものについては遺構分布図（第183・184図）より除外した。ただし、遺構の重複が著しく、古い遺構ほど新しい遺構に掘り込まれて残存していない可能性があるが、この点は考慮にされていない。なお、縄文土器の編年については主に『日本土器辞典』に依拠し、時間軸については中期中葉が阿玉台式、中期後葉は加曾利E式の編年を基準とした。

I期 中期中葉 阿玉台Ⅱ式期

土器は深鉢と浅鉢であり、複列の結節沈線文が沿う隆帯によって文様が描出されている。隆帯はキザミを有するものが多くなり、断面形は三角形である。器面にはキザミ目列が巡るものがある。第54号土坑出土土器を指標とし、第16号住居跡及び第61・98・114号土坑が本時期に属し、当集落の成立期にあたる。調査区中央部に第16号住居跡が、調査区東部には貯蔵施設と考えられるフラスコ状土坑の第61・98号土坑が位置している。集落の限られた範囲の調査であるが、集落内では居住域と貯蔵域が分けられていた可能性がある。

II期 中期中葉 阿玉台Ⅲ式期

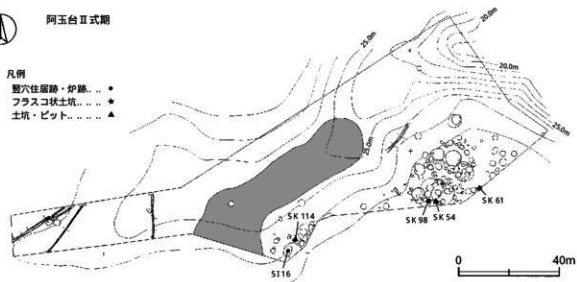
土器は深鉢が主体であり、幅広の結節沈線文が沿う隆帯によって文様が描出されている。隆帯も幅広で厚みを持つようになり、地文に縄文が施文されるものが増える。第12・68号土坑が本時期に属する。2基の土坑はいずれも掘り込みが浅く、壁は外傾又は緩やかに立ち上がり、フラスコ状を呈するものではない。ただし、第47・59号土坑は出土土器の多くが細片で、時期が細分できない阿玉台式期のフラスコ状土坑であり、



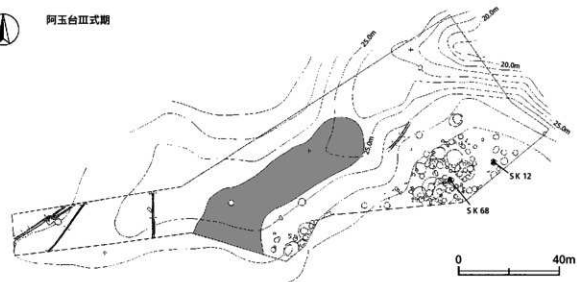
阿玉台Ⅱ式期

凡例

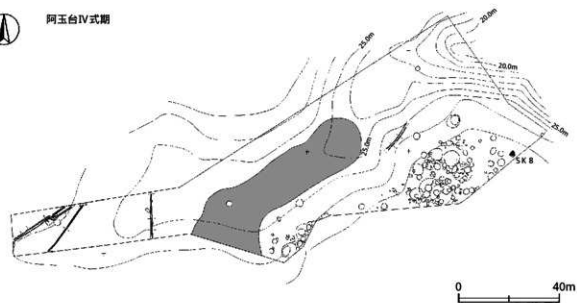
- 竪穴住居跡・炉跡... *
- フラスコ状土坑... *
- 土坑・ピット... ▲



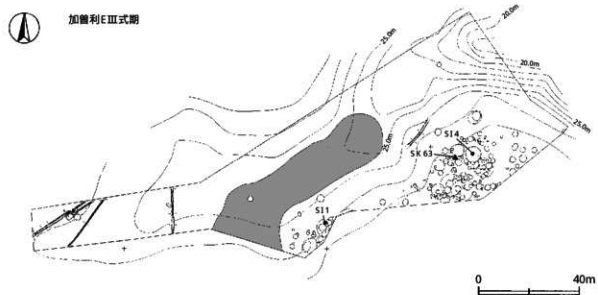
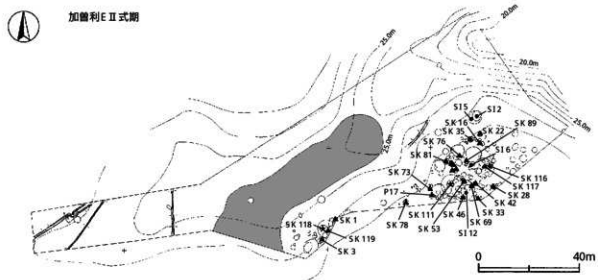
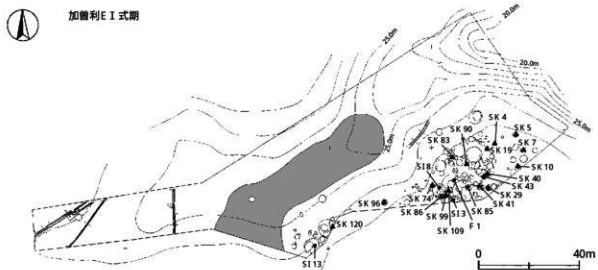
阿玉台Ⅲ式期



阿玉台Ⅳ式期



第183図 縄文時代遺構変遷図(1)



第184圖 繩文時代遺構變遷圖(2)

本時期に属する可能性がある。

Ⅲ期 中期中葉 阿玉台Ⅳ式期

土器は深鉢が主体であり、器面全体に縄文が施文されるものが多くなり、隆帯に沿って沈線文が施される。第8号土坑が本時期に属する。阿玉台Ⅲ式期と同様に、確実に本時期に属すると位置づけられるフラスコ状土坑はない。また、調査区東部に位置する第9・11号住居跡は、出土土器の多くが細片で時間幅もあることから時期を細分できなかったが、阿玉台式期後半の住居跡である。阿玉台式期後半になると、調査区東部の台地上は集落内の居住域として土地利用されていることがうかがえる。

Ⅳ期 中期後葉 加曾利EⅠ式期

土器は深鉢と浅鉢が主体であり、他に台付土器が出土している。器形はキャリバー形を呈し、沈線に沿う隆帯で、口縁部に渦巻文や区画文を描出するようになる。胴部は2条又は3条の沈線による懸垂文が施されるようになるが、磨消懸垂文は成立していない。第8・13号住居跡及び第29号土坑出土土器を指標とし、第3号住居跡及び第41・43・85・99号土坑等が本時期に属する。第29号土坑から出土した36の深鉢は、4単位の波状口縁で器面全体に縄文が施文され、隆帯状にキザミを有し、Y字状の隆帯文を波頂部から垂下させるなど、阿玉台Ⅳ式期の特徴を有する土器であり、本時期の土器に相伴している。また、壁や床、ピット等の付随施設が明確でなく、印跡1として記載した土器埋設が、埋設土器は本時期の土器であり、本来は本時期の住居跡の施設であった可能性がある。本時期は、遺構数が急増し、フラスコ状土坑の群在化が認められる。ただし前述したように、当遺跡では阿玉台Ⅱ式期のフラスコ状土坑が確認されており、集落の限られた範囲の調査ということを考慮すれば、フラスコ状土坑の群在化はすでに始まっていた可能性がある。なお、本時期のフラスコ状土坑は調査区東部の台地上に集中しており、それぞれの土坑が隣接して構築されている。このように同時期のフラスコ状土坑が、局所的な集中地区を形成することは、同時に使用されていた可能性を示唆するものである。こうした地区を形成することは、海老原郁雄氏が栃木県梨木平遺跡の調査から、集落における食糧の集中管理を指摘していることに一致する²⁾。また、フラスコ状土坑群と2軒の住居跡は同一区域に位置し、居住域に貯蔵域が付随している状況が認められる。

Ⅴ期 中期後葉 加曾利EⅡ式期

土器は深鉢と浅鉢が主体であり、他に鉢・有孔罎付土器が出土している。器形はキャリバー形を呈するが、口縁部の湾曲が弱くなり、胴部に磨消懸垂文が成立する。第2・5号住居跡出土土器を指標とし、第6・12号住居跡及び第111・116・118号土坑等が本時期に属する。本時期の土器に、第2号住居跡からは曾利式土器が第78・81号土坑から連弧文土器が伴出している。遺構数はさらに増加し、堅穴住居跡は4軒が確認されており、本時期は当遺跡の主体となる時期と考えられる。第6号住居跡とフラスコ状土坑の第111号土坑は、土器片の遺構間接合が確認されている。同様に前述した第111号土坑とフラスコ状土坑の第116号土坑でも土器片の遺構間接合が確認されており、堅穴住居跡とそれぞれのフラスコ状土坑が同時期に機能していた可能性がある。また、第2・5号住居跡は調査区東部の台地縁辺部に位置しており、集落の拡大傾向がうかがえる。

Ⅵ期 中期後葉 加曾利EⅢ式期

土器は深鉢が主体である。口縁部と胴部の区画が不明瞭となり、胴部の磨消懸垂文が幅広になる。磨消文は逆U字状を呈し、上端で連結するものが多くなる。第1号住居跡出土土器を指標とし、第4号住居跡及び第63号土坑が本時期に属する。本時期の土器に、第1号住居跡から曾利式土器が伴出している。遺構数は急激に減少し、以降の活動の痕跡は途絶える。

3 住居形態の変遷（第185図・186図）

今回の調査で確認された竪穴住居跡は15軒である。ここでは先に区分した各時期の住居跡について、特に炉の形態に主眼を置き、規模や形状、支柱穴の配置などから、当遺跡における住居構造の変遷をたどっていきたい。

I期 中期中葉 阿玉台Ⅱ式期

本時期に属する住居跡は、第6号住居跡である。斜面部に構築されているため、西側の壁は削平されているが、残存する壁から平面形は楕円形と推測できる。炉は持たず、支柱穴は明確でない。床は特に硬化した部分は認められなかったが、これは当遺跡で確認された住居跡全般に言えることである。床が全体的に備わっている住居跡も一部検出されたが、顕著な硬化面は確認できなかった。

Ⅱ・Ⅲ期 中期中葉 阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期

本時期に属する住居跡は、第9・11号住居跡である。平面形は隅丸の方形又は長方形で、前時期と同様に炉は持たない。第11号住居跡は、壁溝を有し土層断面から高い壁を持っていたことが確認されている。また、本住居跡は、東西の壁際に支柱穴と考えられるピットが2か所確認されている。重複が著しく、調査区域外へ伸びているため全容は不明であるが、鈴木美治氏が分類した阿玉台式期の住居形態の中で、平面形は方形を基調とし、長軸方向に支柱穴が配置される一群³⁾に類似する。当遺跡における阿玉台式期の住居跡は、炉を持たないことや規模の点では共通するが、平面形や壁溝の有無、支柱穴も明確なものや不明確なものがあり、やや規格外に欠ける。

なお、小美玉市に隣接する石岡市の東大橋原遺跡⁴⁾や大作台遺跡⁵⁾では、本時期の住居跡が確認されているが、形状は二段の掘り込みをもつ有段式の住居跡である。本時期に多く見られる特徴的な住居跡であるが、当遺跡では確認されていない。

Ⅳ期 中期後葉 加曾利EⅠ式期

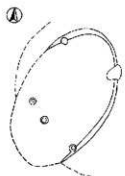
本時期に属する住居跡は、第3・8・13号住居跡である。第3号住居跡は、炉を持たないこと、平面形は方形を基調とすること、壁溝や高い壁を有することなど、前代の要素を多く残しており、阿玉台式期から加曾利E式の過渡期の住居跡と考えられる。第8・13号住居跡は、土器埋設炉を持つ住居跡である。第13号住居跡の炉は、埋設土器の周囲が赤変硬化しており炉床と捉えているが、埋設土器内の覆土では炉床は確認されていない。第8号住居跡と第13号住居跡は、規模や形状、支柱穴と考えられるピットの配置など類似点が多く認められ、住居の画一化がうかがえる。

Ⅴ期 中期後葉 加曾利EⅡ式期

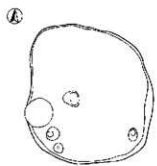
本時期に属する住居跡は、第2・5・6・12号住居跡である。平面形は円形又は楕円形である。第6号住居跡は、重複する遺構があり炉は確認されていないが、他の住居跡からは石四脚⁶⁾、土器片四脚⁷⁾、地床炉が確認され、炉の形態が多様化する時期である。第12号住居跡の炉¹からは、北端と南端から立位で土器片2点が出土しており、抜き取り痕は確認できなかったが、本来は土器片四脚⁷⁾であった可能性がある。出土土器が細片のため時期が細分できなかった第7・10号住居跡も石四脚⁶⁾を持つ住居跡であり、炉の形態から本時期の住居跡の可能性がある。また、第12号住居跡は、柱穴と炉の配置からの推測であるが、長径が8mを超える大形の住居跡と考えられる。本時期の住居跡は、平面形が円形を基調とすることは共通するが、炉の形態が多様化することや支柱穴の配置、規模も大・小があることなどの差異があり、規格外性は認められない。

Ⅵ期 中期後葉 加曾利EⅢ式期

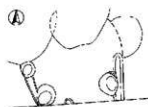
本時期に属する住居跡は、第1・4号住居跡の2軒である。平面形が円形を基調としていることは、加曾利EⅠ式期以来、当遺跡において共通する点である。炉の形態は土器埋設炉と地床炉が確認されている。当該期の集落は炉の形態が多様化するのが一般的であり、前時期に引き続き、集落内では炉の多様化傾向は続くものと考えられる。第1号住居跡の土器埋設炉は、前述した第13号住居跡と同様に埋設土器の周囲が炉床であり、埋設土器内では炉床は確認されていない。このような検出状況を、荒崎克一郎氏は茨城町宮後遺跡の調査から、埋設土器が煮沸用の深鉢等の支えとして利用されたと想定している⁴⁾。



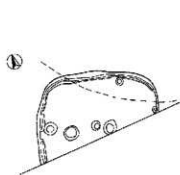
第16号住居跡（阿玉台Ⅱ式期）



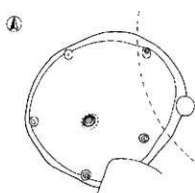
第9号住居跡（阿玉台Ⅱ式期後半）



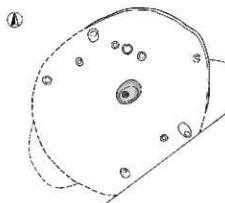
第11号住居跡（阿玉台Ⅱ式期後半）



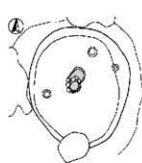
第3号住居跡（加曾利EⅠ式期）



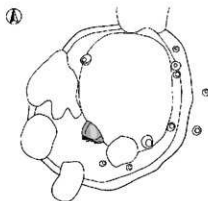
第8号住居跡（加曾利EⅠ式期）



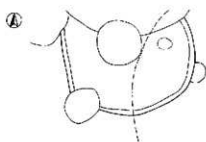
第13号住居跡（加曾利EⅠ式期）



第2号住居跡（加曾利EⅡ式期）



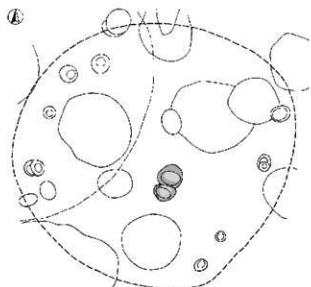
第5号住居跡（加曾利EⅡ式期）



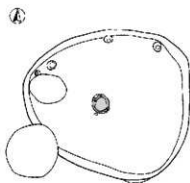
第6号住居跡（加曾利EⅡ式期）



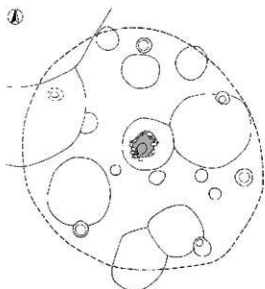
第185図 石川西遺跡竪穴住居跡（1）



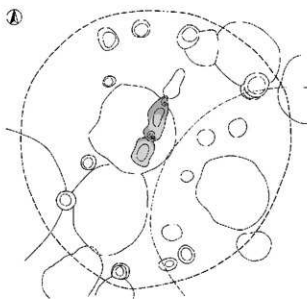
第12号住居跡 (加魯利E II 式期)



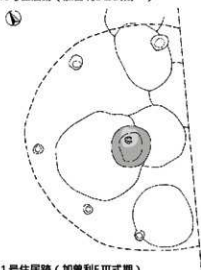
第7号住居跡 (加魯利E II 式期-)



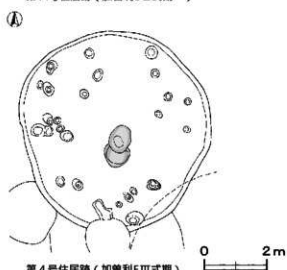
第10号住居跡 (加魯利E II 式期-)



第14号住居跡 (加魯利E II 式期-)



第1号住居跡 (加魯利E III 式期)



第4号住居跡 (加魯利E III 式期)

第186图 石川西遺跡竪穴住居跡(2)

4 結語

今回の調査で、石川西遺跡では、阿玉台Ⅱ式期から集落が形成され始め、加曾利EⅡ式期に隆盛期を迎え、加曾利EⅢ式期以降は急速に衰退していくことが明らかになった。なお、関東・中部地方において、縄文時代中期は環状集落が最も発達する時期であり、県内でも茨城町宮後遺跡⁷⁾で当該期の環状集落が確認されている。当遺跡も遺構の配置から環状集落を形成する集落で、調査区域は集落の北端部にあたると考えられる⁸⁾。

谷津を挟んで対岸の石川遺跡では、当遺跡よりやや先行する阿玉台Ⅰb～Ⅱ式期の住居跡が確認されているが、その後は称名寺式期に至るまで遺構は確認されていない⁹⁾。集落の移動が想定されるが、今後は遺構や出土土器などの両遺跡の比較検討が必要であろう。

また当遺跡からは、浮子や200点弱の土器片鏝が出土しており、これらの魚網具から内湾性漁業に携わる人々の集落であったと考えられる¹⁰⁾。こうした生業を営む人々がどのような集落を形成していったのか、当遺跡のさらなる詳細な分析と周辺遺跡との対比をしながら、究明していくことを今後の課題としたい。

註

- 1) 大川清・鈴木公雄・工業書通編『日本土器辞典』雄山閣 1996年12月
- 2) 高老原部雄「梨木平遺跡 一第1次～第4次発掘調査の総括～」『上河内村文化財調査報告』第6集 1986年9月
- 3) 鈴木美治「阿玉台期における壑穴住居跡の形態についての一考察」『年報3』茨城県教育財団 1984年3月
- 4) a 川崎純徳・高老沢総編『石岡市東大橋原遺跡第1次調査報告』石岡市教育委員会 1978年3月
b 川崎純徳・高老沢総編『石岡市東大橋原遺跡第2次調査報告』石岡市教育委員会 1979年3月
c 川崎純徳・高老沢総編『石岡市東大橋原遺跡第3次調査報告』石岡市教育委員会 1980年3月
- 5) 川崎純徳・高老沢総編『茨城県石岡市大作台遺跡発掘調査報告 一縄文中期阿玉台式の住居址・土器群一』茨城県石岡市教育委員会 1981年3月
- 6) 荒崎克一郎「茨城町宮後遺跡における縄文中期壑穴住居跡の形態について 一炉跡の形態を中心として一」『研究ノート』第11号 2002年6月
- 7) a 川又清明・野田貞直・吹野富美夫・浅野和久「宮後遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第188集 2002年3月
b 和田清典・吹野富美夫・浅野和久・荒崎克一郎・駒澤悦郎「宮後遺跡2 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第240集 2005年3月
- 8) 今回の調査区域と隣接する台地南側を、茨城県教育庁文化課が平成17年にトレンチによる試掘調査を実施している。調査結果によれば重複する複数の住居跡が検出されている。住居跡の確認面から出土している土器を実見したが、今回の調査で出土した土器とほとんど時期差はなかった。
- 9) 小野政美・前島直人「石川遺跡 石川塚 旧百景原海軍飛行場掩体壕群 茨城空港テクノパーク整備事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第320集 2009年3月
- 10) 西辺誠『縄文時代の漁業』雄山閣 1973年2月

参考文献

- ・日黒吉明「住居の伊」『縄文文化の研究』第8巻 社会・文化 雄山閣 1982年5月
・黒沢秀雄「茨城県の縄文時代中期のプラスチック土坑について 一西茨城郡岩瀬町奥山遺跡を例として一」『研究ノート』第3号 茨城県教育財団 1994年6月

- ・縄文時代研究班「茨城県における縄文時代中期前半の住居跡形態について」『研究ノート』第4号 茨城県教育財団 1995年6月
- ・縄文時代研究班「関東地方における縄文時代中期の「有段式竪穴遺構」について」『研究ノート』第5号 茨城県教育財団 1996年6月
- ・瓦吹 堅「茨城県における縄文時代集落の諸様相」『第1回研究会基礎資料集 列島における縄文時代の諸様相』縄文時代文化研究会 2001年12月
- ・谷口康浩『環状集落と縄文社会構造』学生社 2005年3月
- ・塚本節也「茨城県における袋状土坑研究の視点」『考古学の深層 - 瓦吹堅先生還暦記念論文集 -』瓦吹堅先生還暦記念論文集刊行会 2007年1月
- ・塚本節也「茨城県北部における出現期の袋状土坑について」『茨吹渡 - 川井正一・齋藤弘道・佐藤正好先生還暦記念論集 -』川井・齋藤・佐藤先生還暦記念事業実行委員会 2007年2月

写 真 图 版



土器片錘



遺跡遠景（西方上空から）



調査区全景



第 1 号住居跡
炉遺物出土狀況



第 1 号住居跡
浮子出土狀況



第 2・5 号住居跡
完掘狀況

第 2 号住居跡
炉完掘狀況



第 3 号住居跡
完掘狀況



第 4 号住居跡
遺物出土狀況

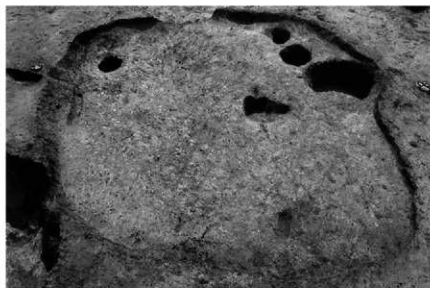




第 7 号住居跡
完 掘 状 況



第 8 号住居跡
炉 完 掘 状 況



第 9 号住居跡
完 掘 状 況

第 10 号 住 居 跡
炉 完 掘 状 况



第 13 号 住 居 跡
炉 土 層 断 面



第 3 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



PL 6



第 6 号 土 坑
完 掘 状 况



第 10 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 19 号 土 坑
完 掘 状 况



第 22 号 土 坑
完 掘 状 况



第 28 号 土 坑
完 掘 状 况



第 29 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 29 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 29 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 33 号 土 坑
完 掘 状 况

第 41 号土坑
遺物出土狀況



第 41 号土坑
遺物出土狀況



第 43 号土坑
遺物出土狀況





第 43 号 土 坑
土 層 断 面



第 47 号 土 坑
土 層 断 面



第 49 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况

第 50 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 51 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 59 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况





第 68 号土坑
遺物出土狀況



第 69 号土坑
遺物出土狀況



第 69・85 号土坑
完掘狀況

第 73 号 土 坑
完 掘 状 况



第 78 号 土 坑
完 掘 状 况



第 98 · 99 号 土 坑
完 掘 状 况





第 98 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 99 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 105 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

第 111 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

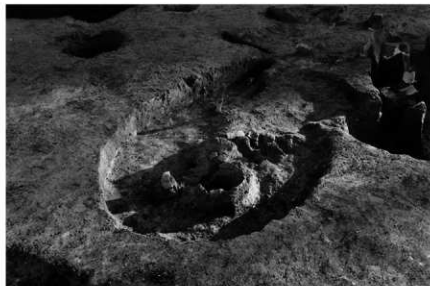


第 114 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 120 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况





第 1 号 炉 跡
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 遺 物 包 含 層
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 遺 物 包 含 層
遺 物 出 土 状 況



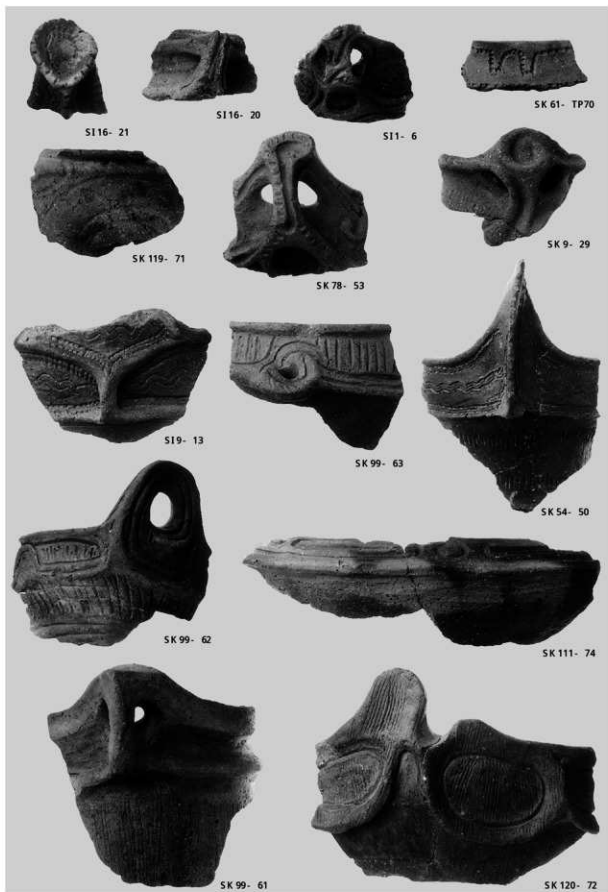
第1·2·6·8号住居跡出土土器



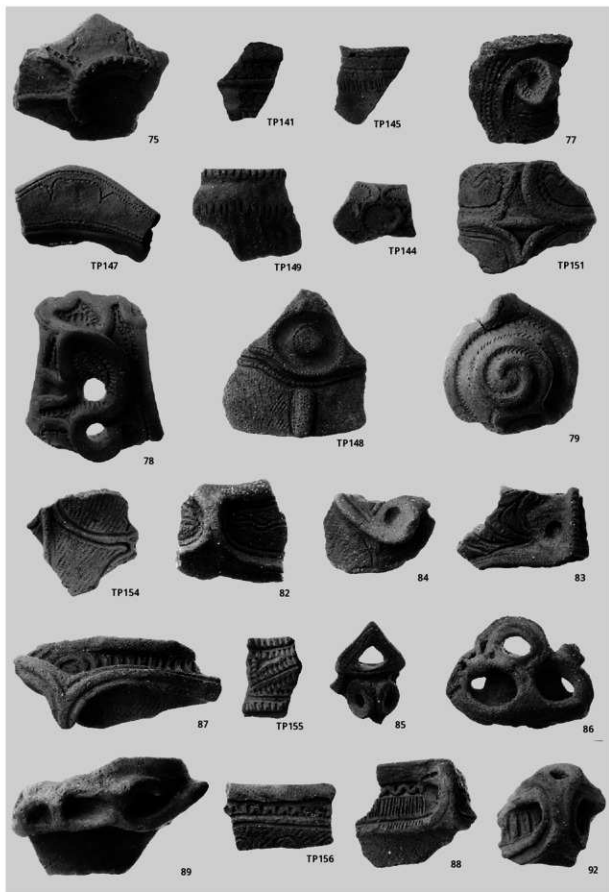




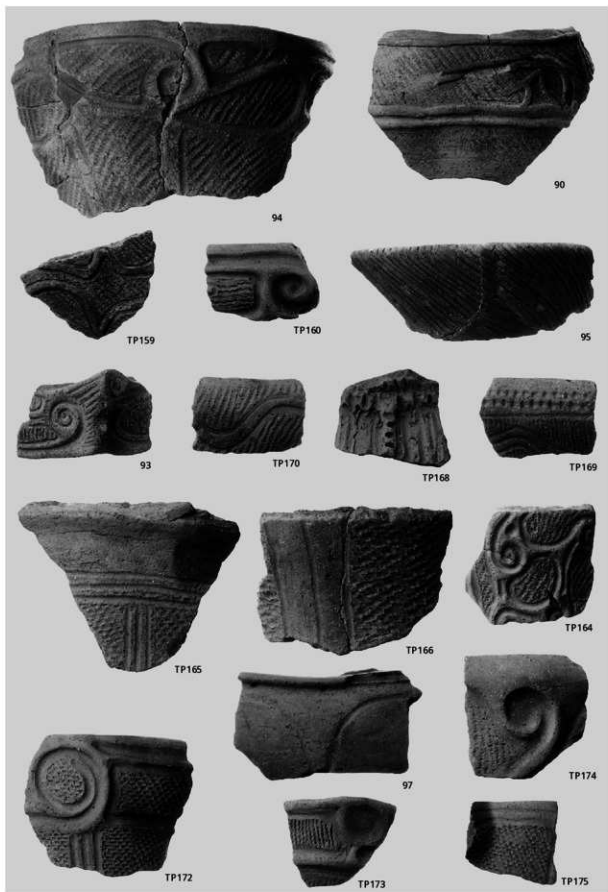
第86・98・99・111号土坑，第1号遺物包含層，遺構外出土土器



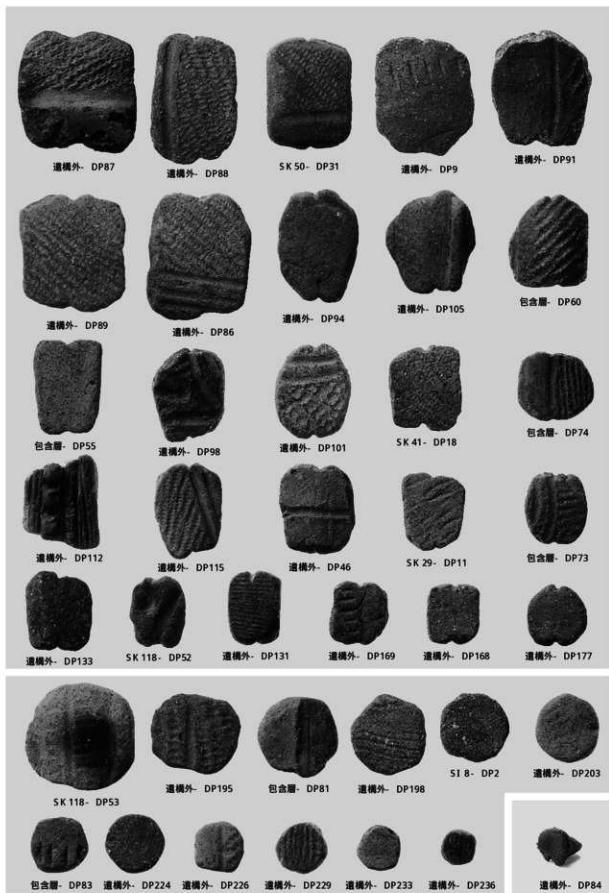
第1・9・16号住居跡，第9・54・61・78・99・111・119・120号土坑出土遺物



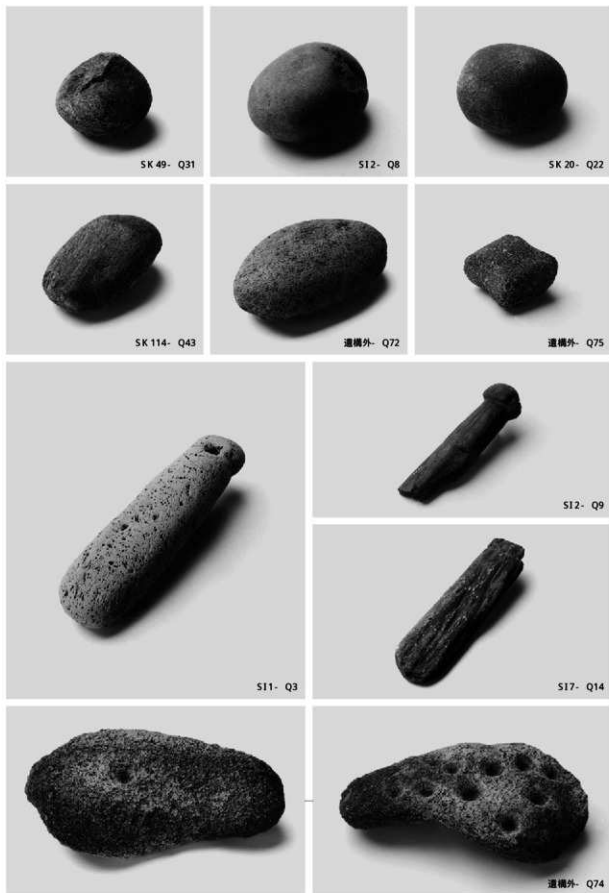
第1号遺物包含層出土遺物(1)



第1号遗物包含层出土遗物(2)

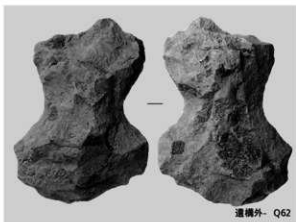
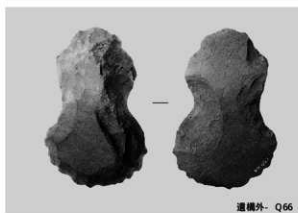
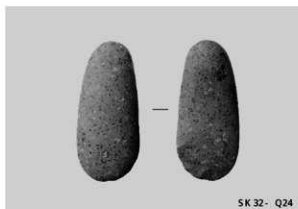


土製品 (土器片錘・土器片円盤)

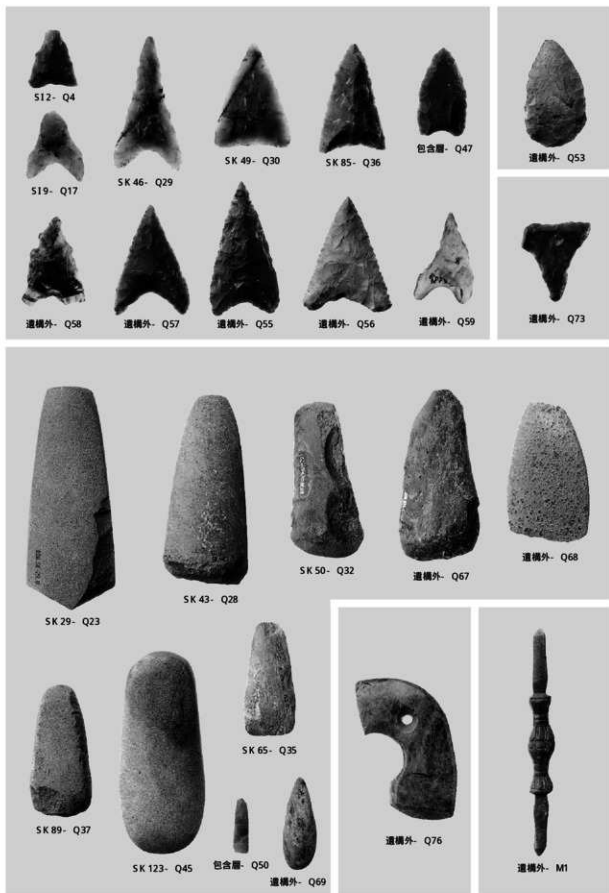


石器（凹石・磨石・敲石・砥石），石製品（石棒・浮子）





石器（打製石斧）



石器（尖頭器・石錐・石鏃・磨製石斧），石製品（垂飾），金屬製品（獨站杵）

抄 録

ふりがな	いしかわにしいせき								
書名	石川西遺跡								
副書名	茨城空港テクノパーク整備事業地内埋蔵文化財調査報告書								
巻次	Ⅱ								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第321集								
著者名	小川貴行								
編集機関	財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行年月日	2009(平成21)年3月23日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
石川西遺跡	茨城県小美玉市下吉 影字石川2192番15ほか	08236 - 303228	36度 11分 00秒	140度 26分 05秒	20 - 28m	20060401 - 20061031	8,000㎡	茨城空港 テクノパーク 整備事業に伴う 事前調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
石川西遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡 土坑 ピット 炉跡 遺物包含層	15軒 87基 6か所 1基 1か所	縄文土器、土製品(土器片 鏝・土器片円盤)、石器(播 磨石・石鏝・打製石斧・磨製石 斧・石皿・磨石・敲石・凹 石)、石製品(石棒・浮子)		魚網具である浮子や200 点弱の土器片鏝が出土し ている。		
	その他	時期不明	溝跡 井戸跡 土坑 ピット	5条 2基 29基 25か所	縄文土器、土器器、須恵器、 土製品(耳栓)、石器(尖頭 器・石鏝・石杖)、石製品 (垂飾)、金属製品(独結杵・ 煙管)				
要約	縄文時代中期中葉から後葉にかけての集落跡であり、石囲炉や土器埋設炉を持つ住居跡や貯蔵穴と考えられるフラスコ状土坑が多数検出された。調査区域外に中心を持つ環状集落の北端部にあたる想定される。								

茨城県教育財団文化財調査報告第321集

石川西遺跡

茨城空港テクノパーク整備事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成21（2009）年3月18日 印刷
平成21（2009）年3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL. 029-225-6587

印刷 拓平電子印刷所
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13番地
TEL. 0246-23-9051